

SDGsスタディツアー報告書
インドネシア・バリ島で学ぶサステイナビリティ
2021年8月30日～9月2日

～SDGsのその先を一緒に思い描く～

2021年度スタディツアー
参加学生一同
聖心女子大学 永田佳之研究室
(教育学科)

SDGsスタディツアー報告書
インドネシア・バリ島で学ぶサステナビリティ
2021年8月30日～9月2日

～SDGsの先を一緒に思い描く～

2021年度スタディツアー参加学生一同
聖心女子大学 永田佳之研究室（教育学科）

はしがき

主に発展途上と称される国へのスタディツアーを年に1～2回ずつ実施して15年目になる。最近では、2020年2月、新型コロナウイルスの感染が世界を席卷する直前に赴いたスリランカでのツアーであった。以来、実施を断念せざるを得ない状況が続いていたので、学生たちに本年度は実施しないと伝えてみた。すると、「海外スタディツアーに参加したくて聖心女子大に入学したのに・・・」というメッセージが次々と届いた。結局、幾人かの学生の声に突き動かさる形でオンライン開催という苦肉の策を講じたのが今回の「SDGs スタディツアー ～インドネシア・バリ島で学ぶサスティナビリティ～」であった。

現地に滞在してこそ、人々や自然、文化に触れ、何よりも授業で学んだ問題を目の当たりにすることにより、染み入るような学びが実現されるのに、平たい画面越しの学びがどこまで深まりをもたらすのかは全く未知数であった。しかし、蓋を開けてみれば、SDGs で標榜されている「変容（トランスフォーメーション）」、つまり価値観の次元での変化が学生に起きたのである。「なぜ人間は環境をこわし続けるのか?」「本当の豊かさとは何か?」「より良く生きるとは?」などの〈正答〉のない問いに学生たちは出会い、ある参加学生の声借りるなら、「問いが自分の中から次々と湧き出てくる体験」を全員がしたと言えよう。

現地を実際に訪れるツアーに勝るとも劣らぬ変容はどうして起きたのか。本報告書の感想文や事後のアンケートを読んでもみると、今回のツアーのテーマである SDGs について、その知識や思考スキルを教えるという発想から離れ、バリ島で「SDGs を生きる人」のライフヒストリーを通して学生たちが自己を相対化したことが大きく作用しているように思えてきた。さらに、深く学び続ける学生たちと接した講師も自らを捉え直すという〈変容の好循環〉が生じ、気づけば教え手と学び手という垣根が消えていたような終盤となった。

アンケートを見ると、100%が「とても満足」と回答している。こうした成果をもたらしたのは、なにはともあれ、今回ホストとなったバリ島を拠点に活動する Earth Company スタッフの心温まる眼差しと次世代と持続可能な未来を共につくるという気概に負うところが大きい。特に、今回の構想段階からお世話になり、4日間のコーディネート役をお務めいただいた濱川知宏さん及び藤本亜子さん、ゲストスピーカーとしてライフストーリーを語りかけて下さった Earth Company 共同代表の濱川明日香さん、會田貴美子さん、中村俊裕さん、望月小百合さん、美味しいバリ料理を教えて

下さった Wayan さん、小道ライブや Mana ツアーをサポートして下さった Nurwantini さんにこの場を借りて心よりお礼を伝えたい。

コロナ禍の中、打ちひしがれた学生たちがいかに深い次元で元気を取り戻し、勇気を授けられ、希望を分かち合うに至ったのか — この報告書を通して彼女たちの変容の一端をお伝えできれば幸いである。

2021 年度 SDGs スタディツアー世話人
聖心女子大学 現代教養学部・教授
永田佳之

目次

はしがき	i
目次.....	iii
1. SDGs スタディツアー参加者	1
2. インドネシア共和国の基本情報	2
【コラム①】 バリの日常	3
3. 旅程（スケジュール）	4
4. ツアーの目的とバリ島の現状や課題.....	7
【コラム②】 Green School って？	8
5. Earth Company について.....	9
5-1 Earth Company の取り組み.....	10
5-2 エコホテル Mana について	14
【コラム③】 Be-Do-Have	17
6. ゲストスピーカーの紹介	19
【コラム④】 ニュピ°	25
7. 感想	27
【コラム⑤】 バリ料理	40
8. プレゼンテーション資料	43
9. フォトギャラリー	107
10. Internal Reflection（アンケート）	113
11. Earth Company の皆さんへのお手紙.....	141
むすびにかえて	149

1. SDGs スタディツアー参加者

【学生】

- ・ 荒谷菜津美 Natsumi Araya 基礎課程 1年
- ・ 近藤亜紀 Aki Kondo 基礎課程 1年
- ・ 小出幸果 Sachika Koide 教育学科初等教育学専攻 2年
- ・ 塚田紗來 Sara Tsukada 教育学科教育学専攻 2年
- ・ 三浦さくら Sakura Miura 教育学科教育学専攻 2年
- ・ 岡田梨緒 Rio Okada 教育学科教育学専攻 4年
- ・ 松岡詩乃 Shino Matsuoka 教育学科教育学専攻 4年
- ・ 奈良明日香 Asuka Nara 教育研究領域 博士前期課程 1年

【教員】

- ・ 永田佳之 Yoshiyuki Nagata 聖心女子大学現代教養学部教育学科教授

【ホスト】

- ・ 濱川知宏 Tomohiro Hamakawa Earth Company 共同代表
- ・ 藤本亜子 Ako Fujimoto Earth Company プログラム・マネージャー

2. インドネシア共和国の基本情報

正式名称：インドネシア共和国

首都：ジャカルタ

面積：約 192 万平方キロメートル

(日本の約 5 倍)

人口：約 2.70 億人 (2020 年、

インドネシア政府統計)



民族：大半がマレー系 (ジャワ、スンダ等約 300 種族)

言語：インドネシア語、バリ語 他

宗教：イスラム教 86.69%、キリスト教 10.72% (プロテスタント 7.60%、カトリック 3.12%)、ヒンズー教 1.74%、仏教 0.77%

元首：ジョコ・ウィドド大統領

政体：大統領制、共和制

通貨：ルピア

主要産業：製造業 (19.8%) 商業・ホテル・飲食業 (15.4%)

農林水産業 (13.7%) : パーム油、ゴム、米、ココア、キャッサバ、
コーヒー豆など

在日インドネシア人：61,051 人 (2019 年 6 月末現在)

参考文献

・ 外務省ホームページ「インドネシア基礎データ」

〈<https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html>〉 (2021 年 11 月 26 日参照)

・ インドネシアコーナーホームページ「インドネシア観光案内」

〈<https://indonesia-corner.com/sightseeing/>〉 (2021 年 11 月 26 日参照)

【コラム①】バリの日常

インドネシアのバリ島と聞くと観光地というイメージを持つ方も少なくないのではないのでしょうか。もちろん、観光業も盛んで賑わっていますが現地の人々の暮らしについて考えたことはありますか？現地に住む人々はどのような日常を送っているのか、ここではバリの日常についてご紹介します。まず、バリ島にはガムランという楽器を使った演奏が日常的にあります。このガムラン音楽は、楽譜ではなく耳で伝承していくという特徴があり、楽器ごとに「ド」の音が違うこともあるそうです！また、バリ島ではお香をたくことも日常的に行われています。バリでは朝・昼・晩と祈りをささげる習慣があり、その祈りの時にお香をたくそうです。バリ人は毎日多くの数のお香をたくので、お店にあるお香の種類もバラエティー豊富。中でもバリでは「プルメリア」や「チャンティカ」という花の香りが好まれているようです。食べ物においては私たちが一日目に作ったピサン・ゴレンはバリのお菓子、二日目に作ったサンバルマタはバリ島料理には欠かせない調味料としてメジャーなものです。そしてインドネシア自体がバイクの保有率が高く Akoさんが、セッションが始まる前にしてくださったライブも実際にバイクでバリ市内を走って紹介してくださりました。最後に、スタディツアーを受けている中で、ココナッツが木から落ちる音や鶏の鳴き声が多く聞こえてきました。東京に住んでいると絶対に感じる事のない自然を耳から感じましたが、バリでは人が高いココナッツツリーから降りてくることは日常のようです。

3. 旅程（スケジュール）

Day 1 8/30 13:00～16:00（12:45～小道ライブ）

【テーマ】 Earth Company のストーリー

1. イントロダクション
2. Aska Life Story
3. Tomo Life Story
4. リフレクション
5. クッキングクラス ピサン・ゴレンを作ろう

Day 2 8/31 13:00～16:00（12:45～市場ライブ）

【テーマ】 バリ島のストーリー

1. チェックイン&メディテーション
2. Earth Company について
～休憩～
3. バリ島の暮らし・課題の紹介
4. Mana Earthly Paradise
～休憩～
5. Mana ツアーでエコ施設紹介
6. リフレクション
7. クッキングクラス サンバルマタを作ろう

Day 3 9/1 13:00～18:00（12:45～お供えライブ）

【テーマ】 バリ島に住む様々な人のライフストーリー

1. チェックイン&メディテーション
2. Be-Do-Have セッション
3. Green Schoolに通う小学生りお君のお母さん きみさん
～休憩～
4. コペルニク創設者 としさん
～休憩～

5. 小学校教諭 さゆりさん

～休憩～

6. リフレクション

Day4 9/2 13:00～18:00 (12:45～サワスラティ寺院、王宮、果物屋ライブ)

【テーマ】振り返りと共有の日

1. チェックイン&メディテーション

2. 全体の振り返り

3. 個人の振り返り&発表準備

4. 共有の時間

+仲間からのフィードバック

+永田先生・Tomoさん・Akoさんからのフィードバック

5. 最後の振り返り

4. ツアーの目的とバリ島の現状や課題

今回の四日間のスタディツアーの目的は、SDGs のその先を一緒に思い描くことです。SDGs はゴールでは決してなく、その先の未来に私たちは、どんな世界の在り方、状態を目指したいのかを考えることがとても重要になってきています。

そして今回のスタディツアーの舞台となったのはバリ島でした。バリ島と聞いて、「華やかな観光地」という印象を持つ人は少なくないでしょう。もちろん間違いありません。バリ島は豊かな自然や文化が多くあり、世界的なリゾートアイランドとして位置づけられています。豊かな自然はもちろんのこと、スパイスが効いた料理や美しい海でのマリンスポーツを体験できるので、年間多くの観光客がバリ島に訪れています。パンデミックの2020年を除き、観光客数は年々増加していました。また、中国、オーストラリア、インド、日本からの観光客が多くなっています。観光による収入はバリ島経済の80%を占めていて、バリ島でくらす人々の生活を支えています。そんなバリ島ですが、四つの問題に直面しています。まず一つ目が水不足です。観光施設の水の使用量は莫大で、バリ島で利用できる水の65%を観光客が使用しています。加えて気候変動によって、雨が少なくなり土地が枯れはじめ、バリ島は伝統的な米づくりの島でしたが、乾燥した土地でも栽培できるコーンに田んぼの一部を変更するようになってしまいました。二つ目は外国人による開発です。海岸沿い、いわゆるリゾートエリアの土地の80%は海外の投資家が購入済みであり、その土地の開発により自然破壊、水不足が生じ、たとえ観光施設ができて、地元の人は低賃金の職にしか付くことができない、という負のサイクルが生まれています。物価も上がり、ますますバリ島で暮らす人を苦しめているのです。三つ目はゴミ問題です。インドネシアでは廃棄物管理のインフラが整っていません。バリ島南部にある最大のごみ埋め立て地Suwung（スウォン）では、海岸に30haのごみ山があり、そのごみ山の脇の小屋で100以上の家族がごみの分別をして生計を立てていますが、その辺りでは悪臭が漂い、深刻な健康被害が生じています。しかし、観光客が出す1日のごみの量は3.7kg、バリ人が出す量は0.7kgで、観光業がもたらしている負の側面が見受けられます。そして最後の四つ目が貧困と教育です。Suwungで暮らす子どもたちは、親の分別を手伝い学校に行くことができていないのです。この四つの問題を解決する為には、経済・社会システムの変革が必要であると考えられます。バリ島の良さを活かしつつ、システムの変革に取り組んでいるのが、一般社団法人 Earth Company です。

【コラム②】 Green School って？

皆さん、「学校」と聞いて、何を思い浮かべますか？コンクリートの建物、外には校庭が広がり、教室の中には机や椅子が等間隔に並べられ、スーツを着た先生が黒板の前に立って国語や算数、理科の授業をして、、、多くの人がこの様なことを思い浮かべると思います。しかし、バリ島にある Green School と呼ばれる学校は、自然に囲まれるサステイナブルな学校です。ボルテックスという水力発電を取り入れたり、地域の人も利用できるリサイクルセンターがあるなど、学校全体で取り組んでいます。自分の持つ考えの土台にサステイナブルを持って欲しい、という思いからお子さんを Green School に通うことにしたキミさんは、Green School に通う子どもたちは自己表現が上手く、人を動かす力に長けている、とお話しされていました。Green School では違いを個性として受け入れられ、互いを尊重し合う関係性を、自然と築くことができると思います。バリ島、ニュージーランド、そして 2021 年に 3 校目となる南アフリカ校が開校しました。グリーンスクール卒業生の子ども達が今後どの様に活躍されていくのか楽しみです！

5. Earth Company について

5-1 Earth Company の取り組み

5-2 エコホテル Mana について

5-1 Earth Company の取り組み

スタディツアーを実施して下さった Earth Company は、「この地球は先祖から受け継いだのではなく、私たちの子どもたちから借りている」という言葉を掲げている。「借りている＝いつかは返さないといけない地球」において次世代につなぐ未来を創る組織だ。誰かが豊かになればなるほどどこかで社会課題や環境問題が生まれてしまう社会システムから地球上全ての命のウェルビーイングを向上する環境を築くためにはどのようにしたらよいのか。Earth Company の取り組み「IMPACT HERO」を紹介する。

IMPACT HERO

7つの条件：社会課題の当事者

信念や情熱を持つ

地域の「希望の星」として地域に根付くコミュニティリーダーである

世界の人の心を動かして行動に導くインスパイア力を持つ

国内外の多くの人からの信頼を得て社会を動かすリーダーシップを持つ

他の誰にも代われない、唯一無二の存在である

従来のモデルに替わる、環境と共存する新しい未来を創ろうとしている

上記の条件を兼ね備えた人を1年に1人選び、3年間、資金調達や広報、ビジネスをつくるなどの支援をしている。支援期間である3年間の終了後も、3年以上の関係を築き、人とのつながりで世界を変えていけるようにサポートし続けている。個人や企業からの寄付額は1億6,962万円(2021年8月)だ。アジア太平洋の5か国で8施設を建設し、4カ所で災害支援を行った。

私たちはスタディツアー後の授業で今までの IMPACT HERO について学び、想いを共有し合った。下記において、各 HERO への強い想いを紹介する。

Bella Galhos

東ティモール、環境教育

2015年に東ティモール初の環境学校を設立。その後、レストランや宿泊施設を併設するルプロラ・グリーン・ヴィレッジへと発展させた。子どもたちの育成と地域経済の持続可能な発展に貢献した。



見返りを求めない愛や分かち合いの精神は、人々の心に記憶として永遠に生き続けるものであると分かり、生きる上で昔と変わらず今後もとても大切なことであると、ベラさんのお話を読んで感じました。また、どんな苦しい状況や暴力からも耐え続け、祖国を変えたい、という強い意志を持ち続けた姿に感銘を受けました。ベラさんから伝わる大きな愛は様々な困難を乗り越え平和の中で生まれたものであると思いました。

Sachika



Robin Lim

インドネシア・フィリピン、保健医療

一般医療、代替医療、教育、環境プログラム、コミュニティ開発を手がける。社会的弱者の「駆け込み寺」となり、全額寄附で成り立つ奇跡の国際助産院ブミセハットを設立。

私は彼女の行動力に驚かされました。お母さんと赤ちゃんに寄り添ったお産を大切にしています。そして人生の数々の経験から導かれたかのように助産院を設立すると共に、地震や噴火、台風などの自然災害時にも現地へ向かって診療をしたり、医療支援をしたりしました。私は「愛が人と人を繋いでいる」という言葉が強く印象に残っています。私たちは愛によって人との関係を築いています。いつ人生最後の日が来るのかわからない中で、様々なことに精一杯愛を注いで生きていきたいです。

Sara

Kathy Jetñil-Kijiner

マーシャル諸島、気候変動

気候変動により故郷や文化の水没の危機から自国を守るため、次世代環境リーダーを育成するプログラムを実施。ポエムやスピーチで気候変動に対する訴えている。



詩を読むことによって、その表現の仕方や呼びかけるような口調から、ありのままの思いが伝わるので、とても心に響くものだと思います。「未来は変えられる」と信じ、未来への希望を力強く訴える彼女の詩は、本当に多くの人を動かす力になると感じました。“Dear Matafele Peinam”という、彼女の娘に向けて話しかけるように書かれた詩は、動画でも見られるので、ぜひ沢山の人に見ていただき、感動してもらいたいです。

Aki



John-Pierre Montilla

インドネシア、土地再生

独自の更生プログラム、「Gabay Foundation」を設立。薬物や売春からの更生支援や HIV エイズに関するワークショップを開催。

今まで、私はストリートチルドレンとは貧しい家庭に生まれたがゆえ生まれてしまうと思っていました。しかしそうとは限らず親から捨てられ、ストリートチルドレンになってしまった子どもも多くいる現状を知りました。

John さんの文章で 1 番印象に残った言葉は“雲の向こうに太陽はまだ輝いている”というものです。今は闇の状態でも希望は絶対存在するからこそ自分は活動し続けるという強いメッセージが伝わりました。

Sakura

Wai Wai Nu

ミャンマー、民族間の平和構築

ミャンマーの少数民族のための教育施設を設立。偏見や差別のない平和な社会を築く次世代リーダーを育成している。



「売春ではない未来を切り開くために教育は必要だ」

私たちの住む日本では、なぜ教育は必要なのかという問いに対し“売春”という言葉が出てくることはないでしょう。また、多くの人が学歴のためと答えるかもしれません。ですが、学歴の話以前に、発展途上国に住む人々は生きていくために自分の体を売ったり犯罪に手を染めてしまったりということが日常であるということ、更生しようとしても簡単にはできないことを知りました。ウェイウェイさんだけでなくインパクトヒーローの話は「教育は最大の武器である」という言葉を彼らの経験から鮮明に伝えてくれました。 Natsumi

写真)Earth Company 提供

参考文献

- ・一般社団法人 Earth Company(2019)『Impact Stories 世界の未来を変えるチェンジメーカーたちが人生をかけて SDGs に取り組むその理由』

5-2 エコホテル Mana について

Mana とは？

ポリネシアでは、人、自然、土地に宿る「力や魂」という神聖なエネルギーのことを示す。

人間が地球に対して愛を持ち地球の Mana を尊重していたとすれば…という思いからこのエコホテルを「Mana Earthy Paradise」と名付けられている。



MANA EARTHLY PARADISE

次世代につなぐため、「楽しさ」を第一に考えてサステイナブルトリップを広めている。観光客が1日に2,500Lの水を使うのに対して、地域の人々は180Lの水を使用しているなど、観光業での環境問題は大きな課題である。そこでMANA EARTHLY PARADISEを解決策の1つとして、観光業を地域の経済発展となるように取り組んでいる。

-mana eco villas



客室となる mana eco villas では、太陽光パネル、排水ガーデン、浄化槽を建物に備えている。竹と草を使用した屋根やアースバックの壁、古い廃材で作られたドア、ゼロウェイストマットレス、サステイナブル木材のある部屋内は快適に過ごせる。太陽光パネルで集めた太陽光を 100%集めた照明が部屋を照らしてくれる。

-mana kitchen

食事を提供する mana kitchen では、畑で育てた在来種の野菜を使用し、農薬、化学調味料、遺伝子組み換え、F1 の種、レンジ不使用の料理を味わうことができる。体と自然に優しい食事は、コンポストを利用するなどの命の循環から成り立っている。



-mana market



「買えば買うほど世界が良くなる」をコンセプトとしているお店 mana market では、organic、eco、ethical、social、local の 5 つのエレメントを大切にしている。廃油で作られた食器洗い洗剤や計り売りのソープ、地元のおばちゃんの計り売りスパイスなど様々な商品を展開している。

地元に根付き、エシカルなものを率先して販売して販売のモデルリーダーとなることで、地元の生活もエシカルに変容していき、経済を潤す効果もある。

〈循環型施設の 5 つ的用法〉

1. 革新的なアースバック用法
2. 施設内の照明は太陽光発電
3. 水は雨水利用
4. 排水は植物に
5. 廃材で建てた施設



写真)Earth Company 提供

【コラム③】 Be-Do-Have



出典)Earth Company スライド資料

とあるお金持ちの実業家がメキシコを旅行中に1人の漁師を目にします。まだ昼過ぎにも関わらず漁師は魚を少量だけ抱えて仕事を切り上げる様子です。そこでお金持ちは漁師に声をかけました。

「おい君、もう漁は終わりかい？まだ仕事を切り上げるには早い時間だし、魚だってそれっぽっちしか捕れていないのに。」

すると漁師はこう答えます。

「ええ、いいんですよ。私と妻と子供たちが食べるにはもう十分です。それに私はこれから帰って昼寝をし、仲間と一杯やってから夕飯を食べ、子供たちと遊んだのちに読書をしてゆっくりしようと思っています。これくらいの時間に帰るのがちょうどいいんです。」

この話を聞き、お金持ちは焦ったようにアドバイスします。

「君、そんな生活ではもったいないぞ。私の言うことを聞けばもっと稼げるようになって、もっと良い生活ができるようになるはずだ。」

さらにお金持ちは続けます。

「まず漁をする時間を夜まで延ばそう。そうすれば今の3倍は仕事ができ収穫量は3倍になる。自分たちで食べる分以外は人に売ってお金を得る。そして

ある程度儲かったら漁船を買うんだ。人を雇って漁船で漁をすれば収穫量はうんと増える。君は社長になって今の何十倍も稼ぐことができるんだ。」

その話を聞いて漁師は逆に問います。

「そんなに働いてそのあとはどうするのですか？」

「最終的には会社を誰かに売却するんだ。君のもとには何億ものお金が入ってくるだろう。そうすれば君は働かずに済んで、悠々自適な生活ができるようになるのさ。」

漁師はもう一度質問します。

「働かずに悠々自適な生活とは、どんなものなのでしょうか。」

「自由な生活だよ！何をしたり構わない。例えば好きな時間に昼寝をして起きたら仲間たちと一杯やったり、子供たちと遊んだり読書にふけて過ごしたりすればいいのさ。」

この二人の違いは何でしょうか？

お金持ちは、仕事をして (Do) お金や名声を得て (have) から充実感のある (Be) 人生を送っており、同じような人生を漁師に勧めています。このような「Do-Have-Be」の生き方が、従来は望ましいとされてきました。しかし頑張る多くを得た先に、本当に幸せは待っているのでしょうか。

一方、漁師は既に満足のいく生活を送っていて (Be) 、そのために働き (Do) 、必要な物を得ています (Have) 。お金や名声には無頓着です。このような「Be-Do-Have」の生き方においては、必要以上に何かを求めることはありません。なぜなら、どんな時に自分が幸せか (Be) を既に知っていて、そのために行動する (Do) からです。

6. ゲストスピーカーの紹介

濱川 明日香 (Aska さん)

會田 貴美子 (きみさん)

中村 俊裕 (Toshi さん)

望月 小百合 (さゆりさん)

濱川 知宏 (Tomo さん)

藤本 亜子 (Ako さん)



出典) Earth Company HP「チーム紹介」
<https://www.earthcompany.info/ja/ourteam/>

濱川 明日香 (Aska さん)

Earth Company 共同創設者、共同代表。

ボストン大学卒業後、プライスウォーターハウスクーパーズに勤務。ハワイ大学大学院にて太平洋島嶼国における気候変動研究で修士号取得。

未来に「変革」を起こす彼らを後方支援することで、私たちの子供達、そしてそのさらに先の世代に残せる豊かな未来を創造することを目的に、2014 年一般社団法人 Earth Company 創設。

Aska さんからのメッセージ

みなさん、4 日間のスタディツアー、おつかれさまでした。みなさんからのメッセージを、一字一句読ませていただき、ただ、心底感動しています。今回震えた心と、感じたことを、これからもずっと大事にしていって欲しいと思いました。

「知識」や「情報」なんて、Google にも Youtube にも溢れているので、要は欲しくなれば取りに行けば良いだけで、一番肝心なのは、生きることの本質、見えないけど大事なこと、それだけと言っても過言ではないと思っています。そういう意味では、みんなは、もうそれが見えているのだと思います。それで、もう良いと、私は思います。あとは人生をかけて、それを深めていくだけ。

人間一人ひとり決して強くない。でも絆を築けるから、分かり合えるから、繋がれるから、強いのです。みんなの感受性と、純粹さと、吸収力と、つながる力があれば、世界は大丈夫だと、思えます。今後のみんなが楽しみです！私たちとも繋がり続けて、たまに連絡くださいね！応援しています。



會田 貴美子 (きみさん)

二児の母。

小林聖心女子学院高等学校を卒業後、大阪大学で物理学の宇宙地球学を専攻。

大学院を中退後、リクルート社に入社し、広告×不動産業界で12年間勤務。

2019年にバリ島に移住し、Green Schoolの一保護者でもある。

きみさんからのメッセージ

あすかさん、あきさん、なつみさん、りおさん、さちかさん、さくらさん、さらさん、しのさん。このスタディツアーが、みなさんのネクストアクションのヒントになったら嬉しいです。沢山もがいてくださいね。もがいていると、その姿に共感した「仲間」ができます。信じ合える仲間ができれば、「ほしい未来」はどんどん具体的になります。そして未来に進むスピードもあがります。みなさんのほしい未来が、叶いますように。



中村 俊裕 (Toshiさん)

出典) コペルニク HP「チームメンバー」
<https://kopernik.info/jp>

コペルニク共同創設者。

京都大学法学部卒業、英国ロンドン経済政治学院比較政治学修士号取得。

国際協力をより効果的なものにするというビジョンのもと、2010年コペルニク創設。ラストマイルー途上国の最も支援が行き届きにくい地域ーにおいて、革新的な解決策の開拓、検証、普及を行い、人々の生活向上を支援。著書『世界を巻き込む』（ダイヤモンド社）。

Toshi さんからのメッセージ

大学時代は、リスクなしで色々なことに挑戦出来る、人生でも稀な時期なので、是非とも興味のあることを色々試してみてください。やることで初めて見えてくる世界があると思います。



望月 小百合 (さゆりさん)

二児の母。

修士号取得後、10年間大阪の小学校教諭として勤務。

インドネシア・ジャカルタの日本人学校で、3年間日本語教諭として勤務。

2019年からバリ島に移住。

さゆりさんからのメッセージ

「アクセルにもハンドルにも遊びがあるんだよ」

大学生の頃、生きることに希望を見いだせなかった私が勇気づけられた言葉です。悩んで迷って自分だけ進んでいないように思えた人生も、今となっては無駄なことなど何一つなかった。はみ出してまわり道してエンストしたって大丈夫。どんな経験も宝。

これから皆さんが心で語り、行動を起こす先は、希望の灯でつながってゆくと信じています。ともに見られる景色が楽しみです！



出典) Earth Company「チーム紹介」
<https://www.earthcompany.info/ja/ourteam/>

濱川 知宏 (Tomo さん)

Earth Company 共同創設者、共同代表。

ハーバード大学卒業後、NGO スタッフとしてチベット高原で働き、後ハーバード大学ケネディ行政大学院で修士号取得。

2014年に妻の明日香さんと共に Earth Company 創設。

今回のスタディツアーの進行をご担当。

※Tomo さんからのメッセージは、12章をご覧ください。



出典) Earth Company「チーム紹介」
<https://www.earthcompany.info/ja/ourteam/>

藤本 亜子 (Ako さん)

Earth Company プログラム・マネージャー。

専門は系統進化学、生物多様性保全、環境教育 (ESD)。

2019年から Earth Company に勤務。

IMPACT BALI 担当。大学教員を経て、持続可能な開発のための教育を専門に、多様な世代へ向けた学びあう場づくりに一貫して関わる。

今回のスタディツアーの進行を Tomo さんと一緒にご担当。

Ako さんからのメッセージ

プログラムの内容は、みなさんの感想が全てだと思うので、私は、このプログラムの生まれた背景について書かせて頂きたいと思います。

「新しい価値観との出逢いを学生に」と、永田先生からプログラムのお話しを頂いた時、これまでにない思いを込めて提案書を書きました。プログラムに込めた想いは2つ。プログラム中に抱いた思いや学びがすぐに役に立たなくても、いつか必要なタイミングで、この時の感情にピントがあう日がくればいいなという長期的な想い。もう1つは、コロナ禍の息苦しい日々で生まれた、みえないトラウマのようなものを上書きするほどに、心温かな時間を一緒に過ごしたい。そのような想いで、プログラムは生まれました。でも、1つめの想いは良い方に裏切られ、その瞬間瞬間に皆さんは自分の人生に引き寄せて考え、その表情から読みとれる皆さんの感情の動きは、わたしの心も揺り動かしました。おそらく最も心が温められた人物は私だったのではないか、と思っています（笑）

皆さんが出会ったゲストスピーカーの4名は、本当に素晴らしい人たちだと思います。それぞれの物語の中で「自分は人としてどのように生きるのか」と自問自答しながら歩んできた人たち。行動の理由が自分の中にある、真に自由な人たちだと思います。そのような4名に皆さんが出会っただけで、このプログラムはほぼ成功でした。

そして、プログラムを100%完成させたのは、皆さんが4日間の学びに自分自身の意味をみつけたことだと思います。学び、感情、疑問の全ては、それぞれ違うと思います。余計にもやもやしたり、やはりまだピンとこなかったりして当然なのです。でも振り返り、言葉にすることで、「自分にとっての意味」を見つけているのだと思います。忙しい日常の中で忘れてしまうかもしれない。でも、あの時に垣間見た自分の感情は、また来るべきタイミングで思い出されるのではないかと思います。自由な人生にみなさんが羽ばたいていくことを心から応援しています！

参考文献

・Earth Company ホームページ

〈<https://www.earthcompany.info/ja/>〉(2021年12月13日参照)

・コペルニクホームページ〈<https://kopernik.info/jp/>〉(2021年12月13日参照)

【コラム④】 ニュピ

-バリには火や電気を使ってはいけない日がある!?-

Nyepi (ニュピ)

別名：静寂の日 - Silent day -

- バリ・ヒンドゥー教の元日（サカ暦の元日）
- 西暦の3月ごろにあたる
- 当日はバリでは一日中、電気を使ってはならない
- 空港や港、宿を含めほとんどの施設が閉鎖され、観光客も外出できない



バリ・ヒンドゥー教が信仰されている地域では、ニュピ前日に、オゴオゴ（Ogoh-ogoh）と呼ばれる鬼の張りぼてが練り歩く。

出典)インドネシア共和国観光省公式ページ
「インドネシアの祝祭日-ニュピ」
<https://www.visitindonesia.jp/index.html>

-何もできない、不便そう、どうやって1日を過ごすのだろうか??-

人々は各自の家で静かに1日を過ごします。明るいうちは自然の光で、夜になったらろうそくを灯す。食べ物は前もって保存していたものを、家族で囲んで食べる。皆、時間を気にせずに自分と向き合いながら、考え事をしたり、読書をしたりとゆったり流れる1日を過ごしています。何の光もない夜には、満点の星空を見ることがもできます。

モノに溢れた先進国で忙しく過ごす私たちは、「何もない」暮らしを体験することで、いろいろなことに気付かされそうです。

7. 感想

荒谷菜津美「出会いと学び」

近藤亜紀「最終目的は『幸せ』だと感じられること」

小出幸果「誠実に生きること」

塚田紗來「これからのわたし」

三浦さくら「幸せとは、人と自然と共存することで生まれる」

岡田梨緒「自然を越える人との出会い」

松岡詩乃「幸せな人生とは何かを考えさせられたスタディツアー」

奈良明日香 「多くの出会いに導かれたバリスタディツアー」

出会いと学び

基礎課程 1年 荒谷菜津美



このスタディツアーに参加した4日間はコロナ禍においても新たな学びと深い知識を得ることができた貴重な日々でした。このような状況でも、思い出と体験的な学びの場を与えてくださったことに感謝いたします。このスタディツアーは普段の授業で学ぶ座学とは全く異なる学びで、オンラインという制約がありながらもバリの文化や自然に触れることができた素晴らしい時間でした。そして Tomo さん Ako さんをはじめとした、愛にあふれた先生、また、考えや学びを共有できる仲間にも出会うことができました。今まで普通に大学生活をしてきた中では気づけなかったような新しい発見と素敵な言葉にたくさん出会うことができた、本当に濃い4日間でした。特に、「自分に誠実に生きること」や「“いつか”ではなく“いつも”」の言葉が印象に残っています。また、スタディツアー内で教えてくださった言葉「言ったことは忘れても湧き出た感情は忘れない」という言葉の通り、スタディツアーのときに感じた感情が鮮明に残っていて実際に現地に行くことはできませんでしたが、バリが恋しい感覚があります。

私は、この4日間を通し大きな自己変容が起こったと感じています。もちろん、SDGs や環境問題に対する姿勢や見方においても、「他人事ではなく、自分事として捉える」という自分なりの目標を見つけることができたという変容もありました。しかし、もう一つの大きな変容は自分の内面です。今年から大学という新しい環境に、オンライン授業で友達作りにも苦労し、元々内気な性格ではないはずなのに自分がどんどん消極的になっていたことに気づきました。正直、スタディツアーが始まった当初も皆さんのレベルの高さに、自分がついていけるか不安になり後期の授業の履修も迷いました。しかし、せっかくながらつながることができた先生や仲間との出会いを無駄にしたくないと思い、後期も一緒に学ばせていただくことにしました。3日目のゲストスピーカーの方のお話を聞き自然と涙がこぼれたことも、その時は何故涙が溢れたのか分かりませんでした。スタディツアーが終わってから考えてみるとその方の愛に触れた安堵感からなるものだったのではないかと思います。一年以上続くコロナとの生活で暗くなっていた自分の心も変えることができたスタディツアーでもありました。

スタディツアーが終わり、後期の授業ではアースカンパニーが支援しているインパクトヒーローのライフストーリーについて学びました。彼らのライフストーリーを読みながらスタディツアーの4日間で学んだことも照らし合わせ、私はこれから彼らの

ように愛にあふれ人に良い影響力を持つ人になりたいと思いました。そのためには、これから大学で多くのことを学び、その学んだ知識を自分のものにして使っていく必要があります。この学び多きスタディツアーを、コロナ禍でも体験することができたことを本当にうれしく思います。今回得た学びを「学ぶことができて良かった」で終わらせないように、「“いつか”ではなく“いつも”」のように、常に自己変容していきたいです。

最終目的は「幸せ」だと感じられること

基礎過程 1年 近藤亜紀



バリの景色と共に音楽を聴きながら、オンラインで始まった 4 日間のスタディツアーは、毎日が学びのワクワクで溢れていたように感じます。ツアー以前から、現地の方々とは連絡を取り合っていたいただき、バリの料理やお香などを紹介してくださっていました。私が連想していた本場の雰囲気を一足先に味わい、これから始まるツアーにより一層楽しみが増してきました。

以前から気候変動や SDGs に関心があった私にとって、このスタディツアーでは、日本には計り知れないサステナビリティを、異国の先進的な取り組みや教育を通じて深く学べる絶好の機会だと考えていました。しかしながら、今までの概念を一変させられた瞬間がツアーの初日にありました。「SDGs のその先を思い描く研修」というタイトルで、SDGs をゴールとして捉えず、地球を守り続けるために、2030 年以降はどのような世界になっていたら良いだろうかということについて考えました。私は導入の時点で既に心を動かされていました。これまで「SDGs 達成のために何ができるか」を重視していたため、それがゴールではないと聞いて驚き、この意味を深めたいと強く思ったからです。

4 日間で最も印象に残っていることは、仕事をしてお金や名声を手に入れ、充実感を得る「Do-Have-Be」という従来の人生を、今やっていることに充実感を得る「Be-

Do-Have」に変えていくこれからの生き方について考えたことです。バリで出会った人たちは、日本で Do-Have-Be の人生を経験されたからこそ、現在の Be-Do-Have の生活を心から幸せそうに、誇らしげに語ってくださいました。彼らの感じている「幸せ」と、先進国の私たちが目指している「幸せ」の捉え方が異なっていたことを強く実感し、深く考えさせられました。4 日間の研修を終えて考えたことは、誰もが幸せだと感じられる世界が、未来の私たちに託されているのだということです。幸せって何だろうと聞かれた時、これまではどこかにその答えがあるのではないかと思っていました。しかし、その答えは絶対がないという結論に到達しました。なぜなら、幸せだと感じられることに意味があり、その感じ方は人によって違っているからです。だから、自分が幸せだと感じられるように生きることが大切なのだと解釈できました。事実や予測ばかりに目を向けてきた私が、このような考え方に到達することができたのは、バリで出会った人たちから、彼らの幸せを感じられる生き方を学んだからです。

さらに、ご講義くださったゲストスピーカーの方々からの言葉にたくさん勇気付けられ、今も心に留めていることがあります。「信じることは良いことで、色々なことをやってみる」という言葉は、学生生活で何に取り組み、どれほど実りあるものにするかという自身の問いに直結することだと感じます。また、「いつかではなくいつも」という言葉は、好奇心旺盛な私にとってチャレンジする勇気となり、何に対しても全力で取り組める活力となっています。

オンラインで行われたスタディツアーは、まるで隔たっていないかのように交流ができ、バリの風を感じられるワクワクでいっぱいの空間でした。ツアー後は、教えていただいた大切なことを思い出して生活の中に取り入れたり、心と体を整えるメディテーションをやってみたりして、少しでも自分の生き方を変えてくれるものになったと確信しています。兼ねてから夢であった永田先生のスタディツアーに参加できたことに心から感謝し、今後の学びに活かしていきたいです。

誠実に生きること

教育学科2年 小出幸果



今回スタディツアーを通して、自分に「誠実」に生きることの大切さを学びました。私自身スタディツアーに参加した理由として、自分を変えたい！という気持ちがありました。目的をもって行動せずになんとか生きていたり、やりたいことや興味のあること、挑戦したいことはたくさんあるけれど、なかなか一歩が踏み出せなかったり、そんな時、永田先生の授業でスタディツアーについて知り、いつか私も必ず参加したい、何かが変わるかもしれない、と思いオンラインでの開催の今年度のスタディツアーに参加することを決意しました。永田先生に直接スタディツアーについて問い合わせをしたり、参加を決めたり、自分からこんな行動的になったのは初めてでした。スタディツアーの中で、ゲストスピーカーの方々のお話を聞き、自分に正直に、そして誠実に生きることは「幸せ」に繋がっていることが分かりました。やりたいことよりも、やらなければいけない事に追われてしまうことが多いですが、これからは自分の人生を大事にし、本当に自分がやりたいことに挑戦したいと思えるようになりました。

私は卒業後、教員になりたいと思っていますが、どんな教員になりたいのか、そのヒントをスタディツアーの中で得ました。特に印象に残っているのは、「子ども達にどれだけ世界が美しいのかを見せるのが、大人の役割なのです。」という言葉で、子ども達が未来に期待を持ち、ワクワクし続けるような学校を創ることが私のこれからの夢になりました。情報や知識は忘れてしまいますが、感情は強く残ります。自分の心に耳を傾けることの大切さを子ども達が自ら気づくことのできるよう、教員として関わりたいと感じます。

また、スタディツアーではバリについて、多くのことを知りました。華やかな観光業で発展しているイメージを持っていましたが、インフラが整っていないが故に生じるゴミ問題や、健康被害、環境問題や貧困という影の部分を知り、経済・社会システムの根本の変革が必要であることを理解しました。バリ島ウブドにあるエコホテル、mana earth paradise では、畑で作るものをレストランで提供して、命の循環を感じる事ができたり、地域貢献の一環として地元の方が作ったものを販売したり、循環型施設として様々な取り組みが行われています。バリ島の豊かな自然を生かしつつ、観光の中でサステナブルに触れる事ができる素敵なホテルだと思い、いつか mana に訪れるのが心の底から楽しみになりました。

今回のスタディツアーでは、多くのことを学び、それは自分の財産になったと思います。そして、スタディツアーで関わった多くの方々との出会いも私にとって宝物です。自分に「誠実」に生きることの大切さを忘れず、これからも挑戦し続けたいと思います。最後になりますが、今回スタディツアーの運営に携わったの方々、そして両親に感謝申し上げます。

これからのわたし

教育学科2年 塚田紗來



今回のスタディツアーは、多くの事を学び宝物となる経験になりました。現在、コロナウイルスの影響により様々な活動が思うように行えず制限されています。このような状況下の中、スタディツアーでは異なる形でのアクティブな学びを与えてくれました。私は、このような機会を下さったことに感謝をしたいと思います。

スタディツアーでの毎日は、多くの発見と学びで溢れていました。スタディツアーが始まる前は、不安がありました。例えば、一日中パソコンの前に座り授業を受けることなどです。しかし、スタディツアーが始まってみるとその不安は消え、一日一日があっという間に終わってしまい、まだまだスタディツアーに参加していきたいという気持ちが増していきました。

スタディツアーでの一日は心を落ち着かせ、整えることから始まりました。そして一日の終わりにも、心を落ち着かせ、自分の思いを振り返り整理するという事を必ず行っていました。一日の中で、何度も心が揺れ動かされる場面がありました。そのため、スタディツアーでの一日を簡単に表すことが出来ません。

一番心に残っている言葉があります。それは、『人は人で動かされる』という言葉です。私たち人間にとって、人との出会いがどれほど大切なのかを知りました。人間には、それぞれ違うライフストーリーを持っています。一人一人が持っているライフストーリーには、必ずその人の心を動かした他者がいます。私は、人の心を良い方へ

動かす事の出来る人たちの愛に感動しました。そして、目標が出来ました。それは、『これからは、今よりも人との出会いを大切にし、将来は誰かの心を良い方へ動かす事が出来る人になりたい』という目標です。今回のスタディツアーは、実践的にも人との出会いの大切さを教えてくれました。アースカンパニーの皆さんやゲストスピーカーとの関わりをこれからも続けていきたいと考えています。

スタディツアー後の後期の授業では、スタディツアーに参加していた仲間に加え、アースカンパニーの皆さんが参加してくれました。さらに、永田先生は、ワークショップやイベント情報など、私たちが新しいことに挑戦し、新しく多くの人と出会う事が出来るような機会を毎回の授業で教えてくれました。このように、出会いを大切にする場での経験を増やす事により、日常生活で興味を持つ分野が増えて多くの学びを得られるようになりました。自分自身を見つめ直す時間を大切にしながら、どのような事であっても挑戦したいという気持ちが勝つようになりました。大学生活でしか行うことの出来ないサークル活動に力を入れ、様々な事に制限がある日々であっても楽しむという気持ちを忘れないようにしています。

私の考え方は、スタディツアーを通して大きく変化しました。『感情は知識よりも記憶に残る』。一瞬一瞬の感情を大切にし、自分自身を見つめ直す事の大切さを学びました。忙しい毎日に心を置き去りにするのではなく、その時々には芽生える感情を大切にすべきだと思います。その感情を尊重し行動する事は、自分自身を大切にする事と繋がっていると気が付きました。日々の人との関わりなどから受けるたくさんの刺激から自分がどうしていききたいのかを考えていくと共に、SDGsのその先へ向かっていける行動力を身に付けたいです。何年先も平和で溢れた地球を未来の子どもたちに残せるように活動していきたいと思います。

オンラインでも伝わるバリの景色や香りを心にとめ、大きな壁にぶつかった時や、何かに悩んでしまった時は、このツアーを思い出し、前を向いていきたいです。様々な場面で活動の自粛が求められている世の中ですが、何も出来ずに止まっているのではなく、様々な方法でアクティブな活動を行い、スタディツアーを通して得た本当の学びを活かしたいです。

幸せとは、人と自然と共存することで生まれる

教育学科2年 三浦さくら



コロナ禍の中、自分が抱いていた大学生活というものを謳歌できず、こんな状況下の中、自分が今できることを挑戦してみたいという軽い気持ちで参加しました。

始めに、皆さんのライフストーリーを聞いて、一人一人が自分の固い意志や志を持っていると感じ、同時にその強さはどこから生まれてくるのだろうと思いました。そして私なりに考えた結果、自分の弱さを認めて強さが生まれるのだと感じました。過去の壮絶なライフストーリーの自分を認め、弱さを知っているからこそ、周りの気持ちに寄り添い、尊重し合う生き方ができるのだと思いました。そしてアースカンパニーの皆さんとオンライン上で出会ってすぐに、家族のような温かみを感じました。

私は、このスタディツアーを経て幸せとは改めて考えるきっかけとなりました。正直、発展途上国の人に対して「かわいそう」であるという感情を抱いていました。先進国の私にとっては、住む家も毎日の食べ物にも困らずその生活が当たり前で生きていくことができます。教育を受ける権利の視点から考えると私たちが教育を受ける理由として「学歴社会であるから」「将来良い職業に就きたいから」というような考えが生まれると思います。しかし、発展途上国の人にとっては「売春から逃れるため」「児童結婚から逃れるため」といった私たちにとって当たり前とした生きる権利を求めるためということに違いがあると思いました。そして、ツバルという国は地球温暖化による海面上昇の影響で沈んでしまうといわれています。明日香さんのライフストーリーの中で、ツバルに訪れた際にツバルに住む人たちは誰一人として先進国に住む人々を責めなかったといえます。他者を思いやり助け合う感情が生まれているのは今日を生きるために人や自然をと共存するということの本当の意味を知っているからだと感じました。そして、お金やステータスが生まれ豊かな暮らしになるにつれ人間の生きる根源を私達から忘れさせてしまっているのではないかと思いました。

また、インパクトヒーローのうちの一人であるキャシーの国連スピーチの動画を拝見しました。その動画を見て涙が止まりませんでした。自分のためではなく、自分の子どもの未来を守るためそして一人の母として自分の故郷を守るために、世界に立ち向かう姿に感動しました。

私はこのスタディツアーから、幸せとはそして自分自身について改めて考えるきっかけとなりました。お金や地位にとらわれている自分がいるということを改めて再発

見しました。私は Be Do Have の精神を大切に今を大切にそして正直になるそんな生き方にしたいです。世界でだれひとり取り残さないためには、発展途上国の人たちだけではなく私たち先進国の人々との理解と協力が必要不可欠であると感じました。これが共存であり、私はそんな世界を目指し、これからも地球環境や人種など様々な学びを深めていきたいと感じました。アースカンパニーの方々をはじめとし、永田先生貴重な体験の機会を下さり、本当にありがとうございました！

自然を超える人との出会い

教育学科4年 岡田梨緒



ともさん、あすかさん、きみさん、さゆりさんのライフストーリーを聞き、私が1番に感じたことは「自分の思いに正直に生きていいんだ」ということでした。今私たちのいる社会ではそのように生きることは簡単ではないと感じているからこそ、自分に誠実に偽りなく生きている大人がいるということが新鮮でとても勇気づけられました。

またこの研修では、豊かさや幸せとは何かを考えさせられました。バリ島にはリゾート開発によって経済が支えられえている一方で、その開発によって自然破壊、水不足、物価の上昇、現地の人々が低賃金の職にしかつけないという課題がありました。また気候変動の影響で海に沈むかもしれない危機にあるマーシャル諸島のキャシーは祖国と子どもの未来を守るという強い覚悟で必死に闘っていました。私たちがリゾートを贅沢として味わい、贅沢に資源を消費することで、リゾート地を地元とする人々の生活が貧しくなってゆき、気候変動による災害が次々とおきている現実を見て見ぬふりしているという事実にはっとしました。今は便利に不自由なく暮らせている私たちも、いつの間にか自分たちも犠牲の対象となっているということも十分にあり得ると思います。誰かの犠牲により誰かが豊かになるこの社会システムはおかしいです。世界がリジェネラティブな方向に進んでいくように私に何ができるのでしょうか。やれない理由はいっぱい思い浮かぶけれど、できるようにするには何をすればよいのかを考

えて、勇気を出して一歩踏み出すことが大切だと自分に言い聞かし行動できる人でありたいです。しかし、自分が楽しいと感じないと続かないですし、周りの人を楽しませないと広まらないので思いつめず押し付けないことも大事にしたいと思います。

未来は不安だし、誰かに従ってみんなと同じように生きる方が楽だけれど、ここで出会ったみなさんのように私にとっての幸せや豊かさとは何かを自分自身で考え、自分に正直で誠実な人になれるよう努めます。「いつか」ではなく「いつも」を選ぶ、“Be Do Have”のHaveの先はない、この2つの言葉を立ち止まった時に思い出したいと思います。最後にこのような機会を作ってくださった永田先生、私たちのために学びを提供してくださったともさん、あこさん、あすかさん、コペルニクのとしさん、きみさん、さゆりさん、クッキング教室をしてくださったり、Live 中継をしてくれたバリのみなさん、このツアーに参加し一緒に学んだみなさんに感謝です。本当にありがとうございました。

幸せな人生とは何かを考えさせられたスタディツアー

教育学科4年 松岡詩乃

初めこのスタディツアーを申し込んだときは、正直オンラインだし、とあまり期待をせずに「少しでも環境問題についての学びが出来ればいいな」くらいに思っていました。しかし、1日目の一番最初のアスカさんのお話を聞いたときから、初めに思っていた感情が無くなり、とても大きな感銘を受けたのを今でも覚えています。アスカさんは、「自分がこうしたい」という感情のままに人生を歩まれている方で、自分がこれまで生きている20数年とアスカさんが私と同じ歳の時の人生の濃さが全く違うなと感じ、そこから自分の人生について考えるきっかけになりました。その後も、ともさんの「Be-Do-Have」のお話を通して、「豊かな暮らし」とは何かを考えさせられました。お金があれば豊かな暮らしが出来ているという訳ではなく、自分が死ぬ前にこれまでの自分の人生に満足できるような暮らしの方が、豊かな暮らしと言えるの



だと、ともさんのお話を聞いていて感じました。そして「Be-Do-Have」のお話を聞いたことで、今までの私は、「引かれたルールにただ従って生活していたのではないか」や「自分の幸せって何だろう」といったことを考えさせられました。また、豊かな暮らしをする為には、自分だけではなく自分の周りやそれ以外の人々も豊かになれなければ実現できないからこそ、気候変動問題にしっかりと向き合う必要があるのだと感じました。そんな中で、バリ島の環境汚染問題について、や観光地があることによって観光地以外の場所が水不足などの被害にあっていることなどを知り、知ろうとしないと見えてこない問題は沢山あるのだと実感させられました。このように、自分が豊かに生きていくのに本当に必要なことは何なのか。という、スタディツアー前には考えもしなかったことを考えていく中で、最後にさゆりさんのお話を聞きました。さゆりさんは、第三者からするととても壮絶な人生を送ってきたように思える人生を送られていましたが、「その経験すべてがあったからこそ今の自分が居る」ということを笑顔で仰っていた姿を今でも覚えています。私も彼女のように目の前にある問題に目を背けずに、真正面からぶつかっていけるような人間になりたいと思ったと同時に、失敗を恐れずに生きていきたいと心から思うようになりました。このように、オンラインであるにも関わらず、とても濃い 4 日間を過ごさせていただきました。そして、ゲストスピーカーさん達のお話を聞いていく中で、自分の「幸せな人生とは何か」を考えさせられる貴重な時間になりました。自分の幸せについて考えることは、この 4 日間だけにとどまらず、これから生きていく上で常に考えていく大きな課題です。そのため、このスタディツアーの学びを忘れずに過ごしていきたいです。そして、自分が将来死ぬ前に、自分の歩んできた人生に悔いがないと思えるような「幸せな人生」を送っていきたいと思います。今回のバリ島ツアーに関わって下さった全ての皆さま、そして一緒に学んできた仲間たちにも感謝したいです。とても濃い 4 日間をありがとうございました！

多くの出会いに導かれたバリスタディツアー

教育研究領域博士前期課程1年 奈良明日香



オンラインでのスタディツアーではありましたが、パソコンの画面を通して私が出会ったのは、想像以上に温かく、奥深いものでした。一生大切にしたいと心から思えるものに、出会うことができましたと思います。

最も大きかったのは、「愛」との出会いです。このように目に見えない不確かなものを、今まで本当に信じてはいなかったように思います。今回のスタディツアーは、「愛」に溢れていました。それに触れたために、私は感動し、時に涙したのだと思います。バリの暮らしや、聴かせてくださったライフストーリーの根底にあったのも、「愛」だと感じました。このような柔らかい力が人を動かし、何かを変える大元にあるのではないかと考えるようになりました。

貴重なライフストーリーを話してくださった、Earth Company やゲストスピーカーの方々と出会えたことも、とても大きな意味がありました。豊かさを深い次元で知っている方たちだったと思います。特に、表面的ではない人との繋がりを知っている方たちだったと思います。自分の過去も弱さも包み隠さずに語ってくださり、勇気をいただいた気がします。自分や他者、そして地球と、誠実に向き合う正義感のようなものも感じました。持続可能な社会のために変容が必要とされる中、課題に対して真剣に取り組んでいらっしゃる姿に、尊敬の気持ちが湧きました。

本当の学びとも出会うことができました。ツアー中、いつの間にか聞きたいことがどんどん湧いてくる感覚を味わいました。これが「ワクワク（湧く湧く）」することなのだを教えてもらい、学びを楽しんでいる自分を感じました。このような感覚が得られたのは、みなさんが本当に温かく、解きほぐされた場の雰囲気があったからだと思います。私が発する言葉に対して、丁寧に応えてもらえる安心感がありました。

ずっと大切にしたい価値にも出会いました。それは、「Be-Do-Have」「いつかではなくいつも」という考え方です。別のストーリーから同じ価値が浮き上がり、自分の中にストンと落ちました。そして、こんな生き方をしてみたいと感じる自分に気づかされました。これを教えていただいてから、自分は一瞬一瞬の選択やあり方を、今までどれだけ真剣に考えていたのだろうか考えるようになりました。そして、これを考えようとする時、自分はどのような「Be」を望んでいるのか、という土台が必要だと

いうことに気付きました。何が自分にとっての well-being なのか、しっかりと見つけていくことが私の一つの課題になりました。

このように自分の well-being を考えるための材料にも、スタディツアーでは出会わせていただいたと思います。お話して下さったみなさんの生き方からも学ぶことが多かったですし、バリ島の暮らし方からも気付かされることがありました。特に、バリ島の文化や習慣が持つ「見えないもの」への敬意の姿勢が印象的でした。そのようなものにも心を傾けるために、日々の中で立ち止まる機会をつくるのが大切だと学びました。バリを舞台にしたスタディツアーに参加できて、本当に良かったと思っています。

今回のスタディツアーではたくさんの問いにも出会いました。例えば、バリが様々な社会課題を抱えていることを教えていただいて、先進国の追求する豊かさが、発展途上国に問題を押し付けている構造に納得がいきませんでした。それによって、同じような構造が様々なところで起こっていることに、気付くことができるようになったと思います。資本主義というものが、私たちに何をもたらしているのかも気になるようになりました。様々なお話を通して、資本主義が多くの問題の根本を成しているのではないかと感じられるようになったからです。そのような中で生活し、恩恵を享受している自分が、どのように向き合ったらよいのか、難しいですが、考える必要があるように思いました。

最後に、ここに書き切れないほどたくさんの出会いに導いて下さったことへ、心から感謝いたします。答えが得られていないものや、モヤモヤと心に残るものも多く、自分の中でこのスタディツアーを終わらせてはいけないという意識があります。「本当の学びは、知ることではなく思い出すことである」という言葉を胸に、今回の経験を自分の立ちかえる原点として大切にしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。

【コラム⑤】バリ料理

「～ワヤンさん流～ピサン・ゴレン」

*バリ島のおやつ

*「ピサン」はバナナ、「ゴレン」は揚げるという意味。



○材料

・小麦粉… 60 g

・米粉… 20 g

※米粉を加えると、衣がよりサクツとなります！無い場合は、小麦粉 80g。

・塩… 3つまみ

・水… 150mL

※以上の材料は、ホットケーキミックス粉でも OK！

・バナナ… 1本

・油（ごま油は不可。現地で使われるのは、ココナッツオイル。）

○作り方

1. バナナを斜めにスライスする。バナナが硬い場合は1 cm幅、柔らかい場合は2 cm幅。
2. 小麦粉、米粉、塩を合わせ、水を少しずつ加えて混ぜる。（衣の完成）
3. 2にバナナを入れる。
4. 油をフライパンに入れ、強火で熱する。油の量は、バナナが浸かるくらい。衣を少し油に落として、すぐに浮いてくるまで油を温める。
5. 衣をつけたバナナを油の中に入れ、中火で揚げる。
6. 片面の衣に色がついたら、ひっくり返す。
7. 両面に色がついたら完成！

「日本でもできる！サンバル・マタ (Sambal Matah)」

* 肉料理や魚料理の添え物としてどうぞ！

○材料 (2 人前)

・ バワンメラ (小さい赤玉ねぎ) … 5 つ

※普通の赤玉ねぎ (1/4 個) でも可

・ レモングラスの茎

(葉っぱではないので注意!!) … 2 本

・ ライム… 少々

・ 塩… 少々

・ 食用油… 少々

・ とうがらし… 少々

※「バワンメラ」や「レモングラスの茎」を探すには、インドネシア食材屋
やアジアンスーパーマーケットがおすすめ！



出典) <https://warau-bali.com/sambal-matah/>

○作り方

1. バワンメラ、レモングラスの皮をむき、薄く刻む。
2. とうがらしも薄く刻む。
2. フライパンに食用油を入れて加熱。
3. バワンメラ、レモングラス、とうがらしをフライパンに入れて軽く炒める。
4. 3をボウルに入れて、塩とライムで味つけする。
5. ☆完成☆

参考文献

「本場のインドネシア料理【サンバルマタ】を作ってみた！作り方と材料」

〈<https://warau-bali.com/sambal-matah/>〉(2021 年 12 月 6 日参照)

8. プレゼンテーション資料*

Earth Company「SDGsバリ島研修 Day1」

Earth Company「SDGsバリ島研修 Day2」

Earth Company「Earth Company とは」

Earth Company「Mana について」

きみさん「世界一エコな学校と呼ばれる Green School Bali に通う息子」

Toshi さん「コペルニクを始めるまでと現在の活動紹介」

さゆりさん「さゆーる先生バリ島移住」

Earth Company「SDGsバリ島研修 Day4」

*ここに掲載する資料は「SDGsを生きる人々」を講師に招いて行われた講義の資料であり、講演者の了解を得てここに掲載します。

SDGsバリ島研修Day1

SDGsバリ島研修
聖心女子大学

2021.08.29～09.02
Program Overview

EARTH COMPANY



>Welcome!

2

濱川知宏

Earth Company 共同創設者・共同代表

ハーバード大学卒業後、NGOスタッフとしてチベット高原で働き、後ハーバード大学ケネディ行政大学院で修士号取得。

英国大手財団CIFFにて、インド・アフリカにおける子供の保護・教育に重点を置いたプロジェクトの企画推進・評価等を行う。

革新的なテクノロジーを最貧国へ届けるNGOコベルニクにて国際開発やBOPビジネスの促進に関わり、ソーシャルイノベーションとインパクト評価を専門とする。

日本では青少年のグローバル教育にも従事。

元東京大学特任教授。

世界銀行コンサルタント。

国際会議での講義登壇実績多数。

2014年、ダライ・ラマ14世より「Unsung Heroes of Compassion（謳われることなき英雄）」受賞。



EARTH COMPANY 3

藤本亜子

Earth Company 研修事業マネージャー

専門は、系統進化学、生物多様性保全、環境教育/ESD
修士号取得後、2007年から関西学院大学理工学部勤務

2012年～JICA青年海外協力隊（環境教育）として、生物多様性が最も豊かな国・コスタリカ共和国の、村役場（環境管理課）に2年間従事

2015年～国連大学と環境省が運営する「Global Environment Outreach Centre」に勤務。環境省のESD全国事業、SDGs人材育成全国事業を担当。

グローバルな課題へも目を向けたホールアプローチの教育をLife workにしたいと思い、2019年からアースカンパニーに参加。

バリ島ウブドで野鳥観察をしながら、のびのび暮らしています。



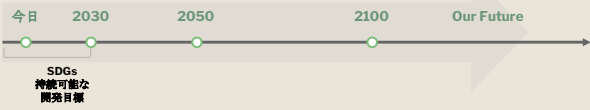
EARTH COMPANY 4

SDGs
バリ島研修

1. 研修について (25min)
2. 濱川明日香・知宏Life Stories
3. Earth Companyについて
4. リフレクション
5. クッキングクラス (ピサン・ゴレン)
～Akoのお家から～

Beyond SDGs

SDGsのその先を一緒に思い描く研修



SDGsはゴールではない
 SDGsのその先の未来に私たちは、
 どんな世界、あり方、状態、を目指したいのか？
 = ビジョン

SDGsに込められた思い

SDGs 前文より

Transform Our World (我々の世界を変革する)
 持続可能な開発のための2030アジェンダ
Sustainable Development Goals

SDGs 前文より

Leave No One Behind
 誰一人取り残さない

SDGsのその先を一緒に思い描く研修

SDGsのその先の未来に私たちは
 どんな世界、あり方、状態、を目指したいのか？

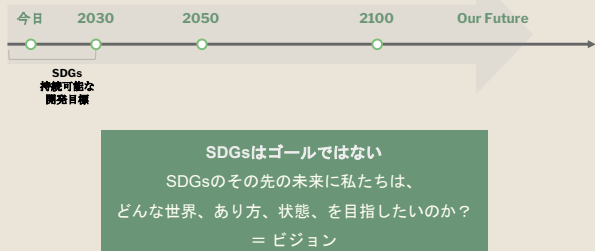


SDGsのその先の未来のために
 SDGsの次は どのような目標をたてたいか？

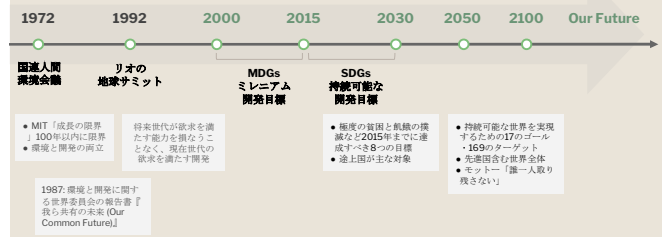
SDGsのその先を一緒に思い描く研修

様々な人のライフ・ストーリーを通じ 感じる・考える		
Day 1	Day 2	Day 3
次世代につなぐ未来を創る アースカンパニーの ストーリー	自然・神々・人々との調和 バリ島の暮らしの ストーリー	バリ島に住む 親子、社会起業家、教師の ストーリー

SDGsのその先を一緒に思い描く研修



SDGsのその先を一緒に思い描く研修



SDGsのその先を一緒に思い描く研修



私たちは、未来を変えてきた

極度の貧困で暮らす人
(1日100円未満で暮らす)

1990年代→2015年：半分に減少

学校へ行ける子供の数

2000年：83%

2015年：91%

良い方にも
世界を変えてきた


MDGsは
「極度の貧困を、あと一世代で
この世からなくせるところまで来た」
国連事務総長 潘基文

私たちは、理想の世界を願うことで
世界を変える力をもっている

MDGsで明らかになった3つのこと

- 1 未だ
貧困層や
弱者が置き去り
- 2 先進国の
経済や暮らしと
途上国の課題の
深い関係
- 3 課題は、日本も
途上国も共通
(気候変動等)

そして今



みなさんは、
世界的な新型コロナウイルス蔓延を
非常事態だと思いますか？

先進国に住む私たちも初めて、
 予測不可能で、
 安心・安全がない、
 私に、家族に、大事な人に、
 明日がないかもしれない
 状況を経験した。

今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



現在のコロナ感染者数 **1600万人**

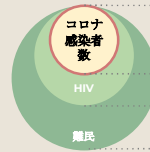
今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



現在のコロナ感染者数 **1600万人**

現在HIVと共に生きる人の数 **3800万人**

今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数

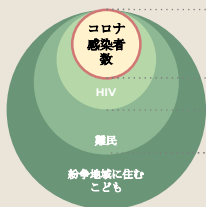


現在のコロナ感染者数 **1600万人**

現在HIVと共に生きる人の数 **3800万人**

現在難民である人の数 **8240万人**

今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



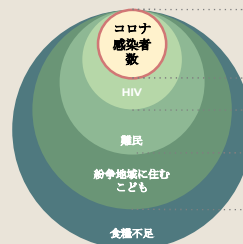
現在のコロナ感染者数 **1600万人**

現在HIVと共に生きる人の数 **3800万人**

現在難民である人の数 **8240万人**

紛争地域に住む子どもの数 **4億人**

今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



現在のコロナ感染者数 **1600万人**

現在HIVと共に生きる人の数 **3800万人**

現在難民である人の数 **8240万人**

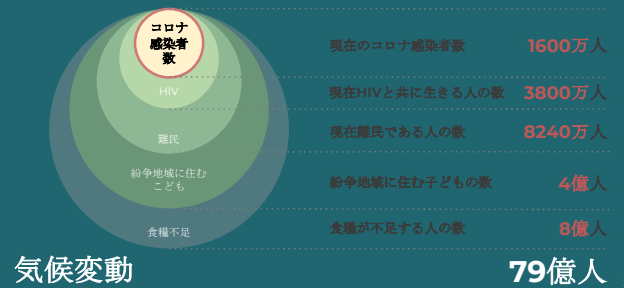
紛争地域に住む子どもの数 **4億人**

食糧が不足する人の数 **8億人**

今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



今現在、世界で様々な課題に苦しむ人の数



COVID-19は
未来の気候変動の
影響のプレビュー

The Coronavirus Is a Preview of Our
Climate-Change Future

By David Wallace-Wells



Prepared for mass of the practically unimaginable. Photo: Jon Kessler/Getty Images



気候危機 ▶ 経済危機 ▶ COVID-19

そう、
世界はずっと前から
非常事態

では世界は、
なぜ新型コロナに限って
非常事態宣言を発令したの？

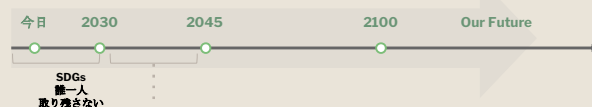
先進国が被害者になったから。



誰一人取り残さない...? 😊

研修の問い

SDGsのその先を一緒に思い描く研修



SDGs
誰一人
取り残さない

SDGsの次の目標が2030年に採択されるだろう。
その目標のキーマッセージを
みんな（それぞれ）で考える



17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



我々の世界を変革する

誰一人取り残さない



(特になし?)

我々の世界を
変革する

誰一人
取り残さない

今回のお題!

SDGsのその先を一緒に 思い描く研修

Day 1			Day 2		Day 3		Day 4	
次世代につながる未来を創る アースカンパニーの ストーリー			自然・神々・人々との調和 バリ島の暮らしの ストーリー		バリ島に住む 親子、社会起業家、教師の ストーリー		共有の日 「次の目標のキーメッセージ」 そのメッセージを生み出した背景に は「私は」どんな世界を描きたいと いう思いがあるから (Why)	

43

SDGs
バリ島研修

1. 研修について (25min)
2. 濱川明日香・知宏Life Stories
3. Earth Companyについて
4. リフレクション
5. クッキングクラス (ピサン・ゴレン)
～Akoのお家から～

SDGsのその先を一緒に 思い描く研修

Day 1	Day 2	Day 3	Day 4
13:00-16:00	13:00-16:00	13:00-16:00	13:00-16:00
次世代につながる未来を創る アースカンパニーの ストーリー	自然・神々・人々との調和 バリ島の暮らしの ストーリー	バリ島に住む 親子、社会起業家、教師の ストーリー	共有の日

45

SDGs
バリ島研修

1. 研修について (25min)
2. 濱川明日香・知宏Life Stories
3. Earth Companyについて
4. リフレクション
5. クッキングクラス (ピサン・ゴレン)
～Akoのお家から～

EARTH COMPANY

We do not inherit the earth from our ancestors.
We borrow it from our children.



SDGsバリ島研修Day2

SDGsバリ島研修
聖心女子大学

2021.08.29～09.02
Program Overview

EARTH COMPANY




Day 2 !

2

SDGsのその先を
一緒に思い描く研修

見たいと思う世界の変化に
あなた自身がなりなさい
-マハトマ・ガンジー-



SDGs
バリ島研修

1. アースカンパニーについて (40min)
2. バリ島の暮らし、課題 (40min)
3. 次世代サステナブル・ビジネス
～Mana Earthly Paradise～ (50min)
4. リフレクション(20min)
5. クッキングクラス (サンバル・マタ)
～Akoのお家から～

アクティブ・リスニング

6

SDGs
バリ島研修

1. アースカンパニーについて (40min)
2. バリ島の暮らし、課題 (40min)
3. 次世代サステナブル・ビジネス
～Mana Earthly Paradise～ (50min)
4. リフレクション(20min)
5. クッキングクラス (サンバル・マタ)
～Akoのお家から～

SDGs
バリ島研修

1. アースカンパニーについて (40min)
2. バリ島の暮らし、社会・環境課題 (45min)
3. 次世代サステナブル・ビジネス
～Mana Earthly Paradise～ (50min)
4. リフレクション(20min)
5. クッキングクラス (サンバル・マタ)
～Akoのお家から～

インドネシア
バリ島

インドネシア共和国



インドネシア共和国

日本から直行便で8時間
(往復6万～10万円)

格安航空券：
マレーシアなどで1回乗換え
最短14時間 (往復4.5万円～)

10

インドネシア



インドネシア共和国
インドネシア語

公用語
首都
面積
倍)
人口
気候

ジャカルタ
200万km² (日本の約5
2億7千万人 (世界4位)
熱帯

インドネシア・バリ島



インドネシア共和国
インドネシア語

公用語
首都
面積
倍)
人口
気候

ジャカルタ
200万km² (日本の約5
2億7千万人 (世界4位)
熱帯

インドネシア・バリ島 ウブド



バリ島 ウブド
 空港から車で2時間程度
 芸術の村であり、農村でもある

ンガラ・ライ
 国際空港

13

インドネシア・バリ島 ウブド



バリ島の歴史

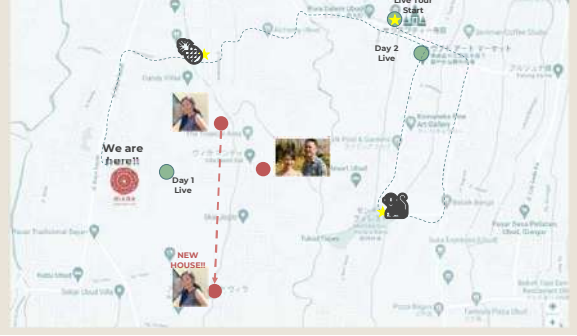
11世紀
 ド文化が伝わる

東ジャワと関係深まり、ヒンドゥー教やインド文化が伝わる
 16-17世紀 オランダ到来、ヨーロッパ勢力の進出
 1920s ヨーロッパの芸術家来訪 □バリ・ルネッサンス

14



インドネシア・バリ島 ウブド



16

バリ人の家の
 一角に住む



バリ人の家の
 一角に住む



EARTH COMPANY 18



バリ人が大切にしている哲学：トリ・ヒタ・カラナ

神々との調和

人々との調和

自然との調和



3つの調和が「幸せや喜びの理由」であるという考え方

EARTH COMPANY 25

強い村組織と
深い信仰

村人の収入のほとんどは
村行事（宗教祭事）に使われる



バリ人の90%がヒンドゥー教徒



鉄の神像に折る日



お供物

27

バリ島の暦：ウクとサカ

ウク暦：バリ人の誕生日、祭事を決める時につかう暦

サカ暦：季節の基準となる暦



28

Nyepi ニュピ

火、電気を使ってはいけない「静寂の日」

サカ暦の新年

3月 新月の翌日



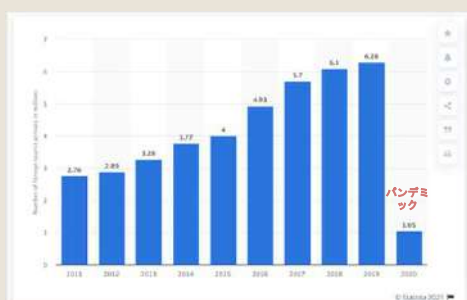
ガルンガン
(お盆)

EARTH COMPANY 30

神々の島バリ島



2011-2020 観光客数の推移



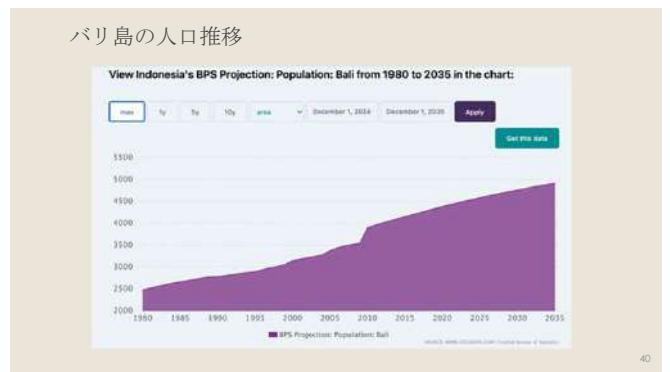
35

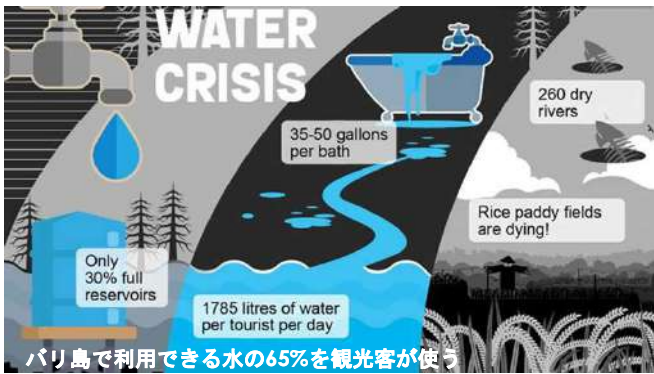
中国、オーストラリア、インド、日本の観光客が多い

No.	国名	2017年度			2016年度	前年比 (%)	
		ジャカルタ	バリ	その他	訪問者数合計		
No. 1	中国	338,833	1,366,032	267,540	1,972,405	1,452,971	135.75
	シンガポール	202,527	121,873	1,188,413	1,512,813	1,472,767	102.72
No. 2	マレーシア	301,151	165,541	771,684	1,238,376	1,225,458	101.05
	オーストラリア	79,575	1,061,287	47,587	1,188,449	1,198,033	99.20
No. 4	日本	228,717	252,497	57,120	538,334	513,297	104.88
No. 3	インド	106,798	265,336	113,207	485,341	376,802	128.81
	韓国	139,150	162,857	76,762	378,769	343,887	110.14
	イギリス	68,821	240,007	52,369	361,197	328,882	109.83
	アメリカ合衆国	98,763	190,307	42,062	331,132	296,183	111.80
	フランス	55,532	179,086	34,371	268,989	250,921	107.20

2020 Ministry of Tourism and Creative Economy, Republic of Indonesia

36







お米を年に3回、収穫していた



気候変動により雨が少なくなり、土地が枯れ始めた



水不足



政府は水源の山に治水ダムを建設し、水を管理した



でも、クレチュン村に水は戻らなかった



ジンパランは雨が少ない観光エリア
多くのリゾートホテルが立つ



観光施設の水の使用量は莫大



乾燥した地でも栽培できるコーンに田んぼの一部を変更



外国人による開発



海岸沿いの土地80%は海外の投資家が購入済み



開発により自然破壊、さらに水不足
観光施設ができて、地元の人、低賃金の職にしかつけない



だけど、物価はどんどんあがっていく

ごみ問題



6 Kgのプラスチックが死んだ鯨の胃に (インドネシア)



- プラスチック製のカップ 115個
- ポリ袋 25枚
- ペットボトル 4本
- サンダル 2足
- 1,000本以上のひもが入った袋

64



バリ島「クタ」海岸ごみ30トンのうち
約70%がプラスチックごみ



海洋プラスチックの80%は、世界の1000以上の河川から流出





100以上の家族が、
ごみ山の脇の小屋で暮らし、ごみを分別して生計をたてる



1kg (2Lのプラボトル24本) = 約5円



悪臭で、私は息をするのもやっとでした
住民たちは深刻な健康被害



教育費がなくて学校にいけない
親の分別を手伝う、幼い子どもたち



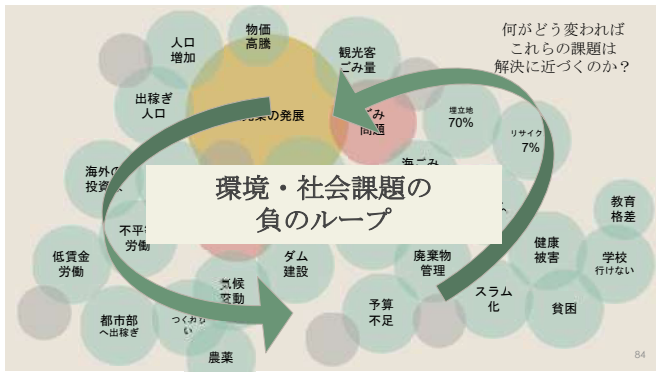
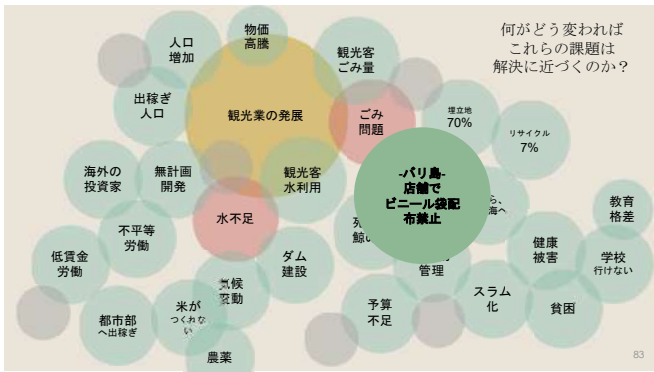
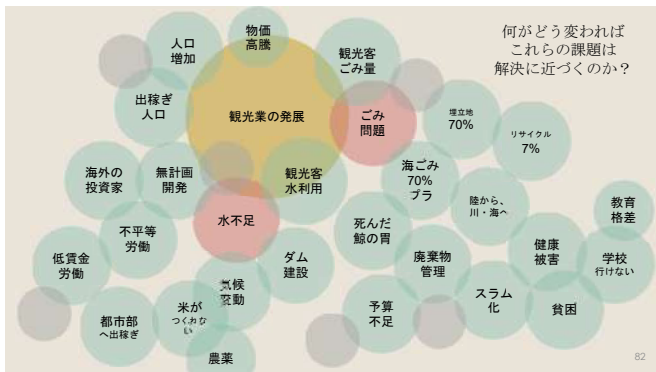
廃棄物の7%がリサイクル、5%焼却、70%が埋立地
残りは川や海へ





貧困、そして教育

「教育を受けず、仕事もない
 家族にはSuwungで暮らしてほしい
 私たちの仕送りで子供たちには学校へ通い
 いい仕事してほしい」



Transform Our World (我々の世界を変革する)

経済・社会システムの 変革が必要

SDGs バリ島研修

1. アースカンパニーについて (40min)
2. バリ島の暮らし、課題 (40min)
3. 次世代サステイナブル・ビジネス
～Mana Earthly Paradise～ (50min)
4. リフレクション(20min)
5. クッキングクラス (サンバル・マダ)
～Akoのお家から～

EARTH COMPANY

We do not inherit the earth from our ancestors.
We borrow it from our children.



Earth Companyとは



SDGsバリ島研修
聖心女子大学

2021.08.30
Earth Company Overview

EARTH COMPANY



EARTH COMPANY とは

2

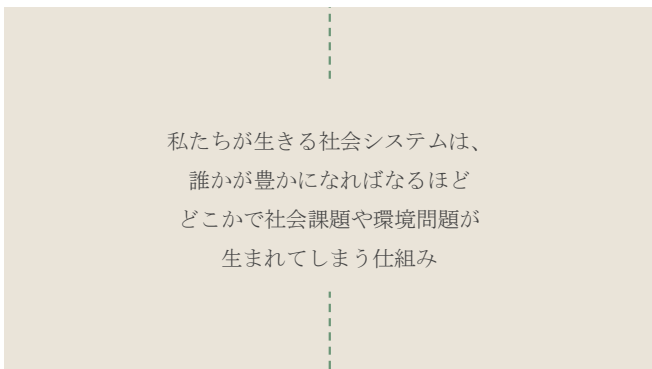


次世代につなぐ未来を
創る組織です

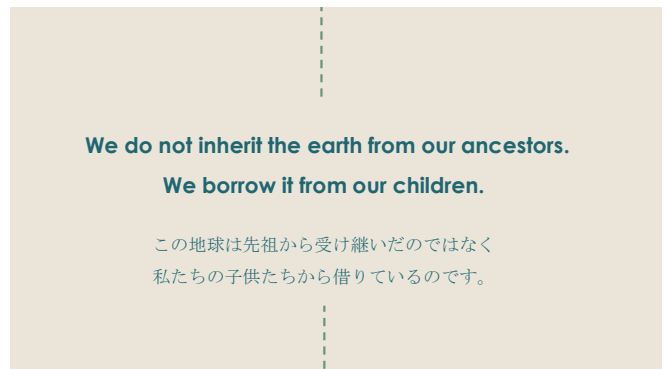
3



MISSION
次世代につなぐ未来を創出する



私たちが生きる社会システムは、
誰かが豊かになればなるほど
どこかで社会課題や環境問題が
生まれてしまう仕組み



**We do not inherit the earth from our ancestors.
We borrow it from our children.**

この地球は先祖から受け継いだのではなく
私たちの子供たちから借りているのです。

MISSION
次世代につなぐ未来を創る
チェンジメーカーを支援・育成

EARTHCOMPANY

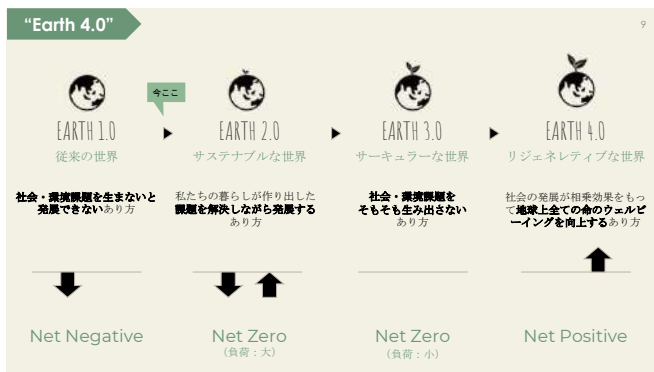
01. IMPACT HERO
次世代につなぐ未来を創るポテンシャルのあるチェンジメーカーの支援

02. IMPACT ACADEMY
次世代につなぐ未来を創る人材育成プログラムを企業や学校に提供

03. MANA EARTHLY PARADISE
次世代につなぐ未来を具現化した新しい「あり方」の事例を提示

Earth Company

2021
メンバー40人

受賞歴

受賞歴	メディア掲載 (一部)	登壇 (一部)
		

連携先

企業
Amaru, LIFULL, HERZITE, CAS, pbs, Plan Do-See Inc., White Ship, LIMEX, 自然電力, IS4, LOJEL, raf, TAMANO, FUJITEX

ネットワーク
SIMI, Citylab Ventures, NEXUS, IIX, JANIC, avpn, Bgreener, Wea

教育機関
AMANE INSTITUTE, 大阪大学, R, GIFT, VerySO, 350 JAPAN, IDEAS FOR GOOD, greenz, UNICEF, NPO, メディア, 政府機関

MISSION
次世代につなぐ未来を創る
チェンジメーカーを支援・育成

EARTHCOMPANY

01. IMPACT HERO
次世代につなぐ未来を創るポテンシャルのあるチェンジメーカーの支援

02. IMPACT ACADEMY
次世代につなぐ未来を創る人材育成プログラムを企業や学校に提供

03. MANA EARTHLY PARADISE
次世代につなぐ未来を具現化した新しい「あり方」の事例を提示

IMPACT HEROは、次の7つの条件をすべて兼ね備える逸材です。

- Authentic** 社会課題の当事者であり、活動のモチベーションが実体験に基づいている
- Passionate** 振るどない信念、課題解決に対する仕大な情熱、熱量を持つ
- Grounded** 地域の「希望の星」として期待を背負い、地域に根付くコミュニティーリーダーである
- Inspirational** 世界の人の心を突き動かす行動に導く、街外れのインスパイア力を持つ
- Leadership** 国内外多くの人から信頼を得、人・社会を動かすリーダーシップがある
- Irreplaceable** 他者の誰にも代われない、唯一無二の存在である
- Future-oriented** 従来のモデルに替わる、環境と共存する新しい未来を創ろうとしている



OUR IMPACT HEROES



IMPACT HERO 2011 アリア・ラヒビタ (インドネシア)	IMPACT HERO 2012 ウェイク・ヌー (大連市)	IMPACT HERO 2013 キョウジ・エトニル・キジナー (カンボジア)	IMPACT HERO 2014 ロビン・リム (インドネシア)	IMPACT HERO 2015 ベラ・ガルコス (東ティモール)
---	---	--	---	--

IMPACT HERO 2015 Bella Galhos

ベラ・ガルコス / 東ティモール / 環境教育



IMPACT HERO 2015 : Bella

自国の未来のために 生涯を捧げる不屈の戦士、ベラ

人身売買、少女兵、虐待、大虐殺、亡命、を経て大統領補佐官に。
2015年5月に東ティモール初の環境学校を設立。その後、レストラン、宿泊施設を併設するルブローラ・グリーン・ヴィレッジへと事業を発展させ、子どもたちの育成と地域経済の持続可能な発展に貢献。年間500人の子供が学び、国内外から2000人が訪問している。また現在はLGBTIQの子供たちのためのシェルターを運営し、自立支援を提供。



IMPACT HERO 2015 : Bella

ベラ・ガルコス / 東ティモール / 環境教育




500万円



550万円

Green School (2015) Green Villas (2017)

IMPACT HERO 2016 Robin Lim

ロビン・リム / インドネシア・フィリピン / 保健医療



IMPACT HERO 2016 : Robin

「愛」に生きる。
そうでなければ、なんのために
生きるのでしょうか？

一般医療、代替医療、教育、環境プログラム、コミュニティ開発まで手がける国際助産院プロセハット。ここは、社会的弱者の「駆け込み寺」となっている。年間サービス受給者数（2017年度）82,744人、全額寄付で成り立つ世界が注目する奇跡の助産院。



19

IMPACT HERO 2016 : Robin Lim

ロビン・リム/インドネシア・フィリピン/保健医療



1500万円



950万円



150万円



750万円

20

IMPACT HERO 2017

Kathy Jetnil-Kijiner

キャシー・キジナー/マーシャル諸島/気候変動



IMPACT HERO 2017 : Kathy Jetnil-Kijiner

私たちのような小さな国にも
豊かな未来を描く権利があるはず

気候変動の影響による、国土や文化の存続の危機から自衛を守るため、次世代環境リーダーを育成するプログラムを実施。天性の言葉力を駆使し、情熱的でパワフルなポエトリーリーディングやスピーチで、気候変動に対する対策の緊急性を訴えることで世界的な注目を浴びている気候変動活動家。



IMPACT HERO 2017 : Kathy Jetnil-Kijiner

キャシー・キジナー/マーシャル諸島/気候変動



2019年6月 完成!!

1000万円



Climale Youth Center (2019)

23

IMPACT HERO 2019

Wai Wai Nu

ウェイウェイ・ヌー/ミャンマー/民族間の平和構築



24

IMPACT HERO 2019 : WaiWai

ミャンマーで偏見や差別のない
社会を築くための教育を、次世代へ

教育こそが、自由や平和、そして社会的平等の扉を開き、民族間に信頼関係を築くと確信し、自らもロヒンギャであるウェイ・ウェイはミャンマーの少数民族のための教育施設を設立。
偏見や差別のない平和な社会を築く次世代リーダーを育成している。



25

IMPACT HERO 2019 : Wai Wai Nu

ウェイウェイ・ヌー / ミャンマー / 民族間の平和構築



2019年1月支援開始!

Yangon Youth Leadership Center

26

IMPACT HERO 2021

Arief Rabik

アリーフ・ラビーク / インドネシア / 土地再生



27

IMPACT HERO 2021 : Arief Rabik

竹が、世界を救うかもしれない。

竹のバイオリンであった母の下、10代の頃から1000種類の竹の名前を覚えていたというアリーフ。志半ばでなくなくなった母親の遺志を継ぎ、「1万の竹の村を世界10カ国に!」という壮大なビジョンを掲げ、成長の早い竹で木材に置き換わる新しい再生産業で、気候変動、森林伐採、貧困、男女格差の4つの課題の同時解決に挑む。



28

IMPACT HERO 2018 FINALISTS

K. Ramnath Chandrasekh

Abdul Matin Sheikh Maheen

Piter Harry Panjaitan

Sebastien Perret

Sharad Chandra Rai



インド
環境教育

バングラデシュ
教育改革

インドネシア
児童支援

ラオス
救急サービス

ネパール
教育改革

IMPACT HERO 2019 FINALISTS

Ego Lemos

Garvita Gulhati

Mona Lisa Karene

Sasiranga De Silva



東ティモール
食の主権回復

インド
水不足問題

サモア
農業改革

スリランカ
環境問題

IMPACT HERO 2021 FINALISTS

Randi Miranda インドネシア 森林伐採・女性雇用	Somsak Boonkam タイ 観光・地域創生	Saguffa Janif フィジー ゼロウェイスト	Kristin Kagetsu インド 生涯賃金	Muhammad Noor マレーシア 難民支援
Aravinth Panch スリランカ 起業家育成	Rhea Singhal インド プラごみ	Patima Tungpuchayakul タイ 漁業収益解放	Nguyen Thi Van ベトナム 障害者ビジネス	

1億6,962万円

累計寄付額 (2021年8月現在)
うち**9,032万円**を直接寄付

寄付件数 **1160件**
個人寄付者数 **652人**
ヒーローサポーター数 **284人**
企業寄付 **27社**

OUR IMPACT MAP 2014-2019

アジア太平洋
5カ国で
8施設を建設し
4カ所で災害支援
80万人

IMPACTHEROの活動を通して支援を届けた人の数

MISSION

次世代につなぐ未来を創る
 チェンジメーカーを支援・育成

EARTHCOMPANY

- 01. IMPACT HERO**
次世代につなぐ未来を創るポテンシャルのあるチェンジメーカーの支援
- 02. IMPACT ACADEMY**
次世代につなぐ未来を創る人材育成プログラムを企業や学校に提供
- 03. MANA EARTHLY PARADISE**
次世代につなぐ未来を具現化した新しい「あり方」の事例を提示

“People will forget what you said.
 People will forget what you did.
 But people will never forget
 how you made them feel.”

- Maya Angelou

「人はあなたが言ったことも、
 あなたがしたことも忘れてしまう。
 だけど、あなたが湧き起こした感情
 を忘れることは決してない」

マヤ・アンジェロウ
 黒人女性作家

IMPACT ACADEMY

研修プログラム開催実績

開催数: **45本** (渡航型・オンライン合計)
 参加者数: **24カ国**から**645名**
 (2021年5月時点)

企業・社会人研修の実績

Not exhaustive

TORAYA

- 株式会社忠地
- SDG4研修: インパクト評価研修、オフィスのエコ化に対する伴走支援、サステナビリティ・ビジョン宣言などの各種ワークショップを提供

essence

- エッセンス株式会社 (人材紹介・寄附)
- 次企業人材とベンチャー・地方企業をつなぐプロボノプラットフォーム「Itteki」の一環で、NHKや花王などからのプロボノチームの受け入れ

LOJEL

- 専門商社Lojel
- アジアの取組パートナー30名を対象に、プランディングの方向性をサステナビリティにシフトしていくを目的に、4月1日に一日のサステナビリティ・ワークショップを提供

SIGMAXYZ

- 株式会社シグマックス (コンサルティング事業)
- 約50名のコンサルタント向けに、SDGへの取組、アジアのソーシャルセクターのエコシステムに関するSDGのオンラインセミナーを提供



教育機関研修の実績

Not exhaustive

UWC ISAK JAPAN

- 学校のエコ化

立命館高校

- パリ島フィールド研修
- 学校CO2排出量可視化

マレーシア政府とMITが協働で創設したMBAプログラムAsia School of Business

- MBAのプロジェクトベースラーニングの一環でMBA生に対するプログラム提供

PRAC

- ハワイ島NPO法人 Pacific & Asia Affairs Council
- パリ島フィールド研修

大阪大学

- 大阪大学超域イノベーション博士課程プログラム
- パリ島フィールド研修
- オンライン研修




Operation Greenは、企業のオフィスや学校の施設から「未来を創る組織のエコシフト」をサポートしています。

Operation Green

エコシフト可能な施策 (学校&大学)



40

Operation Green 導入パートナー

2021年4月現在



UWC ISAK Japan

長野県長野市にある日本の全寮制国際高校。2021年10月学生主導の学生主体のプロジェクト開始。学生有志が年間OGプログラムを企画しながらエコ化を実行する。

富士屋 森のオフィス

八ヶ岳の coworkingスペース&シェアオフィス「Green Community」と題した coworkingスペースのOG化を2020年10月開始。ペトボトル販売中止、ウォーターサーバーリターンプログラム導入、コンポスト・現金回収・ゴミ分別導入、ローカルプロダクト優先導入&プランニング。

自然電力グループ

再生可能エネルギー開発・販売企業。2019年〜東京電力のOG勉強会、社内エコアクト実施を経て、認定バブル導入と廃棄物削減の勉強会も実施。

株式会社 虎屋

日本を代表する老舗和菓子企業。2020年〜OG勉強会、インパクト評価研修を経て、2021年サステナブル・ビジョン策定ワークショップ実施。

ナオライ株式会社

自動車部が拠点とする企業。2019年〜OG勉強会を経て、消費バブル導入。

NPO法人フリースペースたまりば


神奈川県川崎市にある市民活動支援のNPO。2021年2月OG勉強会を経て、SDG教育事業の一環でOGプログラムを推進。「地球を想う月間チャレンジ」「エコマップづくり」を実施予定。

石川県八重山高等学校


石川県七尾市にある次世代育成事業と連携。2020年4月石川県立サステナブルカレッジの推進を高校生がOGを学びながら企画を推進。「OG導入勉強会」を企画中。

41


Operation Green Ambassadors




Think The Earth
上田 壮一さん



聖心女子大学
永田 佳之さん



エンカル協会
末吉 里花さん



元パタゴニア日本支社長
辻井 隆行さん



weMORI
イアン清水さん

OG アンバサダー (啓蒙&アドバイザー)

- OGのミッション、アプローチに賛同する組織・個人
- 相互の広報協力
- アンバサダーからの専門的なアドバイス提供

42

MISSION
次世代につなぐ未来を創る
チェンジメーカーを支援・育成

EARTHCOMPANY

01. IMPACT HERO
次世代につなぐ未来を創るポテンシャルのあるチェンジメーカーの支援

02. IMPACT ACADEMY
次世代につなぐ未来を創る人材育成プログラムを企業や学校に提供

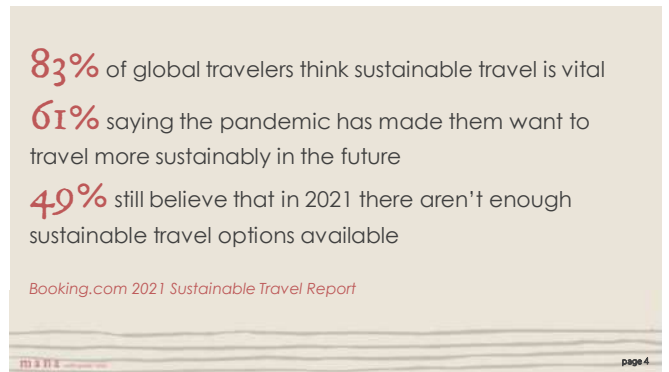
03. MANA EARTHLY PARADISE
次世代につなぐ未来を具現化した新しい「あり方」の事例を提示

EARTH COMPANY

We do not inherit the earth from our ancestors.
We borrow it from our children.



Manaについて



次世代につなぐ未来の一例
 =
 経済が回れば回るほど
 地球上の人、社会、環境が良くなる
 循環型の仕組み

mana

楽しくないと広まらない！

mana

mana key facilities



mana eco villas
 アースバッグ技法で建てた
 エコヴィラ



mana kitchen
 ホテルの畑で原種から育て
 たオーガニック野菜で作る
 インドネシア料理



mana market
 人と社会と環境に良いもの
 しか売らない
 エシカルマーケット

mana

page 9



mana earth bag houses

- シンプル
- 安価
- 早い
- 耐久性が良い
- エコ
- 熱伝導が遅い

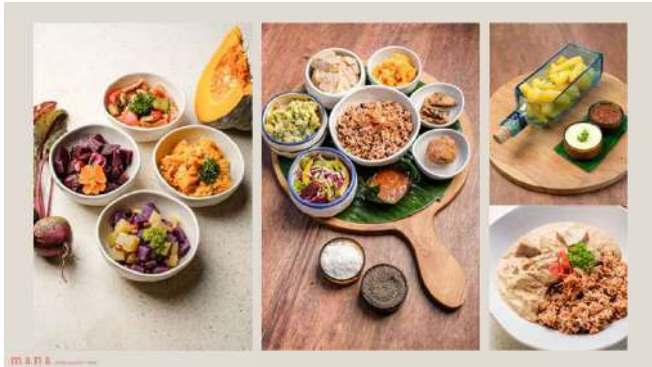


イランの難民キャンプで
 国連が使用！そしてなんと
 NASAも注目！

mana







mana market 買えば買うほど世界が良くなっていっちゃうお店

mana's Elements

<p>organic</p> <p>It's almost impossible to find anything organic nowadays, but we try to stay as chemical-free as possible to keep you, our community, and Mother Earth healthy!</p>	<p>eco</p> <p>We are earth-friendly. We make sure we live in harmony with nature so we can pass on this beautiful world to our children and beyond.</p>	<p>ethical</p> <p>We try our best to ensure that all people and animals involved in the entire value chain of the products are treated with respect - free of exploitation and abuse.</p>	<p>social</p> <p>We consciously support suppliers and manufacturers who represent marginalized people such as women, rural communities, indigenous people, and people with disabilities, etc.</p>	<p>local</p> <p>We keep our selection of products as local as possible. Imported goods not only emit so much CO2 in their journeys but also fail to contribute to the local economy. We support the growth of local entrepreneurs, producers and businesses.</p>
--	--	--	--	---

mana market products

<p>廃油で作られた食器洗い洗剤</p>	<p>計り売りのスープ</p>	<p>NGOが作る商品</p>	<p>自然素材の掃除グッズ</p>
<p>地元のおばちゃんの手り売りスライス</p>	<p>気候変動の解決につながるコーヒー</p>	<p>廃タイヤを使ったアップサイクルサンダル</p>	<p>森林伐採の被害者を救うバッグ</p>

mana market impacts

organic

- ORGANIC
- NON-GMO
- NO ARTIFICIAL
- HEIRLOOM

eco

- ECO TECH
- CO2 ↓
- PROTECTS OCEAN
- ZER WASTE
- UPCYCLED
- REDUCED PLASTIC
- PROTECTS ECOSYSTEM
- CONSERVES BIODIVERSITY

ethical social

- NGO
- PROMOTE EDUCATION
- DEVELOP COMMUNITY
- PRESERVE CULTURE
- 100% WOMEN TEAM
- WOMAN-LED COMPANY
- EMPOWER WOMEN

local

- 100% LOCALLY OWNED
- 100% LOCAL TEAM
- 100% LOCAL SUPPLY CHAIN



next gen hotels for travellers
 A video series on youtube that sheds spotlight on sustainable hotels to inspire independent, conscious adventurers with post-covid travel ideas

<p>Episode 01 Mana Earthly Paradise Asia's Next Gen Hotels 498 views · 3 months ago 1.2K views · 5 months ago CC</p>	<p>Episode 02 Pulau Macan Asia's Next Gen Hotels 498 views · 3 months ago CC</p>	<p>Episode 03 Nikoi Island Asia's Next Gen Hotels 15 views · 3 hours ago</p>	<p>Asia's Next Top Model for Asia's Next Gen Hotels 181 views · 5 months ago</p>
---	--	---	--

Introduction

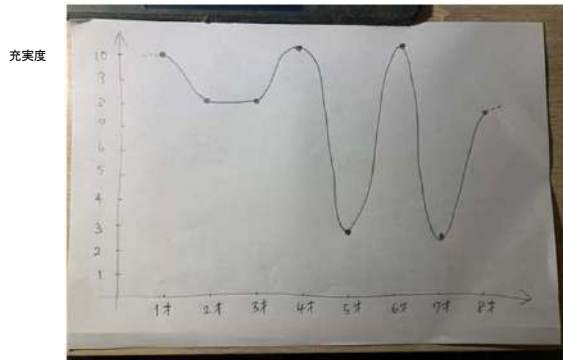
世界一エコな学校と呼ばれる『Green School Bali』に通う息子

Kimiko Aida

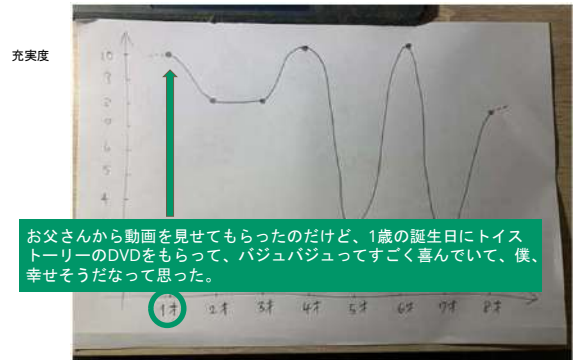
會田倫大（あいだりお） 8才

1年生1学期まで東京で過ごし、2019年8月よりバリ島のインターナショナルスクール『Green School Bali』にGrade1として入学。途中、新型コロナウイルスの影響で10か月間東京に戻り、2020年12月、Grade2の冬にバリ島に帰国。今はGrade3が始まって2週間目。趣味は、本と漫画を読むこと、マイクラ、ニワトリとネコと馬のお世話、モトクロス、サーフィン。

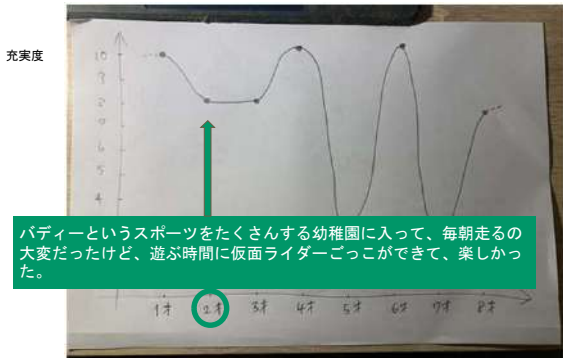
Life Story



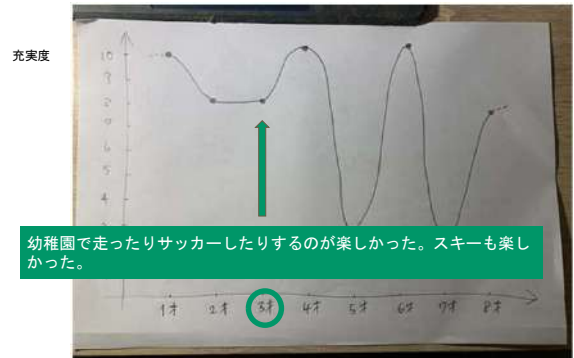
Life Story



Life Story

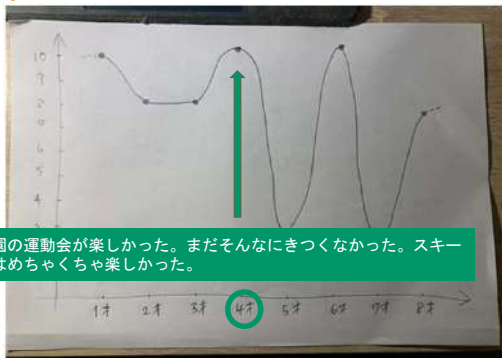


Life Story



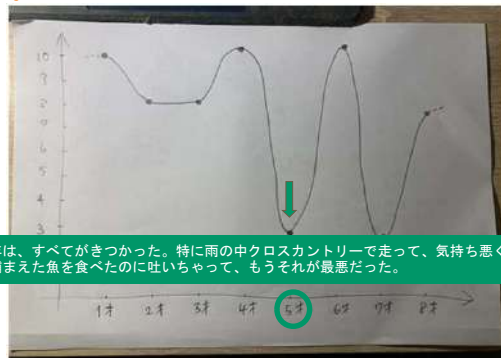
Life Story

充実度



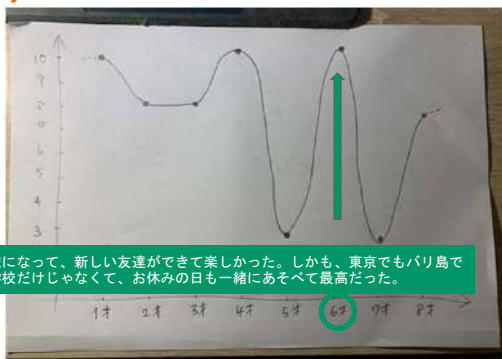
Life Story

充実度



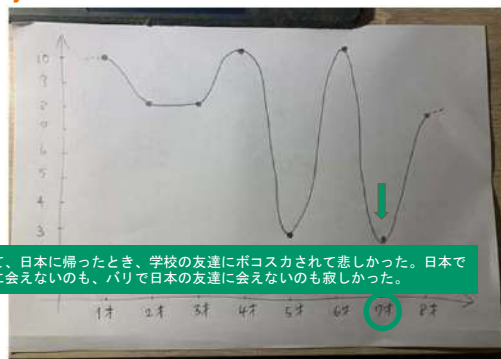
Life Story

充実度



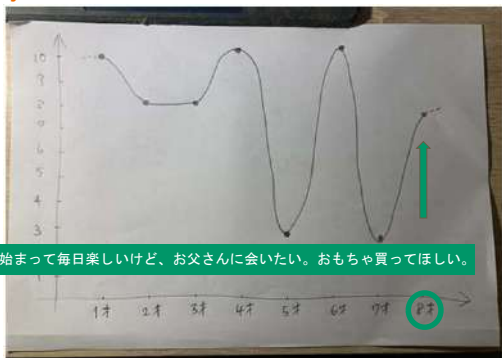
Life Story

充実度



Life Story

充実度



Introduction



會田真美子（あいだきみこ） 8才&2才男児のお母さん

小林聖心女子学院高等学校を卒業後、大阪大学で物理学の宇宙地球科学を専攻し、月探査衛星『SELENE』チームで研究に従事。大学院を中退後、リクルートに入社し、広告業界×不動産業界で12年間サラリーマンを経験。2019年のパリ島移住をきっかけにフリーランスに。

徳之島の『宮出珈琲園』経営メンバー。息子のGreen School通学と自然豊か&人のぬくもりあふれるパリライフを楽しんでいる。趣味はサステナブルスポット巡りと発酵食品つくりと海遊び。

Earth Ship MIMA@徳島県美馬市

ゼロ・ウェイストアクションホテル
「HOTEL WHY」@徳島県上勝町

KURKKU FIELDS@千葉県

宮出珈琲園@徳之島

Pulau Macan Eco Resort@インドネシアジャカルタ

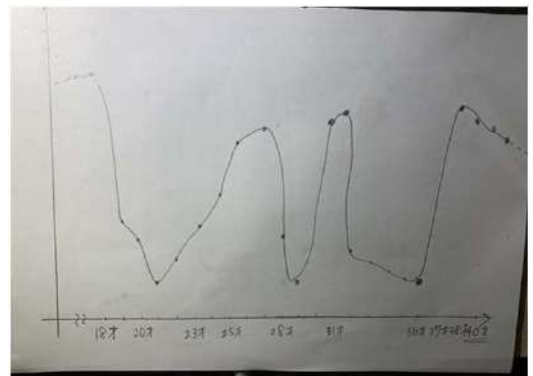


Mana Earthly Paradise@インドネシア バリ島



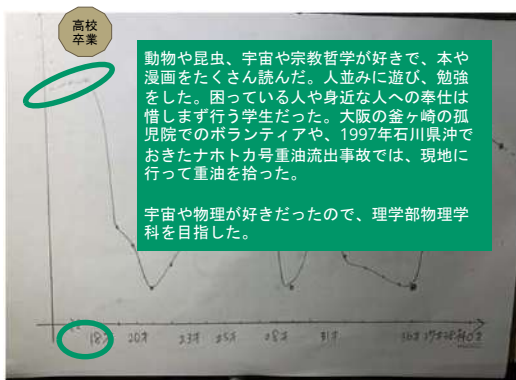
Life Story

充実度



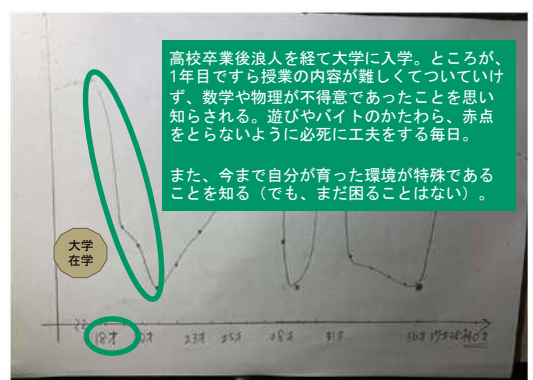
Life Story

充実度



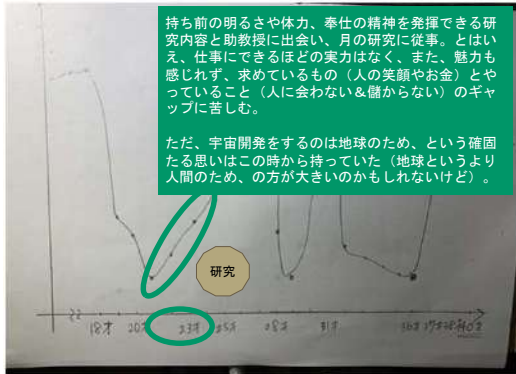
Life Story

充実度



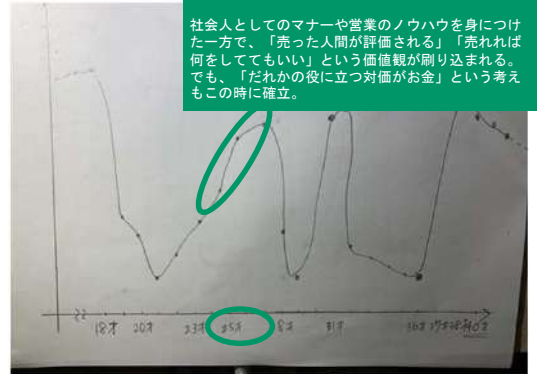
Life Story

充実度



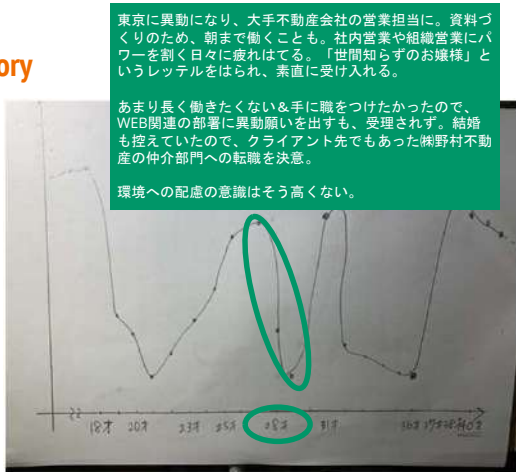
Life Story

充実度



Life Story

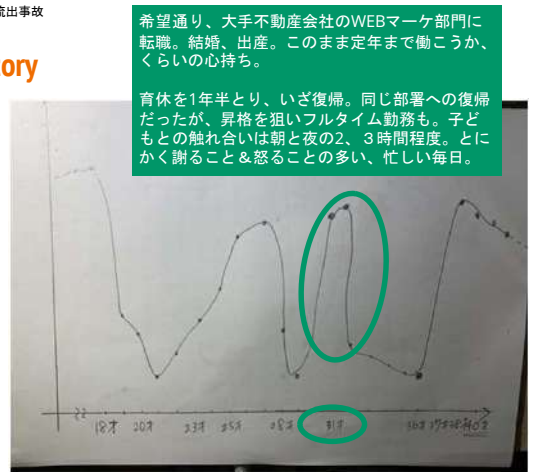
充実度



ナホトカ号重油流出事故

Life Story

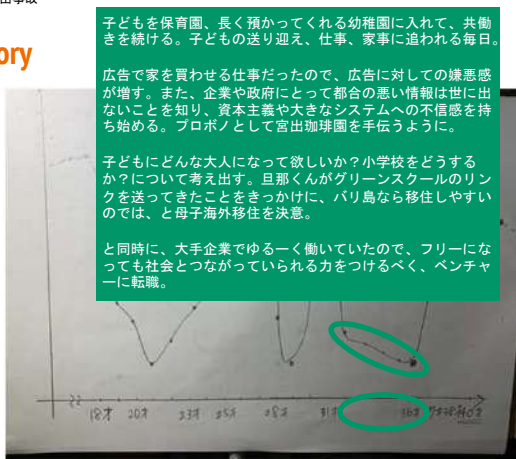
充実度



ナホトカ号重油流出事故

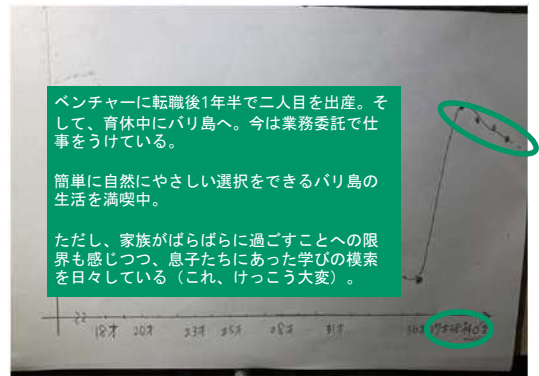
Life Story

充実度



Life Story

充実度



Green School Bali



Mission

To create a global community of learners, making our world sustainable.

Vision

Of a natural, holistic, student-centered learning environment that empowers and inspires our students to be creative, innovative, green leaders.

IRESPECT Value

Integrity – being honest and ethical with thoughts and actions.

Responsibility – being accountable for thoughts, actions and deeds.

Empathy – understanding and caring for the feelings of others.

Sustainability – ensuring that your own body and surroundings are cared for so they are clean and healthy for as long as possible.

Peace – contributing to a state of harmony.

Equality - respecting everyone as an equal and as an individual.

Community – being part of a group seeking common goals and taking care of each other.

Trust - building and maintaining strong relationships with each other, the school and the environment.



Facts and Figures

- 33 Nationalities
- 210 Students onsite, 125 out of Bali
- 9 new teachers
- 56 new families
- 21 Student Projects 'Banked'
- 30+ campus projects completed (one to go)
- 85% of educators continued from last year to this year
- 86% of parents are on the GS Broadcast service
- 100% of our community will join the Green School Carbon Zero program



green school



ENERGY



Recycling Center

Farm



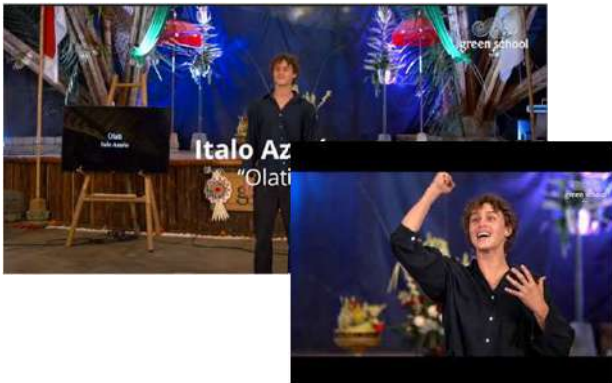
TOILET 1



TOILET 2



Green Stone



TOPICS

Huawei Supports Green School Bali with Leading Solar Energy Inverter

AUGUST 25, 2021

Jakarta. Huawei has donated its award-winning solar solution to Green School Bali, the 'Greenest School on Earth', and is helping the school to close the gaps in becoming a carbon neutrality campus and environmentally-friendly community.

Green School students helped to set up and install the solar inverter and solar panels at Green School, learning about renewable energy in the process. It's an example of how the school teaches subjects through hands-on projects applied to real-world circumstances, what they call REAL Learning.

Solar power is anticipated to become the No. 1 source of electricity by 2050. As the major player in the industry, Huawei's contribution to Green School Bali will benefit hundreds of young learners aged 3-18, their parents, teachers and the entire community.



Rio's School Life



ONLINE



ONLINE



Report



学校外の生活



息子に聞いてみた

日本の学校と Green school どう違う？

Greenschoolは宿題がなくて楽しいよ。授業も勉強ばかりじゃないし。

でも、東京の友達に会いたい。

将来なにに なりたい？

サバゲーのプロ

バリ島どう？

暑い。

学校で最近学んだ ことは？

インドネシア語で「ゼロ」は「ヌー」って言う
いかだの作り方

プラスチックについて、 どう思う？

海が汚くなるから、プラスチックはいらないと思う。

よく聞かれること



なぜ子どもを Green schoolに？

宗教や倫理観と同じように、Sustainableであることは、行動や判断基準の土台となる価値観だと思う。

特に、これから仕事やつながりをつくっていくうえで、大事な価値観。

日本では、事実や正しい知識を得にくい。興味関心も持ちにくい。

親が子どもに教えることができることは限られてる。価値観を共につみあげる先生と友達が必要。

でも、ぶっちゃけ、はじめての海外生活のため、ブランディングや広告に負けた側面もあり。

一番苦労した ことは？

英語をまったく話せない息子のフォロー。最初の一年は、息子が一番苦労したはず。


Grade1では若い新米先生が担当となり、とても大変だった。しかし、校長先生やカウンセラーと交渉して、個別対応をしてもらった。

具体的には、幼稚園への編入やルールの導入、復帰後は英語補修クラスへの編入など。日本の学校では考えられないくらい柔軟に対応をもらった。

Thank you

なんでも聞いてください
Kimiko Aida

コペルニクを始めるまでと現在の活動紹介

For:  聖心女子大学現代教養学部

22 May 2021

WEBSITE kopernik.info TWITTER [@thekopernik](https://twitter.com/thekopernik) FACEBOOK facebook.com/thekopernik

今日話すこと

1. コペルニクを始めるまで
2. コペルニクの活動
3. 新型コロナの影響と支援活動

今日話すこと

1. コペルニクを始めるまで
2. コペルニクの活動
3. 新型コロナの影響と支援活動

生まれ育ち

- ・ドメスティックな家庭に生まれる
- ・父の国内転勤が多く、広島県、大阪府、京都府、茨城県、などで育つ
- ・中高は大阪の私立。大学は京都
- ・イギリスで大学院

国連の仕事にあこがれたきっかけ



緒方貞子さん



明石康さん

ジュネーブ



東京



7 KOPERNIK.INFO

コベルニク

東ティモール



8 KOPERNIK.INFO

コベルニク

インドネシア



9 KOPERNIK.INFO

コベルニク

シエラレオネ



10 KOPERNIK.INFO

コベルニク

ニューヨーク



11 KOPERNIK.INFO

コベルニク

今日話すこと

1. コベルニクを始めるまで
2. コベルニクの活動
3. 新型コロナの影響と支援活動

12 KOPERNIK.INFO

コベルニク

途上国の課題をより効率的に解決することを目指し、2009年にコペルニクを創設



持続可能な開発目標 = SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)



KOPERNIK.INFO/JA

コペルニク

持続可能な開発目標 = SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)



KOPERNIK.INFO/JA

コペルニク

きれいで安全な水へのアクセス



KOPERNIK.INFO/JA

コペルニク

きれいで安全な水へのアクセス



KOPERNIK.INFO/JA

コペルニク

インドネシア発のNAZAVA WATERはシンプルなフィルターを、安く、使いやすくしたことで成長している。



濾過と浄化

- ・ セラミック濾過
- ・ 活性炭
- ・ 銀
- ・ 16のラボで検査済

キャパシティー

- ・ 7000リットル(1.5年以上)
- ・ 一時間2-3リットル

使いやすい

- ・ 簡単な設置、メンテナン
- ・ リテール2000~4000円

KOPERNIK.INFO/JA

コペルニク

フィルター以外はで、太陽熱で蒸散させ、海水を淡水化するものもある。



21 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

持続可能な開発目標 = SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGs)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



21 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

電気がない場所



21 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

パナソニックは、ソーラーライトで途上国の未電化の村に明かりをとす活動を行っている。



Source: L&L ウェブサイト

22 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

薪での調理



23 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

薪での調理



23 KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

煙が少なく、薪の量が減る調理用カマド



KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

干ばつによる農作物への被害



Source: <https://www.afpb.com/articles/2890621>
KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

農業に不可欠な水をより効率的に供給する足踏みポンプ



Source: IDE India

KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

三菱電機は、コベルニクと共同でインドネシアのラストマイルでR&D,実証実験を行った。



バイクに乗った魚売りとはぐんだ魚の様子



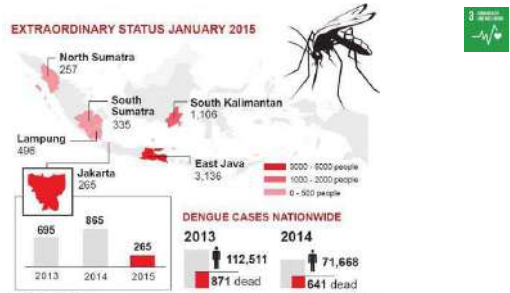
バイク電送で動く小さな冷蔵庫の試作機

Source: 三菱電機ウェブサイト https://www.mitsubishielectric.co.jp/corporate/csr/management/tdgs/jpdf/mal_world_project.pdf

KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

マラリアやデング熱の被害



KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

ユニリーバは、コベルニクと共同で、ミャンマーにおいてマラリア・デング熱予防製品の検証実験を行った。



KOPERNIK.INFO/JA

コベルニク

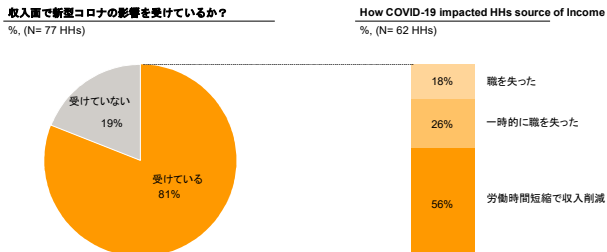
今日話すこと

1. コペルニクを始めるまで
2. コペルニクの活動
3. 新型コロナの影響と支援活動

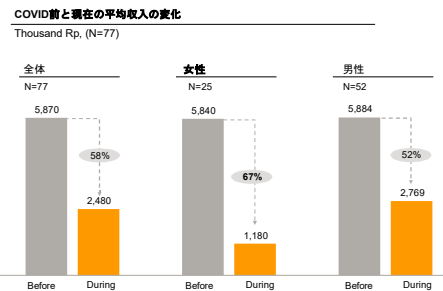
2020年5月に行った調査



仕事・収入に関する簡易調査を行った結果、8割以上の人々が収入に影響を受けており、そのうち、44%は仕事がなくなった。



女性に対するインパクトは男性より大きい。



新型コロナ対応プロジェクトの一環で、フェイス・シールドを現地の材料・人員で組み立てることができるよう設計。



アルコール不足とハンドサニタイザーへの大きな需要問題が浮上



- ・ 観光客が激減し、ホテルやレストランが閉鎖。
- ・ そこに卸していたバリのアラック(ヤシから作る焼酎のようなもの)生産者の仕事がなくなる。
- ・ 一方、新型コロナの影響で、ハンドサニタイザーの原料に使用されるアルコールの需要が高まり、バリ内でのアルコールが入手不可能に。
- ・ 自然の原料で蚊よけスプレーや、サニタイザー、化粧品などを生産していた現地メーカーも多くの人を解雇せざるを得ず困っていた。
- ・ 多国籍酒造企業のディアジオがインドネシアで何かできないかと声をかけてくれた。アルコールと資金を寄付してくれることに。

様々なパートナーをつなげ、現地サニタイザー製造をプロデュースし、数百人を雇用。

現地アラク製造者

現地消費財製造者

DIAGEO

多国籍製薬会社

ローカル
ハンドサニタイザー

37 KOPERNIK.INFO KOPERNIK

アラク製造場所の様子

38 KOPERNIK.INFO KOPERNIK

VR for SDGsは360度動画を使ってSDGsに関する課題を理解し、ソリューションにつなげるプラットフォームです。

VR for SDGs

Urban water management challenges

RICOH

UN VOLUNTEERS

THE WORLD BANK

39

VRゴーグルを使うのが一番臨場感が高いですが、今日はPCの画面上で少し紹介します。

使うデバイス

1) PC

2) 携帯電話のみ

3) 携帯電話とVRゴーグル

低い 臨場感 高い

40

Virtual Reality - インドネシアのプラスチックごみ問題 -

- ① スマートフォンで、下のQRコードを読み取るか、以下のリンクを入力し、動画にアクセスしてください。
<https://qr.go.page.link/raoki>
- ② スマホ画面右下のVRボタンで、動画をVR用に切り替えてください。
- ③ VRメガネをスマートフォンに装着して視聴ください。

360° VIDEO THE PROBLEM OF PLASTIC POLLUTION IN INDONESIA

41

360° VIDEO THE PROBLEM OF PLASTIC POLLUTION IN INDONESIA

42

国際会議でコペルニクの紹介をしたり、



Kopernik Brings Lean Experimentation & Multi-Sector Collaboration to Sankalp Southeast Asia Summit 2017

43

メルボルン大学院（オーストラリア）、ガジャマダ大学院（インドネシア）の修士課程の授業を受け持ち、課題の理解促進とソリューションの議論を行いました。



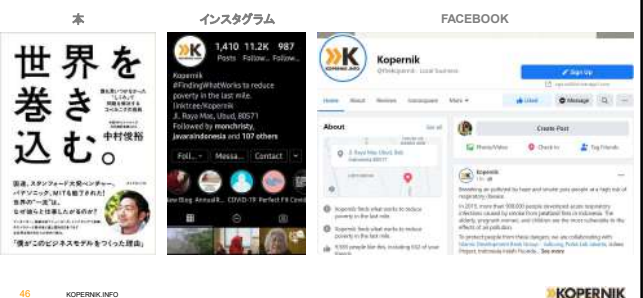
44

360度動画を使って、市場調査を行いました。



45


さらに興味があれば



46



コペルニクを始めるまでと現在の活動紹介

For:  聖心女子大学現代教養学部

22 May 2021

WEBSITE kopernik.info TWITTER [@thekopernik](https://twitter.com/thekopernik) FACEBOOK facebook.com/thekopernik

さゆーる先生 バリ島移住

もちづきさゆり

私のあしあと🐾

- ・宮崎県に生まれる
- ・大阪10年（大学～小学校教諭）
- ・インドネシア3年（ジャカルタ日本人学校教諭）
- ・横浜5年（結婚・出産・教諭）
- ・バリ島2年半（日本語クラス・遊びイベント）**現在**
夫・子ども二人・猫（マス村の田んぼのそば在住。コペルニクとご近所）



わが家から

小学校1年生～私の原点

- ・船乗りだった父の死
- ・破天荒だった担任の先生
死ぬまでマラソン、なんでも質問、心の時間 → ワクワクする授業
ひとりぼっちの遠足、4先生のときの声かけ → ちゃんと見てくれている
- ★学校は、安心できる私の居場所



故郷の宮崎にて



中高大～不登校時代

- ・楽しかった小学校～中高はいじめをうけ不登校に
- ・夢や進路に迷い、母と衝突
- ・大阪の教育大（夜間）へ、昼間はバイト夜は学びとサークルで大充実！
・・・のはずが！？
- ・やさぐれ生活（鬱、依存症）、大学を休学（5年→7年で卒業）



沖縄・八重山諸島のテント旅へ、自然とともに暮らす中でみるみる元気に！

大阪新任時代～先生としての土台

- ・担任をしながら大学生！？
- ・4年生は下町のちびっこギャング
- ・次から次へと課題が山積み、本気で関わるといふ姿勢
(シングル、同和問題、外国人差別、貧困、ネグレクト、性虐待・・・)

具体的なエピソードを話す方が伝わりやすい

- ・新任の時の韓国のこの話「韓国人やからや」それはちがう、はっきり教頭が言う
「発達障害があるからや」
- ・子どもは国籍や障がいの有無でもめるのではない、大人に根深い差別意識。
わが子が大事なあまり相手の子への攻撃に変わる。心の弱さ、強さ。
- ・家庭の中にある性虐待、見えにくい問題、教員としての無力感～機関との連携



広島へ 語り部の人たちの生きる姿～語る会



大阪新任時代～先生としての土台

- ・担任をしながら大学生！？
- ・4年生は下町のちびっこギャング
- ・次から次へと課題が山積み、本気で関わるといふ姿勢
(シングル、同和問題、外国人差別、貧困、ネグレクト、性虐待・・・)

★「しんどい子」を中心にしたクラスづくり **人権・平和 人が人を変える**
「語る会」体験や想いを重ね合い、自分事として捉え、子どもが変わっていく



ジャカルタ日本人学校

念願の海外赴任！ジャカルタ日本人学校

- ・ザ・多様性！（歴史、価値観、人種、宗教、文化etc・・・）
- ・「チャンプル」な子どもたちとの出逢い
- ・下町を歩いて写真を撮る、社会人バンドで大学祭ライブ
- ・ゴミ山で暮らす子どもたちとアンクロンの交流、ストリートテルドレン



下町を歩いて写真を撮る



インドネシアの島々を巡る旅



社会人バンドで大学祭ライブ～若者世代の日イ

念願の海外赴任！ジャカルタ日本人学校

- ・ザ・多様性！（価値観、人種、宗教、文化etc・・・）
- ・「チャンプル」な子どもたちとの出逢い
- ・下町を歩いて写真を撮る、社会人バンドで大学祭ライブ
- ・ゴミ山で暮らす子どもたちとアンクロンの交流、ストリートテルドレン

★心の豊かさと物質的な豊かさはイコールではない
教育が本当に必要な子どもにこそ、教育が行き届いていない



結婚
出産
育児

産後の職場復帰～生き方を見つめる

- ・児童結婚や女性器切除の現実には衝撃を受け、団体に参加、性教育を学ぶ
→小学校や保育園、親子にいのちの話を伝える。しかし公教育では**タブーの壁**
- ・受験勉強に向けた授業、学校の勉強って何だろう？制限が多すぎ、多忙すぎ

★私には日本の学校で働くのは「合わない」のかもしれない。
★働き方、生き方を見つめ直す。本当はどんなふうになりたい？？



先生として、親として、その前に・・・
私はどう生きたい？



もっと自由に生きたい！
もっと世界を体感したい！

教員を退職～バリ島移住

- ・「もう一度、インドネシアで暮らしたい！」
→グリーンスクールを知り一人旅へ、その後、母子で一ヶ月滞在
- ・ブミスハットの冊子を見つけ見学へ、感動！
→アースカンパニーとの出逢い



教員を退職～バリ島移住

- ・「もう一度、インドネシアで暮らしたい！」
→グリーンスクールを知り一人旅へ、その後、母子で一ヶ月滞在
- ・ブミスハットの冊子を見つけ見学へ、感動！
→アースカンパニーとの出逢い

★インドネシアで生きたい！「いつか」ではなく「いつも」を選ぼう！
家族でとことん話し合う～最後はタイミングといきおい！



2019年バリ島移住

現在：日本語をベースにした子どもの活動

- ・子どもたちはシュタイナーの学校へ
- ・日本語クラスの運営（学校へ通っていない子、グループ、ポップカルチャー）
- ・遊びや日本行事イベント（昔遊び、鯉のぼりづくり、七夕、ゴミの分別クイズ）
- ・アートキャンプ（竹水でっぼう、トペンづくり、ダイナミックな遊び）
- ・ワンデイキャンプ（バナナの茎スープ、鶏をしめる）



チャンプルの中で育つ



ゴミの分別クイズ～エコ宝さがし





五感で味わう
からだをつかって
いのちをいただく

現在：日本語をベースにした子どもの活動

- ・子どもたちはシュタイナーの学校へ
- ・日本語クラスの運営（学校へ通っていない子、グループ、ポップカルチャー）
- ・遊びや日本行事イベント（昔遊び、鯉のぼりづくり、七夕、ゴミの分別クイズ）
- ・アートキャンプ（竹水でっぽう、トベンづくり、ダイナミックな遊び）
- ・ワンデイキャンプ（バナナの茎スープ、鶏をしめる）

★体験から得るものは無限大。

パリ島の自然・文化・人の中でチャンプルに学ぶ。

今、感じていること

- ・その土地に住んでいるから、見えること。
- その土地に住んでも見よう知ろうと行動しないと分からないことは多い。
- （教員時代の子どもの課題、貧困、受験、いじめ、ジャカルタの路地裏、バリ島ごみ問題等・・・）

★事実を問題提起してくれる存在とつながること＝アースカンパニー

★自分ごととして捉え、何ができるか？ 私自身→子どもたち

今日は9月1日 自ら命を絶つ子がいる

- ・学校だけがすべてじゃない
- 学校も一つの居場所、先生も一人の大人
- 「あなたが大事だよ」でつながる網の一本 ★Hくんのエピソード
- ・いろんな選択肢を示す → 重なり合ってセーフティネットに

★子どもの視野・世界を広げること。まずは大人から！

今日は9月1日 学校に行かなくてもいい日

- ・学校だけがすべてじゃない
- 学校も一つの居場所、先生も一人の大人
- 「あなたが大事だよ」でつながる網の一本
- ★いろんな選択肢を示す → 重なり合って育むセーフティネットに

→自分のままで思いっきりいられる場所 私の原点

★私に出逢った子にとって、そういう存在、そういう場をつくらせていきたい

みなさんへ

- ・正直なところ・・・私は日本で教員を辞めた後ろめたさがありました。
- でも、やっぱり自分の人生だから、自分らしく生きたい。
- 今回お話しする機会ですべて肯定できた気がする。感謝！

・先生であっても、先生でなくても、自分らしい生き方を大事にしたいですね。

「いつか」ではなく「いつも」心は幸せでいきましょう！レッツらJOY♪

SDGsバリ島研修Day4

Day 4
SDGsバリ島研修
聖心女子大学
2021.08.29～09.02
Program Overview
EARTH COMPANY



SDGsのその先を
一緒に思い描く研修

Last day

3

SDGs
バリ島研修

1. 全体のふりかえり (20min)
2. グループでふりかえり (15min)
3. 個人の振り返り (30min)
4. 共有の時間(2h40min)
5. 最後のふりかえり

アクティブ・リスニング

5

SDGs
バリ島研修

1. 全体のふりかえり (20min)
2. **グループでふりかえり (15min)**
3. 個人の振り返り (30min)
4. 共有の時間(2h40min)
5. **最後のふりかえり**

グループでふりかえり (15min)

「研修を通じて印象に残っていること」

Aska Sara Natsumi	Sakura Sachika Shino	Rio Aki Ako
-------------------------	----------------------------	-------------------

SDGs
バリ島研修

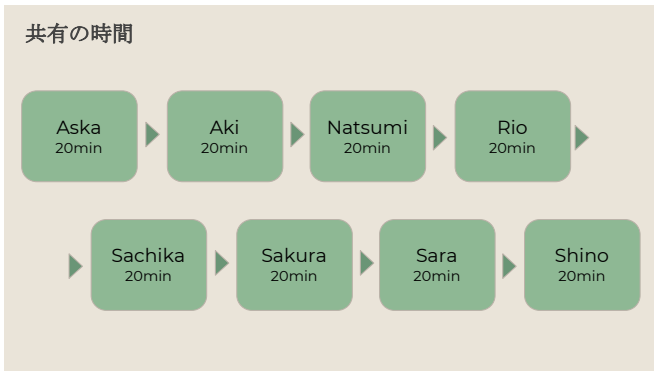
1. 全体のふりかえり (20min)
2. グループでふりかえり (15min)
3. 個人の振り返り (30min)
- 4. 共有の時間 (2h 40min)**
5. 最後のふりかえり



共有の時間

自分が思う「次のキーメッセージ」
どんな順序を書きたいという「私の思い」

1. 1人ずつ10分共有
2. 毎回フィードバック (10分)
 - みんなから発表者へ
 - アースカンパニーから
 - 永田先生から



SDGs
バリ島研修

1. 全体のふりかえり (20min)
2. グループでふりかえり (15min)
3. 個人の振り返り (30min)
4. 共有の時間 (2h 40min)
- 5. 最後のふりかえり**



ピサン・ゴレン&サンバル・マタの
本当の味を確認しようの会（同窓会）

Tomo & Aska & Ako in Tokyo
Winter 2021（たぶん）

13

EARTH COMPANY

We do not inherit the earth from our ancestors.
We borrow it from our children.



9. フォトギャラリー



Manaのランチセット：タコカレー、
ミネストローネ、サラダ、フムス、
しいたけ、酵素玄米



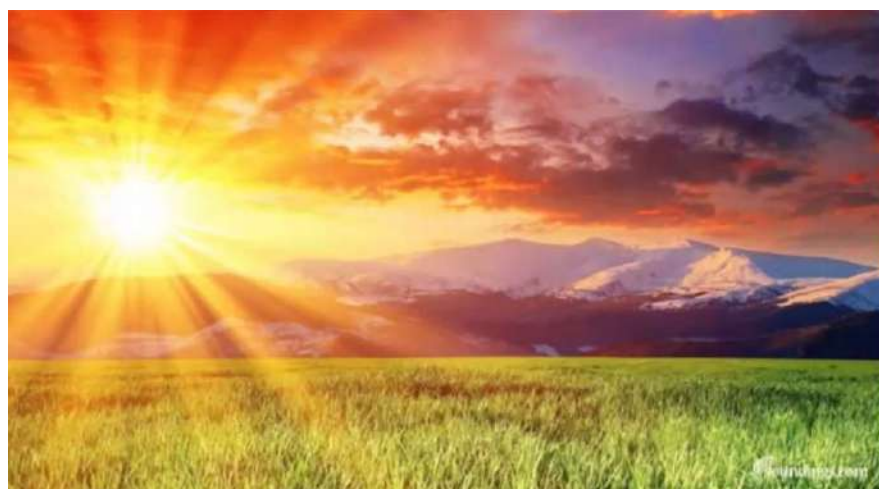
乾季のバリ



お香の香り漂うバリ



お香のお店



瞑想から始まるスタディツアー



小道ライブ



バリから日本へ向けて



バリのキッチンから生中継



自宅のキッチンでバリ料理に挑戦



ピサンゴレン



日本のバナナは柔らかいようで…



それぞれのピサンゴレン



バリの静かな朝



毎日のお供え物



バリやManaを案内していただきました！



Manaの柱に使われている木の自己紹介



バリから届くゲストスピーカーのライフストーリー



Earth Companyのオフィス



ゲストスピーカーのみなさん



サラスワティー寺院



Manaは
まるでパラダイス!



Manaでピクニック



Akoさんのバリリポート：
Kayu Putih@タバナン県



Akoさんのバリリポート：
テガララン@ギャニャール県



雨季のバリ

10. Internal Reflection(アンケート)

Internal Reflection 聖心女子大学バリ島SDGs研修

30th Sep 2021

EARTH COMPANY



アンケート項目

1. ツアーへの満足度
2. 制約を感じたかどうか
3. 最も自分の価値観が変わった/影響を及ぼしたセッション (3つ選択)
4. 3つを選んだ理由
5. 楽しかったセッション
6. 私の宣言(今日から始める、変わる、挑戦するなど)
7. *今回のツアーへのご意見やご提案など
8. *アースカンパニーへの提案や改善点
9. 永田先生への提案(授業やゼミなど)
10. *その他、コメント

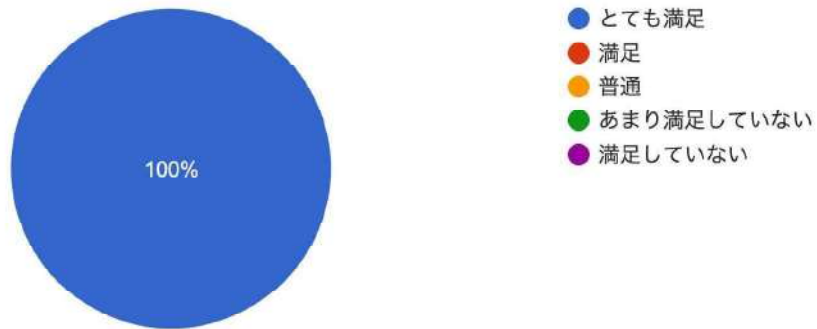
*7,8,10への回答は「感想」に近かったのでまとめました



1. 満足度

ツアーへの満足度

8件の回答

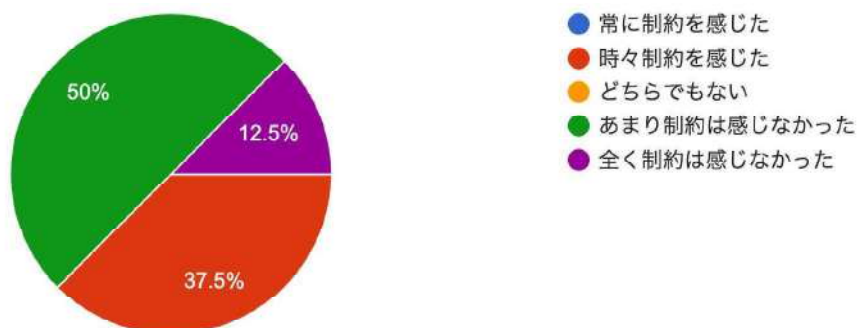


5

1. 制約を感じたか？（永田先生が希望された質問）

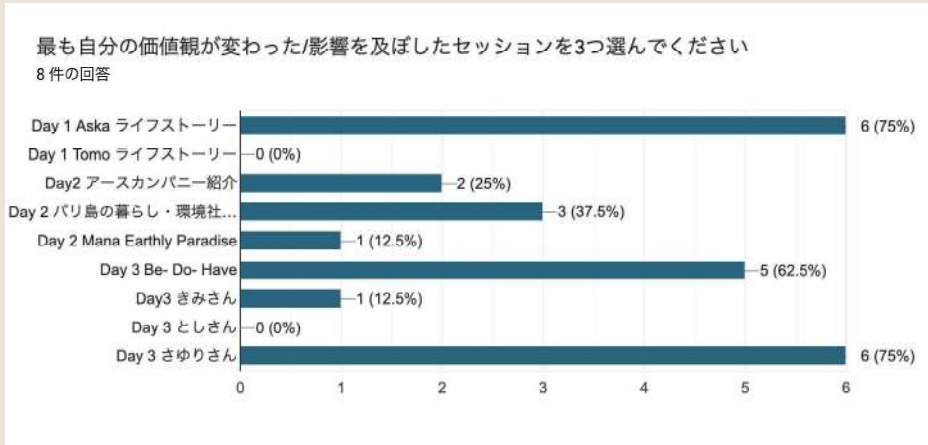
今回は初めてオンラインで海外ツアーを実施しました。次の中から一つ選択してください

8件の回答



6

3. 価値観が変わった/影響を及ぼしたセッション(3つ選択)



- 多い順
1. Aska & さゆり
 2. Be-Do-Have
 3. バリ島課題
 4. アースカンパニー
 5. Mana
 6. きみ

4. 選択理由(セッションごと)

Aska Life Story

- 気候変動の被害を受けているツバルの人が、この状況を引き起こした先進国の人を責めないと聞いて、こんなにも寛大で温かい人がいるのかと驚いた。人間としての在り方について考えさせられた。

さゆり Life Story

- 教師をしていたという経験からか、お話を聞くとともに愛情を感じ心が温まり、自分の中で何かが変わった記憶があります。
- 自分の想いと向き合い、自分に正直に生きているさゆりさんのお話を聞いてすごく勇気づけられた。

Be- Do-Have

- 自分たちの豊か暮らしとは？そしてお金とは考えるきっかけとなりました。今までの自分の生き方は人生の本当の楽しさ自分らしさを失っているのでは？と感じました。
- Be-Do-Haveの考え方は、これからの私の人生の指針になる考えになりました。

バリ島

- 観光地というイメージが強かったバリ島のリアルな暮らし方やバリ島にどんな課題があるのか、またそれらの課題の一部は観光客として利用することもある我々にも問題があるということを知り、印象に残っています。

アースカンパニー

- ガンジーの「見たいと思う世界の変化にあな自身になりなさい」をアースカンパニーは体現していて、かっこいい。
- 私も、誰かが豊かになればどこかで社会問題や環境問題が生まれる今の社会を、社会の発展が相乗効果をもって地球上全ての命のウェルビーイングを向上するあり方に変えていきたい、そういう仕事をしたかった。

きみ Life Story

- お子さんをグリーンスクールに通わせている方のお話を聞く機会は少ないですし、実際グリーンスクールがどのような場所で、グリーンスクールの持つ課題も親目線から知ることが出来て興味深かったです。

全体へ

- どのセッションも心が動く瞬間がありましたが、3つのセッションは **思わず涙が出てしまうほど、心にグッとくる** ものでした(Aska/Be-Do-Have/さゆり)。
- 考えたことのないことに触れ、新しい世界に入った** ような気がしたからです。これからどのようにしなければいけないのか、具体性の増した想いを持つことができました。
- 他人の人生や価値観について聞くきっかけがあまりなかったため、最初にかたい、圧倒や感激を受けました。その話を聞いて **自分の中の心の声、本音のようなものがどンドン湧き上がってくる感情を覚えました**。
- 写真を見たりお話を聞いたりして感銘を受ける場面がたくさんあったからです。 **今までとは違う考え方を知り、自身の今までの価値観を問い直すきっかけ** となりました。
- どのセッションもあったからこそ4日間ではあるので、選ぶのはとても難しかったです。その中でもこの3つを選んだ理由は、わたしの中でとても印象深く、 **発見が多いと感じたセッション** だったためです。
- これらのセッションでの **言葉がとても印象に残っている** ため (Aska/Be-Do-Have/さゆり)

4. 選択理由(学生ごと) *グリーン:全体への理由

荒谷菜津美

バリ島/きみ/さゆり

- 観光地のイメージが強かったバリ島のリアルな暮らし方や課題、それらの課題の一部は観光客として利用する我々にも問題があるということを知り、印象に残っています。
- きみさんのお話では、保護者の話を聞く機会が少ないですし、実際グリーンスクールがどのような場所で、課題も親目線から知ることが出来て興味深かった。
- さゆりさんのLife Storyを聞いて、教師をしていたという経歴からか、お話の節々にとても愛情を感じ心が温まり自分の中で何かが揺れ動いた記憶があります。

松岡詩乃

Aska/Be-Do-Have/さゆり

- どのセッションもあったからこそその4日間なので、選ぶのはとても難しかったです。
- この3つを選んだ理由は、わたしの中でとても印象深く、発見が多いと感じたセッションだったため。

塚田紗来

EG/バリ島/Mana

- 考えたことのないことに触れ、新しい世界に入ったような気がしたからです。これからのようにしなければいけないのか、具体性の増した想いを持つことができました。

岡田 梨緒

Aska/EC/さゆり

- 明日香さんから気候変動の被害を受けているツバルの人が、この状況を引き起こした先進国の人を責めないと聞いて、こんなにも寛大で温かい人がいるのかと驚いた。人間としての在り方について考えさせられた。
- ガンジーの「見たいと思う世界の変化にあなた自身がなりなさい」をアースカンパニーは体現していて、かっこいい。私も、誰かが豊かになればどこかで社会問題や環境問題が生まれる今の社会を、社会の発展が相乗効果をもって地球上全ての命のウェルビーイングを向上するあり方に変えていきたい、そういう仕事がしたいと思った。
- さゆりさんは、自分の想いと向き合い、自分に正直に生きているさゆりさんのお話を聞いてすごく勇気づけられた。

近藤亜紀

Aska/Be-Do-Have/さゆり

- 写真を見たりお話を聞いたりして感銘を受ける場面がたくさんあったからです。今までとは違う考え方を知り、自身の今までの価値観を問い直すきっかけとなりました。

小出幸果

Aska/Be-Do-Have/さゆり

- どのセッションも心が動く瞬間がありましたが、この3つのセッションは思わず涙が出てしまうほど、心にグッとくるものでした。
- Be-Do-Haveの考え方は、これからの私の人生の指針になる考えになりました。

三浦さくら

Aska/バリ島/Be-Do-Have

- まず初めに他人の人生や価値観について聞くきっかけがあまりなかったため、最初うかがい、圧倒や感激を受けました。その話を聞いて自分の中の心、本音のようなものがどんどん湧き上がってくる感情を覚えました。
- 自分たちの豊か暮らしとは？そしてお金とは考えるきっかけとなりました。今までの自分の生き方は人生の本当の楽しさ自分らしさを見失っているのでは？と感じました。

奈良明日香

Aska/Be-Do-Have/さゆり

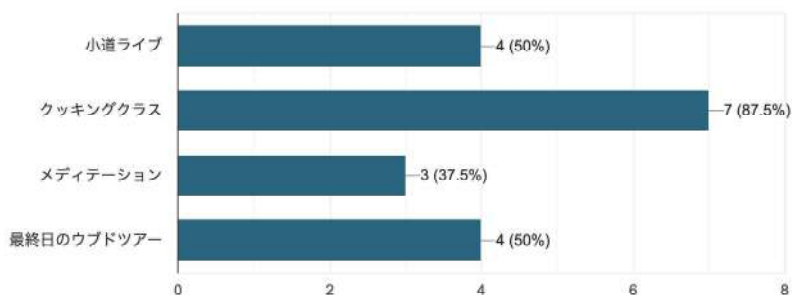
- これらのセッションでの言葉がとても印象に残っているため。

9

5. 楽しかったセッション

楽しかったセッションを選んでください

8件の回答



多い順

- クッキング
- 最終日ツアー
- 小道ライブ
- メディテーション

10

6. 宣言(学生ごと)

荒谷菜津美

- 日記を始める
→実は受験が終わって暇になった時期、日記をつけていたのですが忙しくなってから全く付けていなかったことに気づいたので、またつけ始めたいです。(笑)

松岡詩乃

- 何事にも感謝を忘れない

塚田紗来

出会いに感謝し、他者から学ぶ姿勢を大切にします

岡田 梨緒

- 自分に嘘のない生き方を心がける。
- 日記を初めて、3日坊主で終わらせない。

近藤亜紀

- 時間は有限という意識をもって行動する
- 先生が紹介してくださった本を読む

小出幸果

- スタディーツアーが終わり、日記をつけるようになりました。自分の今日の心の変化を可視化することで、明日の自分が変わると思います。

三浦さくら

- 思ったこと、感じたことはその場でメモをする
- 瞑想すること

奈良明日香

- 日記を始める

11

7. 8. 10. 改善・提案・コメント

荒谷菜津美

4日間ありがとうございました。
オンラインにも関わらずご**濃密な4日間**を過ごすことが出来、この**コロナ禍でも思い出を作ることができた**と思います。
クッキングは**味覚もパリに移すことが出来て**とても楽しかったです！
お香の紹介もしていただきメディテーション**目を瞑っている時はパリにいるよう**でした！

岡田 梨緒

永田先生がおっしゃっていた**まさに「自然をこえる人との出会い」**でした
パリ島に行って皆さんと直接会って五感をフルに使った学びができなかったけれど、パリの様子を伝えてくれるLiveや料理教室で**自宅にいながらもパリにいるような気分になった4日間**でした。オンラインでも**心がつながっている感覚**でした。このツアーに参加できて本当に良かったです。
研修を思い出すと、**オンライン上なのにパリ島でみんなと一緒に過ごしたような気分ですごく特別で貴重な時間**だったなと感じています。**私たちのすべてを受け入れてくれる安心感**があり、ためらいなく質問をすることができました。**こんなにも心をオープンにして4日間を過ごせたことにすごく驚いています**
このような機会を作ってくれた永田先生、私たちの感情を揺さぶる学びを提供して下さったTomoさん、Akoさんに感謝いたします。
コロナが落ち着いて、冬に皆さんに会えることを願っています。本当にありがとうございました。

松岡詩乃

4日間本当にありがとうございました！！
コロナ禍で人との接触ができずにいる中、**こんなに愛の溢れた人たちに会えたこの研修は私の心をとて暖か**してくださりました。
4日間で、しかもオンラインという中でも**ここまで心を開いて純粋に想いを受け止めようと思**えたことに**自分でも驚**いています。
あつという間の4日間ではありましたが**とても濃くそして考えさせられる4日間**でした。
またお会いできる日を楽しみにしています！

塚田紗来

皆さんに出会えて幸せです。**私の幸福度はMAX**でした！
ありがとうございました。
とても充実したツアーでした。ずっと座っていて、時間が長く感じるだろうと予想していましたが、**あつという間に終わってしま**って、驚きました。
お屋の時間帯に繋いでくださり、**現地の様子が伝わってきたときには、違う土地で私とは異なることをしながら時を刻んでいる人がたくさんいることに気がつか**されました。当たり前なことかもしれませんが、**不思議な温かい気持ち**になりました。
妹に勧めたくなる学びでした。今後もこのような機会を楽しみにしております。

7. 8. 10. 改善・提案・コメント

近藤亜紀

オンラインの中、研修の他にもアクティビティを取り入れていただき五感を使ってスタディツアーに参加することができました。**普段の授業では学べないようなことを海外の視点で学ぶ**ことができ、大変良い経験になりました。**今度はmanaに泊まりに行**くので、またお会いできるのを心待ちにしています。ありがとうございました！

奈良明日香 *グリーン:提案

クッキングがとても楽しかったので、味の答え合わせができれば嬉しいです。小道ライブやアップドツアーでたくさん紹介していただいた分、**もっともっとパリのことを知りたい**と思いました。**パリ人やパリの暮らし、宗教などについてさらに知ることができたら、よりパリの世界観にどっぷり浸ることができたかな**と思います。非常に密度の濃い時間を作ってください、また身体への負担等を考慮していただいた結果だとは思いますが、**もっと時間があつたらいいのにと感じる毎回でした**。非常に濃密な時間を本当にありがとうございました。**パリの美しさ、尊敬する人々、力強い言葉たち、新たなもよもや…様々なものと出会うことのできた、貴重な体験だった**と思います。オンラインでも豊かに学べるよう工夫を凝らしてくださり、常に私たちの**好奇心や学びに沿って進めてくださったことにも感謝**しています。あこさん・ともさんを始め、皆さんのあたたかい姿勢にも、強く支えていただいたと思います。参加して本当によかったです。

小出幸果

前時間の小道LIVE、クッキングクラスなど**パリの文化に触れる時間が多くあり、肌でパリを感じ、身近に感じる**ことができました。お陰でスタディツアーも**すんなり気持ちを入れることができました**。素敵な4日間を過ごす事ができました。このような状況でも、オンラインでスタディツアーを開催して下さい、また私たち学生の学びの場を提供して下さい、本当にありがとうございました。いつかお会いできるのを楽しみにしております。

三浦さくら*グリーン:提案

パリ人、現地の人とお話する機会(国際交流として)がよりあると国際的な心情をより持てると個人的に思いました。最終日の私達のみたいところのツアーを企画していただいたところとても**楽しかったです！**4日間とても楽しいひと時を過ごせました！そして自分自身について改めて考えるきっかけとなりました。いつか**manaに自分自身の足で訪れたい**と思いました！本当にありがとうございました！

13

9. 永田先生への提案(授業、ゼミなど)

塚田紗来

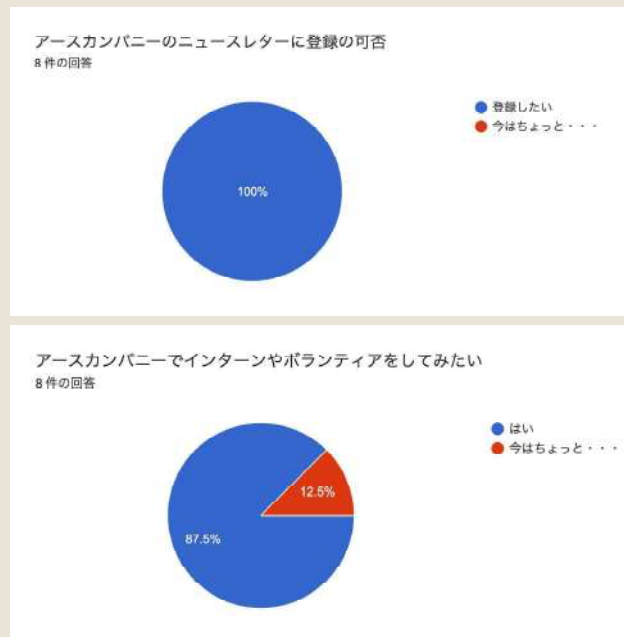
素敵なチャンスをくださり、ありがとうございました。

小出幸果

後期の授業では、じっくり立ち止まって考える時間を取りたいと思います。

14

NL登録希望 & ECボランティア希望



15

皆の 記録集

1. 心が揺れ動いた瞬間
2. 心に残る言葉
3. 学びと発見
4. もやもや

16

皆が書き留めた「心が揺れ動いた瞬間」集

- 自分の中から聞きたいことがたくさん湧き出てくる感覚を自覚した時
どうして質問が浮かんでくるのか不思議。
- バリの観光・開発による地元への影響について知った時の心苦しさ
- アスカさんの「成績が良いことが優秀ではなく、他に得意なことがあれば優秀だし、既に特別である」とお母さんが言ってくれた。という話
- サモアで海面が上昇していくところを見ている少女の写真今まで学習してきた事実よりも、この写真一枚で相当な衝撃を受けました。
- 地球は子供達から借りているという言葉
- グリーンスクールの動画を見た時、グリーンスクールだけで地球環境が表現できていを感じました。
- 2歳の子どもでも、ニワトリが調理されていくところを身近に見ている姿。
- さゆりさんのお話「いつ死ぬかわからないから自分の好きなように生きるという考え。自分に誠実にいることにも繋がっていると考えました。なぜ涙が出たのか自分でもよくわかりません。
- さゆりさんのお話は自分の経験と重なる部分もあって、とてもグッとくる瞬間が多くありました。自分自身も将来に対して不安が多くあり、教員になるかも考え中ですが、さゆりさんのお話から、不安な気持ちも軽くなって、モチベーションが上がりました。
- キャシーのスピーチ。子どもの未来を守るという強い覚悟と、キャシーが感じている気候変動への危機感がものすごく伝わってき、気候変動により直接被害を受ける可能性のある国では、海拔が高くなり、暮らす家のみならず文化も失ってしまう恐ろしさを、心で感じ取れた。日本に住む私は、気候変動によって住む家がなくなる事がないかもしれないけれど、だからといって無関係なのでは全くなく、誰しもが当事者意識をもつべき問題であることを理解した。
- キャシーの「あった出来事をなかったことにはさせない」という言葉
- 3人全員が生きて自分のことや自分がしていることを語っている姿に感情が揺れ動いた自分の思いに正直に生きているから、あんなにも生き生きしているのかなと感じ、私もあのように生きたいと思った。
- あすかさん、ともさんに共通して感じたこととして、自分の獲得勘定や周りからの自分の承認欲求、ステータスなどにとらわれず自我を進んで自分の意見・意志ををしっかり持っているところにとっても感動しました。

17

皆が書き留めた「心が揺れ動いた瞬間」*最終日

- この4日間の研修の中で心が揺れ動いた瞬間はたくさんありますが、今日自分の考えを共有してみみなさんからのコメントをいただいたとき、最初の3日間は人の話を聞くというどちらかというと受動的な学習だったと感じますが、3日間で学んだことを自分の言葉にして人に伝え、賛同をもらったとき、自分の中で落とし込めていなかった部分が、自分にスッと入ってきた気がしました。
- 私にはない発想力や未来の地球の考え方を聞くことができてよかったです。
- それぞれの考えの共有の時間では、同じ研修に参加していても十人十色考え方が異なっていて、どの発表もとても興味深かったです。さらさんの、しずくの絵はとても印象に残っています。水はどんな形にも変わる事ができ、そしてそれは、私たちの今後の在り方にも繋がってくるのではないかと思います。
- 皆さんの発表を聞いて、問題は1つだけではないけれど、としさんの少しでも具体的な前進を。という言葉から、少しずつでも解決していく姿勢を持つことがとても大切だと考えました。研修を通して、将来自分がどうなりたいか、自分にとっての本当の幸せを考えるきっかけになりました。
- 本当の豊かさにみんなが気が付けるようにという願いを聞いたとき。
- 幸せや豊かさとは、すぐに答えが出ないものだと思います。全ての人が幸せになる権利を持っているのに、その権利を奪っているのが現状だという意見に強く納得し、心に置いておきたいと思いました。
- 研修を通じて多くの人が、幸せ=経済的な豊かさではないということを仰っており、いまでもパッと頭に思い浮かぶことです。私はこれまで、お金で買えないような価値や幸せをバリ島の皆さんと比べたら見過ごしてしまっていたのかなと感じるし、いつ聞いても心が揺れ動くメッセージです。

18

皆が書き留めた「心に残っている言葉」集

- 人を動かすのは人
- 完全にゼロになって相手の中に入っていく
- 「この地球は先祖から受け継いだのではなく子どもたちから借りているのです」
- 「あなたが湧き起こした感情を忘れることは決してない」
- どこかの真似ではなく、新しいものをつくる
- Doではなく、ただBeに徹する
- Haveの先には何も無い
- 楽しくないと広まらない
- いつかではなくいつも
- 少しでも具体的な前進を大切にし、確実に進んでいくことで変化していく。
- 少しずつでもいいから進み続けること、そして数値化し可視化し具体的にすること
- 大切なのは学ぶことより思い出すこと
- ワクワク=湧く湧く
- サモアの人に気候変動について教えた時に先進国を責めた人はいなかった。
- SDGsはスタートでもゴールでもなく、学びと目標はずっと続く。
- 経済が回れば回るほど環境が良くなるかたち
- 先入観を取っ払って常識を疑うこと
- 真似をするのではなく、新しいモデルを創る
- 心の豊かさや物質的な豊かさはイコールではない
- 自ら見ようとして、知ろうとしないし住んでいても分からない
- キャリアに悩んでいたら、自分のやりたいことを一つずつやってみる。
- 先生として、親として、その前に... 私はどう生きたい？
- いつかのためにへとへとになって働くのは正解なのか？
- 「行き詰るけれど、私たちは未来を変えてきた」という言葉
- きみさん「親が子どもに教えることができることは限られている。価値観を共につみあげる先生や友達が必要。」
- トリ・ヒタ・カラナ 幸せや喜びの理由「神々との調和」「人々との調和」「自然との調和」
- その時感じた感情は何年たっても人の心に残る。
- 「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない」
- やれない理由はいっぱいある。

19

皆が書き留めた「学び・気づき」集

「豊かさ・生き方」

- たしかに「**経済的に豊かな方が幸せとは限らない**」ということを再確認しました。
- 途上国の人たちの方が先進国に住んでいる人たちよりも充実した毎日を送っているのではないかな。
- 余裕や時間の概念がないところも**充実と繋がっている**と感じ、それらの概念がないということは初めて知り、新しい発見だった。
- ともさんとあずかさんのお話を聞いて、人との繋がりがや出会いによって人生が変わることを理解しました。
- あずかさんとともさんのLife Storyを聞いて自分の直感や考えていることに正直に生きていいと思えました。
- **自分に誠実に偽りなく生きることができる。幸せ**
- 人間本来感じる幸せとは、改めて考えるきっかけとなりました。私はネットを利用し、車を運転し、何も不自由のない暮らしを送っています。今まで自分自身そんな生活を送れているから**幸せで途上国に住む人はかわいそうであると偏見すら持っていました**
- 私は今まで将来の夢などは定まっておらず、とりあえず社会のステータスが得られ**銀行などに就職することが親孝行でもあり幸せだと思っていました**。しかし**研修を通して、今までは自分を見失っていたような気がしました**改めて自我とは何か、そして社会の目とは一体何のためなのか考えるきっかけとなりました。
- アスカさん・ともさんのお話を聞いてると、「これをやらないといけな**い**」ではなく**流れに身を任せて自分がやりたいことをとにかく行動に移す**ことが自分の人生を楽しんでくれるのだという発見をしました。**私も、そんな人生にしていきたい**
- 自分は今まで途上国の人に対して私達のような生活を送ることができないため「かわいそうだ」という感情を持っていました。しかし、現地の人は生きることに誇りを持ちそして自然や人と共存している姿を創造して今までの自分**考えの浅さと視野の狭さ**を感じました。
- **見えない物へのリスペクト・善悪ではなく調和**
- この地球はもっといい形にして子どもたちに返さなければいけない
- **失敗を繰り返して、シンプルで安価で効果的なSolutionに辿り着く**
- 乗り越えるには**知的訓練**が必要
- 「**学ぶべきものはすべて自然にある**」(byバリの聖人)は「ハーモニーの教育」と似ている
- 凝り固まった先入観をもたずに人々と関わるのが大切だと実感。日本には、変わらない価値観や常識のようなものが根強く存在していると思うのですが、それを取り払うことでいろいろな人との対話ができる**日本で「豊か」といったらお金を持っていることが前提のように考えられますが、モノがほとんどなくても豊かで豊かな生活をしている国がたくさんある**とを多くの人に感じてもらいたい。
- 気候変動の影響で国が水没するだけではなく、ゴーストタウンといった、水際の街のみならず、井戸や水路を通して気候変動の影響を受けていることを初めて知りました。
- **経済・社会システムが豊かになる裏側で、課題の負の連鎖**がうまれ、どんな事にもメリットデメリットが生まれてしまうことを感じた。誰一人として取り残さない世の中を実現することは一筋縄ではいかないと感じた。社会の本質的な問題を変化させるためには、**実際先進国・発展途上国の人々の認識や心得を変えることが第一に必要なことであり、心情的な世界平和・共存が必要不可欠**あると思った。

20

皆が書き留めた「学び」集

- お話をしてくださった3人の方は強い意志と行動力をもって、「変えよう」とする気持ちが常にあると感じました。実際に目で見て体験することの大切さを再認識することができました。
- さゆりさんのいつ死ぬか分からない人生、思いっきり自由にやりたい風に生きよう！と決心されたことで、自分の生き方を見つけていて、そういう生き方もいいんだ。と学びになりました。
- さゆりさんのつらい子を中心として考えるということに非常に納得がいった。**できない人、生涯のある人に合わせるという考えは、当たり前のように思えますが、社会では実際にそうではないと言える**と思った。実際自分目線になりがちになり、比較**承認欲求や名誉を求めてしまうという残酷な一面**があると感じた。
- 私は環境問題やサステナブルに関心があってこの研修に参加しました。そこ**海外の取り組みを学んで、自身の行動に移していきたいと考えていました**。研修を通して、バリ島の環境問題や人々の話を聞いたことで、環境問題と教育の繋がりを知ることができました**まだ学科を決めていない私にとって、この研修は視野を広げる貴重な経験**になりました。
- 体験・感情・Beでいることを大切にしたい教育
- **子どもたちは人を動かす力を強く持っている**ということ。
- **一緒に未来を築くことになる子どもたちに刺激を受けながら、行動を起こしていきたい**。
- コロナの影響をただ受けるだけでなく、**その状況で必要なものや欠かせない介入をつくり出す**と感動しました。

「Green School・教育」

- 日本の**従来の型にハマった教育とは全く違う環境に関心**を持ちました。机の前に座って教え込むというより環境が主体性のある生徒たちを作っているのだと痛感。**日本の学歴社会の考え方も柔軟性に欠けている**のではないかと感じました。
- **学校全体が循環型**になっていて、子どもたちはそのような環境で多くの時間を過ごしているから**頭と体でサステナビリティを理解**することができると感じました。
- **学校と家庭とのギャップ**があり、**保護者の理解**(環境への興味関心)が足りないことも課題と初めて知りました。
- 持続可能性を追求した学習はとても素晴らしいと思います。一方で、従来の学校とは**道徳性を育む学びが、逆に子どもたちにとって不利になることもある**ということがわかりました。
- これからの教育の在り方を問う中で大きなヒントのような物をこの研修で得られたと感じています。ともさんが伝えてくれた**「子どもと共に学ぶ教育」**という言葉聞いて、**大人だってまだまだ知らないことは沢山ある**ということを再確認。親が計画性を持った教育ではなく**子供と一緒に楽しんで学んでいく教育がこれからの教育であってほしい**と感じています。

21

皆が書き留めた「学び」集

「バリ島」

- バリの観光業のデメリットとしてゴミの排出があげられたとき**「観光客が100%悪い」ではなく提供者側が良い方に変えていく**良くなるように提供していくのを聞いて、環境汚染の原因である観光客を責めるのではなく、それを良い方に変えていくという考えが、自分の中で新しい発見になりました。この考え方は**「バリの人が先進国の人々を責めなかったこととも似ている**考えました。
- ニュピの「静寂の日」3月の新月の翌日、電気・火を使っちゃいけない。観光客も全員行くと知り、「郷に入れば郷に従え」のルールが徹底されていて良い事だと感じました。
- マナが環境に良いもので作られている理由が問題に加担してしまうところ**が直接的でなくとも間接的に問題に加担**してしまっている場合もあるので、**自分も身の回りのものを見直そう**気づきました。
- **トリ・ヒタ・カラナの言葉の一部に神々との調和という部分に始め私は疑問**持ちました。神様ではなくなぜ神々の複数形であるのかということ。その背景として、**バリでは鉄なども神として称えそして感謝している**ということを知りました。そのため、お金の使い方が自分の娯楽である物や旅行などではなく、祭りに使われているそしてお香の消費が多いということにもつながりました。
- バリ島は幼い時に家族旅行で訪れリゾートのイメージを持っていました。このツアーを通じてバリ島の他の部分の魅力や、ローカルの人々は観光客の人達と全く異なった生活(暮らし)をしていることが知れました。そして**観光により、経済発展はできていても、地元の人々の暮らしを不自由なものに変えて**まっている事実には衝撃を受け、**知るべき現実を学べた**
- 観光によるバリ島の収入は80%
- バリ島の65%の水を観光客が使用
- 地元 roots 根付いたホテルはとても魅力的。観光客を巻き込んだ取り組みに興味を持ちました。リサイクルウッドに自己紹介カードがあるように、**一つ一つの自然物を大切にしたい**と感じました。
- 世界の半分の人がサステナブルな観光をしたいと思っている
- manaでは細部まで環境に配慮した取り組みをしていてakoさんの紹介ツアーでは、**見ているだけでもワクワク**。
- manaで使われている道具や建築がとても印象的でした。太陽光発電で電気を作ったり、土囊のかべを使ったりすることで電気の使用量を極限まで抑えられると思いました。また、屋外ではコンポストがありそれを畑で活用していたので**「環境の良いサイクルが体験できる素晴らしいホテルだ**と感じました。バリで観光業による環境汚染が指摘される中、エコホテルの良さや持続可能性をより多くの人に知ってもらい、いろいろな場所で実践できるようになると良いなと思いました。
- インドネシアでは廃棄物管理のインフラがまだ整っていないことを初めて知りました。ゴミに関しては、長年問題視されていますが、このままでは、衛生的にも良くないと思い、**早急に解決しなければいけない課題**と感じました。

22

皆が書き留めた「もやもや」集

「豊かさとは」

- 私にとっての幸せ・豊かさとは？お金とどのように付き合っていくか。
- BeをHaveにすることができるのか？
- 幸せとは何だろうかと疑問に思いました。
- 幸せの基準や判断は人それぞれ違う考えを持っている、でもみんなが幸せに暮らす世界になってほしい。
- 誰かの幸せは誰かの不幸になっていたりもしていて、、その矛盾？ジレンマ？とても難しい。
- 先進国に住む私達は働きお金をもらい、ぜいたくな暮らしができています**途上国の人は今日生きることを考え、人と共存**していく。実際先進国の私達は人間関係で悩んだり、常識また人間同士の嫉妬も生まれている世の中も**事実**だと思います。
- 先進国に住んでいることがかならずしも幸せとは言えないのかなともやもや**豊かな暮らしができる社会とはそのような人間の生きる根源を私達から忘れさせてしまっている部分もある**と感じました。
- お金というのは私達の暮らしにとって必要不可欠なものであると感じますが**人はお金があることによって、生きることの本質を忘れてしまおう**面があると感じました。(ビジネスのために土地買取りや水を独占してしまう部分を含めて)
- 本当の豊かさや幸せとは何か。**富や名声を手放す勇気と覚悟**
- **なぜ我々先進国の人たちは経済社会から抜け出せないのか。(経済は悪なのか)**
- **人と人との信頼関係は先進国でどう築き上げていくことができるだろう。(人の心を動かすには何を伝えればいいのか)**
- **なぜ日本での教育に息苦しさを感ずる人がこんなにも多いのか。**
- **資本主義って何だろう。ますます知らなくてはいけない気がしてきた。**
- **今日の話を自分の人生に置き換えたらどうだろうか。**

「持続可能な社会とは」

- **経済と持続可能な社会は本当に成立するのか**
- 持続可能な社会とテクノロジーには大きな可能性があるが、やりすぎは逆に悪化させてしまうのでは？
- **未来の子どもたちから「借りる」というのがどういうことなのかまだつかめていない**
- 地球規模の様々な課題がある中で、多くの人や植物、生物が幸福感に満ちた生活ができるようになるには長い時間がかかるかもしれませんが**どのよう**にしたら**そのような世界が生まれるのか、自分の中での問い**になりました。
- **「いつかではなくいつも」をみんなが実践したらそれは持続可能な社会と両立できるのか**
- コロナよりも多くの人たちを苦しめてい**世界の課題がたくさんあるのに非常事態にしないことが、途上国への差別化**ではないかと感じました。
- ツバルの方々が気候変動の影響を大きく悩まされているのに関わらず、先進国を責めないと言ったことが、非常に大きな衝撃でした。

23

皆が書き留めた「もやもや」集

「バリ島」

- バリに観光に行くことで現地の人たちがよりゴミを排出してしまっていたり、現地の人を苦しめてしまっていることは、あってはならないと解決すべき点だと、外国人の(現地の人ではない)自分からして**不甲斐なく**感じます。
- 開発が進んでも先進国からの観光客や投資家等が得をするばかりで**そこに住む人のことが考えられていないことに複雑**な気持ちが残る
- バリ島はリゾート開発によって経済が支えられえているが、その開発によって自然破壊、水不足、物価の上昇、現地の人が低賃金の職にしかつけないという課題がある。私たちはリゾートを贅沢としている**観光業側が変わっていく。システムが変わっていく。**
- 観光業でのゴミや水の量が多いと聞き、**日本ではどのような内訳になっているのだろうと考えました**
- スオンに捨てられたゴミたちは今後どのように処理していくのでしょうか。そのまま、放置され続けるのでしょうか、、、
- ゴミの埋立地。環境だけでなく、健康被害も問題である事。

「教育とは」

- **オルタナティブ教育での子どもの学びの状況をどう可視化**していくか
- green schoolは非常に魅力的で見習う部分も多いと感じましたが、**バリだからうまくいっている部分もあるのではないかと、日本では白い目で見られそうだと感じてしまいました。**日本の環境問題やDGSに対する考えがもっと広まっていく必要がある課題があると感じます。
- **グリーンスクールのリテラシー**の部分、今後どの様に取り組んでいくのか、難しい所であるなあと、感じました。
- グリーンスクールとは、**エコに特化した環境と子供との距離が近いことがとてもいい一方で、家庭での生活スタイルとのギャップの差がある**ことが非常に大変な部分であると思いました。一度でも便利な生活を送ってしまうとなかなか贅沢な生活から抜け出すことができない現実の部分も見えました。
- Green Schoolでの**グリーンウォッシュと白人の価値観が強い**ところ
- **親子の中でサステナブルに対する意識に差異**が生じていること。日本にもありそう。

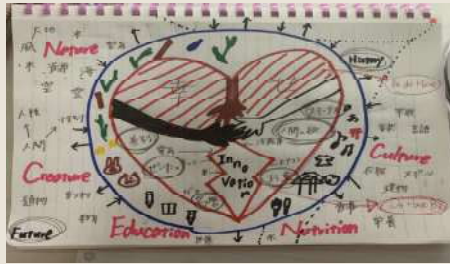
24

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由集

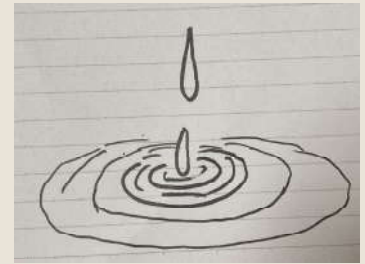
- 次の世代に「いつかではなくいつも」と伝えられる社会(ASKA)
- 「多くの人が幸せを感じられる世界」(AKI)
- 100年後も笑顔でいるための目標(Sachika)
- 支え合う、思い合う社会・子どものための自由な教育\$hino)



(Rio)



(Sakura)



地球上が幸福感に満ちた場所になること。

1人1人が変容し、大きなシステムや一般論に従わなくてよい社会が生まれる。
(Sara)

現在の地球の形と今後の地球の在り方について

これは現在の地球の姿を示しています。

この地球に必要な不可欠なもの、Nature, Creature, Education, Nutrition, Culture, ... 様々なモノが浮かび上がります。

地球という惑星が生まれ、やがて進化の過程で人類が生まれます。原始時代の人類は狩りをし、大地で暮らし、その日生きることに喜び、幸せを感じています。(Be→Do→Have)

現在の人類はどうでしょう。幸せの形であるハートが少し変です。

人類の進化により脳が発達し技術革新がより行われ、テレビや車ネットなど様々な便利な物を開発してきました。それにより、幸せの形が変化しました。人間はお金や権力、名誉を求めようになり、人類同士での衝突や差別格差が生まれ始めます。(Do→Have→Be)

また、私達人類の行動によって本来地球に必要な不可欠なものが少しずつ失われていることを矢印によって表しました。それは良い面と悪い面を持っています。いい面としては、文化や言語、建造物が生まれることです。悪い面としては、技術革新による資源、自然破壊、空気物質の割合の変化そして人種差別やジェンダー問題などです。

そして、バランスが崩れるとそもそも人類の存在そのものが問われます。

そして同時に地球とは、

私たち人間の欲やお金、名誉、発展などの心持ちによってこんなにも変化し、環境そのものも変化してしまうことがうかがえます。

現在の地球はそんな過去の私達の欲の塊が増えつづけた結果が今の現状だと思えます。

その結果、地球温暖化による海面上昇、異常気象、生態系の変化などが影響として現れ始めています。

しかし、だからと言って私達が今原始的な生活をすることは不可能だと思えます。

技術革新そのものが悪いとは私自身も決して思いません。これからは人間の利便性だけでなく、環境にも地球にも配慮することを大前提とした行動が必要だと思えます。

そして、SDGsとは、過去の私達人間がお金や権力、名誉を追求し欲が溢れてしまった結果犯してしまった幸せの形を必死で、今の私たちが擁護する指針でもあると思えます。

それには、私達人間全員が考え、守らなくては持続可能な地球環境にすることは不可能だと思えます。

その様子を私は、黒人白人で手を繋いで擁護する様子を絵として描きました。

そして、この絵の形は、時代の変化とともに変化すると思えます。私はこの幸せのハートの形が完成するような世の中を願います。

あなたの目指す世の中はどんな心の絵を思い浮かべますか？

研修の個人記録

[Aska](#)

[Aki](#)

[Natsumi](#)

[Rio](#)

[Sachika](#)

[Sakura](#)

[Sara](#)

[Shino](#)

1

Aska

Day 4

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由

次の世代に「いつかではなくいつも」と伝えられる社会

- ・子どもたちが、未来の「いつも」を信じられるように
- ・自分が幸せを感じられたら、もっとたくさんの人の幸せを願えるはず
先進国を責めないツバルの人の言葉
- ・持続可能な開発・社会への課題に取り組んでいる段階では、
まだ「いつか」なのかもしれない

2

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由

- ・自分はやっぱり Be-Do-Have に憧れている
- ・じゃあ、自分の幸せって何だろう？
- ・子どもに対して、とりあえず今は将来のために勉強しなさいとはあまり言いたくない
- ・意義の見出せない勉強は辛かった
- ・今回体験したような「本当の学び」はそんなモチベーションではない
- ・じゃあ、どんな伝え方ができるか？
- ・どんな学習評価の仕方ができるか？
- ・オルタナティブ教育は子どもに「いつかではなくいつも」と伝えられるか？
- ・資本主義、お金って？

3

みんなからのメッセージ

開始 Ako : Askaさんへ

開始 Yosh : (E)SD に取り組んでいる間はまだ「いつか」（資本主義の内側？）なのかもしれない・・・という見解にあっばれ、です！確かに、UNESCOも資本主義の世の中であがいているのかもしれない。そこから抜け出せる糸口はあるのだろうか？

開始 Sara : Askaさん 子どもたちに何を伝えるかは、とても大切なことだと気が付きました。私たちが胸を張って、今持っている未来とは異なる明るい未来を渡せるようにしたいと強く思いました。貴重な気づきをもたらしていただき、ありがとうございました。

開始 Shino : 「いつかではなくいつも」という言葉は私もとても印象に残っている言葉です。今の私たちの生活にはいつかのための要素が大きいので、今をもっと考えながら生きていくことで、自分の人生も変わっていくのかなと感じました。

開始 Sachika : 子どもたちが未来の「いつも」を信じられる とも共感しました。学ぶことの意味を見出すのとても大切だと、私も思います。あすかさんの、お話を聞いて、自分の中のもやもやがスッキリしたところもありました。

開始 Sakura : 未来のため、いつかではなくいつもを伝えられる社会というのは非常に印象に残りました。SDGsの課題があることはいまではなく未来の願いであるということにあらためて実感しました。そしてそれがいつもに代わる世の中になることが本当に大切だと思いました。

開始 Aki : 私も Be-Do-Have は幸せになるための生き方なんだろうなと感じます。

開始 Rio : 私も be do have の生き方を目指して、子どもたちにも「いつかではなくいつも」を伝えていきたいと思いました。

開始 Natsumi : 自分はまだ一年で教育学科でもないので教育については疎いのですが、資本主義と教育が繋がっているのではという部分はなるほどと思いました。いつかではなくいつもというのを子供たちに伝えていきたいという強い思いを感じました。

開始 Tomo : 後で口頭で説明します : いつも:いつか = how:what 。 憧れていることに気づいた。大切なことは思い出す。玉ねぎの状態。質問が湧き上がる。ワクワク=湧く湧く

開始 Ako : 自分の Be と将来世代の Be がつながったあすかさんのメッセージとても素敵です。「いつかではなくいつも」それは持続可能な未来をつくるというのは「どこかではなく、ここから」といのもも同じかもしれないなあと感じました。

4

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由

「多くの人が幸せを感じられる世界」

- ・海面上昇を見つめる少女の写真に衝撃を受けた
このような危機の中でも楽しさ・幸せを感じていた

- ・漁師と金持ちの話
お金を得ることが全てではなく、今が幸せであることが重要＝（ホセ・ムヒカ大統領の生き方）

今： 経済を発展させて環境悪化
未来： 経済発展によって環境が良くなる

⇒多くの人が幸せを感じるために・・・

SDGsのゴールを達成することが目的ではなく、SDGsは、幸せを感じられるようになるための手段と考える。

みんなからのメッセージ

開始 Ako : AKIさんへ

開始 Sara : AKIさん 私も幸せの大切さに気が付きました

開始 Sakura : 発展ではなく、暮らしそのものが幸せであるというのは私自身も同じように気が付きました。

開始 Sara : それぞれが思い描く幸せは異なると思いますが、幸せが素敵なものだということは知っています。これから幸せとは何かについて考えていきたいです。ありがとうございました。

開始 Natsumi : SDGsの17のゴールがゴールではなく幸せになる手段になるということに共感しました。ゴールや目標だけではなくその過程も大切であると気づかされました。

開始 Rio : 大切なのは発展だけではない、暮らしを幸せにするという言葉が印象に残りました。みんながそれに気づいて、もっと幸せな世界になってほしい。

開始 Sachika : 発展が幸せなのではなく、暮らしが幸せであるという言葉、とても響きました。SDGsに対し、解決を目的としていないこと、私にとって新たな視点でした。

開始 Shino : SDGs達成は目標ではなく、多くの人が幸せになるための手段である。という考え、その通りだと思いました。経済的豊かさ=幸せではない。じゃあどうすれば多くの人が幸せになれるのか。今後の大きな課題だと感じます。

開始 Tomo : 「幸せ」「愛」という超絶本質的なものがMDG/SDGに入っていないところ、真正面から「幸せを感じられる世界」をキーワード。幸せの設計・デザイン。「感じられる」=情操教育、感受性、感性

開始 Aska : 「幸せ」を中心に置いた考え方にとても共感します。ムヒカ大統領の言葉も、確かにそうだなあと勉強になりました。沢山の人が経済的豊かさだけじゃない幸せに気付けたらいいなと改めて感じました。

開始 Yoshy : 海面上昇を見つめる少女のフォト、ぼくも印象的でした。その時の気持ちを大切に、いつまでも。そしてその気持ち（憤りや怒り、虚しさなど）を乗り越えるにはやはり知的訓練が大切なので、本をたくさん読んでほしいです。まずは「スモール・イズ・ビューティフル：人間中心の経済学」（サティッシュ・クマール）からかな？

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由

・XDGsの当事者になる。自分事として捉える

- ・見たいと思う世界の変化にあなた自身がなりなさい
- ・自ら見ようと知ろうとしないと住んでいても分からない
- ・インパクトヒーローの7つの条件の1つ→当事者であること

先進国の人が支援に行っても、途上国の人にしか分からない辛さもある
→当事者にしか分からないものがある

今、日本に住む私たちもSDGsの当事者であり気候変動や異常気象の被害者とも言えるが、それもごく一部ではないだろうか。

「この地球は先祖から受け継いだのではなく、私たちの子供から借りているもの」

→より良い環境にして返す必要がある

一人一人がインパクトヒーローのように自分事として捉える世界

7

みんなからのメッセージ

開始 Ako : なつみさんへ

開始 Sakura : 自分が当事者である試みはとても大切であると思いました。課題解決のためには当事者としての視点で考え行動することが一番解決の第一歩につながると思いました。

開始 Aska : 「自分もインパクトヒーロー、あなたもインパクトヒーロー」という言葉がとても印象に残り、本当にその通りだなと思いました。改めて、当事者としての意識の大切さに気付きました。

開始 Aki : 一人ひとりが当事者意識をもつことの大切さを再認識できました。環境問題を身近に捉えることができれば、個人の意識も変わるし、少しでも改善につながると思いました。

開始 Yoshy : ポカフォンタスの歌詞、ほくも大好きです。特に「風の色は何色？」という問い。大人になると、風の色がなぜ見えなくなってしまうのか・・・教育のせいかもしれません。あとあの歌詞には「見知らぬ心の扉・・・♪」ってくだりもありましたね。ぜひ開けてみてください。今のNatsumiさんならその向こうの世界は受け止められるはず！

開始 Sachika : 一人一人がインパクトヒーローとして当事者意識を持つこと、私もとても大切だと思います。どうしても他人事にしてしまう大きな問題に対して、当事者意識を持ち、解決に向けて動く為に、どうしたらいいのか、これからの課題になってくると感じました。

開始 Sara : Natsumiさん 私も当事者として取るべき行動があると感じました。Natsumiさんが自分事として考えている姿勢がとても伝わりました。良い状態の地球を子どもたちに返せるようにしたいと思います。ありがとうございます。

開始 Rio : 私も「この地球は先祖から受け継いだのではなく、私たちの子どもから借りているもの」という言葉はすごく印象に残っています。当事者意識を持つことは私もすごく大切だと感じている一方で私自身も他人事に思ってしまうことがあります、

開始 Shino : 私も環境破壊が起きていることを友人や家族に伝えても他人事としてスルーされてしまうことが多かったことをなつみさんのお話を聞いて思い出しました。如何に問題を自分事として見つめられるか、単純なようでとても重要な視点だと思うし、世界中の人々が自分事に捉えられれば環境問題ももっと良い方向に行ってくれるのではないかと感じました。

開始 Tomo : 自分ごとにするには、体験が全て、マイノリティになること、痛みをわかること。。。だから「苦労は買ってでもしろ」なのかもしれない。一人一人がインパクトヒーロー、みんなそれぞれディズニーの主人公になっちゃいましょう！

8

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由



9

みんなからのメッセージ

開始 Ako : Rioさんへ

開始 Sara : Rioさん 「本当の豊かさにみんなが気づけるように」というRioさんの言葉が印象に残っています。共存は人同士や自然、生物など、様々な場面で欠かせないものだと思います

開始 Natsumi : 共存という言葉聞いて、同じ地球に住んでいるのに豊かさに違いがあるというのは「共存」(共に在る)しているのか？と考えさせられました。漠然とした「優しい世界」というメッセージでもリオさんの想いは伝わってきました。

開始 Sakura : 豊かな人・国ができる一方で犠牲が生まれるというのは本当にその通りだと感じました。ファストファッションでもあるように日本ではベトナムや中国製などの服を安く手に入れることができますがその一方でこのような国は低賃金労働で働いていることも非常に問題であると思いました。

開始 Sachika : ナミビアでの実体験、とってとても貴重な経験で、そこからリオさんの考えが生まれていることが、伝わりました。見えるモノだけではなく見えないモノとの繋がりも大事にする世界は、きっと優しい世界だと私も思います。物質的豊かさと心の豊かさのお話、共感しました！

開始 Yoshly : 綺麗なスライドシートのキーワードに「人」とは別に「生き物」と書かれていて、さらに口頭での説明で「目に見えないもの」というキーワードも共有されたことが素晴らしいと思いました。人間中心の世界はそろそろ終わりにしましょう！ウイルスも含めてノンヒューマンズたちといかに共生していけるか、post-2030はそんな時代になるのだと改めて思いました。

開始 Tomo : 「強くなければ生きていけない。優しくなければ生きていく資格がない」(レイモンド・チャンドラー)を思い出しました。「やさしい」美しい日本語=gentle, kind, eco, humble, elegant etc. リオさんのあり方がまさに体現していると思いました！

開始 Aska : 「自分にとっての幸せを考えていける自由」という言葉が印象的でした。自由ってそういうことだよな、と私も思います。Rioさんの今までの経験とも合わせて、とても深く考え、学ばれたんだなと感じました。

開始 Aki : 物質的な豊かさが全てではなく、心の豊かさを追求するとき、今の世界には足りないものがたくさんあると思いました。私もファストファッションの映画を見て先進国と途上国の差が恐ろしいと感じました。

開始 Shino : 自分や周り以外の物や人にも思いやりを持てる優しい世界が来たらどれだけ素敵な事だろう。と聞いていて感じていました。自分一人で生きているわけではなく、人は共存しているのだから、それを自然や動物にも与えないといけないと感じました。

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由

100年後も笑顔でいるための目標

11

理由

お話し下さった方々とっても笑顔！温かく迎え入れてくれた。

↑

自分に嘘をついていない、本当の自分がやりたいことをしているから。自分に誠実に生きているから。

12

資本主義の影の部分

気候変動がそのまま進み、国・文化を失う人が増えてくる(ツバルのお話)そして、動物たちも住処を失っている

家の仕事で学校に通うことができず、負のサイクルの中にいる子ども達

→このままだと、100年後、笑顔で地球で暮らす人、動物っていないのかも

13

大人、子ども、大きい国、小さな国、国籍、関係なしに、
誰しも自分のやりたいことをして、自分の気持ちに素直であり、
そして、笑顔で温かい気持ちを持って生きる事ができる。

そのチャンス？を他者が奪ってはいけない！

14

グリーンスクールやマナの取り組みから

- ・循環していることの気づき
- ・身をもって感じられる
- ・地球に対する感謝の気持ち

→自分の将来に繋がった！

15

音

仏具 りんとりん棒

振動がりんの中で集まり、共鳴し合う　そして1つの綺麗な音に
→小さな変化　人や学校、事業が集まり、大きな変化になる様子

16

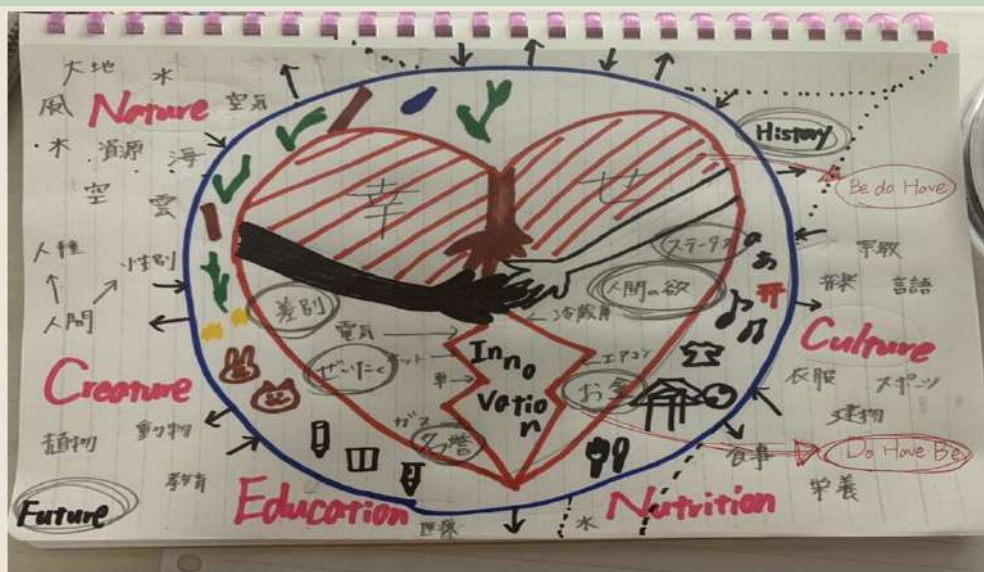
みんなからのメッセージ

- 開始 Natsumi : 自分に嘘をついていない、本当にそうだと私も感じました。りんとりん棒の音や楽器から地球規模に発想を飛ばしているのは驚きで、その発想力と想像力は見習いたいと思いました！
- 開始 Sakura : 私達の生活によって未来の生きる権利を奪ってしまうということ改めて感じました。そしてさちかさんのその生きる権利を奪わないという言葉が好きです。バリのお話して下さった方は非常に笑顔だったというのは自分もそう感じました。凜と輪室の楽器気になりました。
- 開始 Sara : Sachikaさん 私は笑顔について考えたことがありませんでした。お話を伺って、あ！とても大切なものがまだあった！と気が付きました。音のイメージを持てていなかったのが、よく伝わっていました。いつかその音を聴いてみたいです。ありがとうございました。
- 開始 Aki : 音で表現されていたことが素敵でした。りんの中で共鳴した音が、いろんな生き物を巻き込んで地球環境が形成されていく感じを私は想像しました。
- 開始 Aska : りんとりん棒での表現、素晴らしいと思います！私も、教員になるか迷っている立場にあるので、その意味でもとても共感しましたし、参考にもなりました。ありがとうございます
- 開始 Rio : 「誰もが自分のやりたいことをして笑顔でいられる権利を奪ってはいけない」という言葉から、さちかさんの正義感が伝わってきました。振動がりんの中で集まり、共鳴し合うように、小さな変化が大きな変化になる世界、表現が素敵で、そんな世界が実現できたらどんなに美しいだろうと思いました。
- 開始 Shino : 自分以外の人の幸せを考えるのもとても大切だけど、まずは自分が笑顔に楽しく幸せに生きることが一番重要な事なのかなとさちかさんのお話を聞いて感じました。そして、りんと棒の楽器の音色を聞いてみたいです。
- 開始 Yoshy : きょうめい=Resonance、いい言葉ですね！今回であったアースカンパニーの皆さんも生き方と暮らし方と働き方が共鳴している人たちですね。こうした自分に嘘をつかない、インナーセルフに誠実に日々を生きている人々と、ぼくも友達でいたいし、一緒に仕事をしたいと思っています。Sachikaさんもいつかこんな素敵な「仲間」と学校を創ってください！（そして永田を雇ってください笑）
- 開始 Tomo : 「地球に対する感謝の気持ち」これ一つ、これだけで世界は良い方向に向かうと思います。「感謝」= appreciate = 「感謝」& 「(価値の) 上昇」 大切にするだけでなく、もっとよくなっていく。りんの「共鳴」素晴らしいイメージでした。全てのものが必要で、ひとつも欠けることのないハーモニー、それぞれの役割、オーケストラのような集合体

Sakura

Day 4

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由



18

現在の地球の形と今後の地球の在り方について

今回のスタディツアーの四日間の集大成として頭の中のイメージをに描いたので、説明します。

これは現在の地球の姿を示しています。

この地球に必要な不可欠なもの、Nature, Creature, Education, Nutrition, Culture,,, 様々なモノが浮かび上がります。

地球という惑星が生まれ、やがて進化の過程で人類が生まれます。原始時代の人類は狩りをし、大地で暮らし、その日生きることに對して喜び、幸せを感じています。(Be→Do→Have)

現在の人類はどうでしょう。幸せの形であるハートが少し変です。

人類の進化により脳が発達し技術革新がより行われ、テレビや車ネットなど様々な便利な物を開発していきました。それにより、幸せの形が変化しました。人間はお金や権力、名誉を求めるようになり、人類同士での衝突や差別格差が生まれ始めます。(Do→Have→Be)

また、私達人類の行動によって本来地球に必要な不可欠なものが少しずつ失われていることを矢印によって表しました。それは良い面と悪い面を持っています。いい面としては、文化や言語、建造物が生まれることです。悪い面としては、技術革新による資源、自然破壊、空気物質の割合の変化そして人種差別やジェンダー問題などです。

そして、バランスが崩れるとそもそも人類の存在そのものが問われます。

19

そして同時に地球とは、私たち人間の欲やお金、名誉、発展などの心持ちによってこんなにも変化し、環境そのものも変化してしまうことがうかがえます。

現在の地球はそんな過去の私達の欲の塊が増えつづけた結果が今の現状だと思います。

その結果、地球温暖化による海面上昇、異常気象、生態系の変化などが影響として現れ始めています。

しかし、だからと言って私達が今原始的な生活をするのは不可能だと思います。

技術革新そのものが悪いとは私自身も決して思いません。これからは人間の利便性だけでなく、環境にも地球にも配慮することを大前提とした行動が必要だと思います。

そして、SDGsとは、過去の私達人間がお金や権力、名誉を追求し欲が溢れてしまった結果犯してしまった幸せの形を必死で、今の私たちが擁護する指針でもあると思います。

それには、私達人間全員が考え、守らなくては持続可能な地球環境にすることは不可能だと思います。

その様子を私は、黒人黄人白人で手を繋いで擁護する様子を絵として描きました。

そして、この絵の形は、時代の変化とともに変化すると思います。私はこの幸せのハートの形が完成するような世の中を願います。

あなたの目指す世の中はどんな心の絵を思い浮かべますか？

20

みんなからのメッセージ

開始 Aki: しあわせとイノベーションの狭間を表現しているところに感動しました。表現力の塊です

開始 Rio: 生きることの幸せが、イノベーションによって抜けていってハートに亀裂が入っているのが印象的でした。私たちが幸せに生きるためには、本来人間が持っているものを思い出すことが重要なかなと思いました。

開始 Aska: とても深くて壮大な発表に圧倒されました。本当にこの1枚にすべてが詰まっていると思います。「イノベーションとの共存」という言葉も印象的でした。

開始 Natsumi: ハートが割れている部分がある一方で割れていない部分はただ割れていないのではなく満たされているという表現が良いなあと思いました。共存の難しさや課題も現れていてわかりやすいです!

開始 Sara: Sakuraさん とても素敵な絵でした。この研修を通して、絵に表されているものが私の中に入っていると思うと、貴重な経験ができたと思うと共に、これから起こしていくアクションについて考えさせられました。一日中絵を見て考えを深められそうです。ありがとうございました。

開始 Shino: さくらさんの絵を見ただけで色々考えることがあり、とても深いと感じています。心の中の幸せの部分が上にあるのは、幸せが欲より上だというメッセージのようにも感じて、イノベーションが悪ではないけど、本来我々が持っている幸せの想いを取り戻す必要性を感じました。

開始 Sachika: とっても素敵な絵です! 感動しました。ずっとじっくり見てみたいです。見ていると、今回のスタディーツアーの内容を思い出します。星として地球が昔からそして未来へ繋がっているところや、地球が吸収したり外に出たり、生きているように表現していたところも、とても素晴らしかったです。イノベーションの部分、なるほど。と思いました。

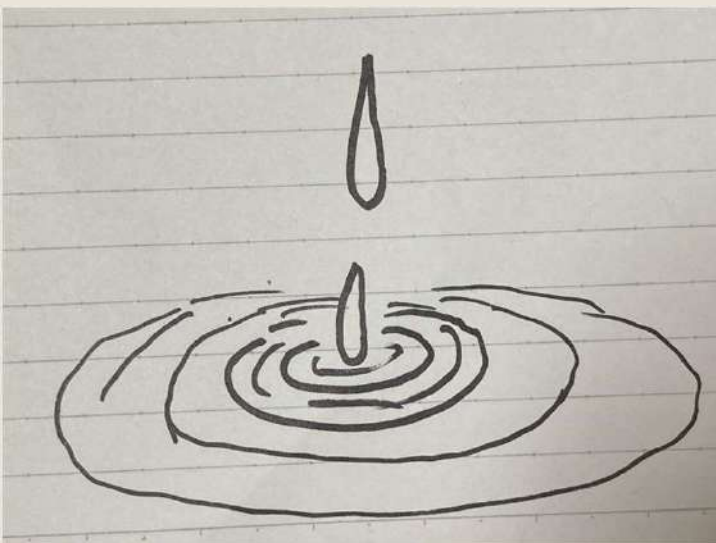
開始 Yoshy: めっちゃ素敵な絵でした。しかも熟慮されている。そうですね、イノベーションはもろ刃の剣ですね。大人たちの方がその負の側面に気づいていないのが問題かもしれません。Sakuraさんの絵には自然に風が書かれていたり、文化に音楽が、栄養に本(知識)が記されていて、目に見えないものへのケアがあるように思いました。ぜひこの絵を発展系(いつも未完成)の「心の中の絵」として大切にしてください!

開始 Tomo: めちゃ深かったです! 全てを受け入れている、人間の弊害や醜い部分も入っている図。「人間なもの」笑。バリの考えと一緒に。神も魔物も、良し悪しというjudgementはなく、ハーモニーが全て。Innovationとの共存。神々との調和、21 自然との調和、人間関係の調和。

Sara

Day 4

「SDGsのその先」に私の願うキーメッセージとその理由



地球上が幸福感に満ちた場所になること。

1人1人が変容し、大きなシステムや一般論に従わなくてよい社会が生まれる。

22

①環境問題における水。

観光業のプール、海水汚染、干ばつ、綺麗な飲料水

②人と人、人と自然、人と文化の繋がり。

影響を受けて変容していく。新しいことを受け入れる。

お互いを大切に想う。

繋がっていくことが水のような一体感。

③水は新しい形になれる。

水のように決まった形にはまらずに、現在を変えていく。

23

みんなからのメッセージ

開始 Shino : 水が溜まっていく絵がとても分かりやすかったです。水はどんな型にもなれるように、型にハマらない未来にしていきたいと思いました。

開始 Natsumi : 観光を良いものにしていくというのは、私も印象に残った言葉の一つです。一般論に従わなくていいというサラさんの言葉が素敵だと思いました。

開始 Yoshly : とても素敵な、しかも意義深い絵です！ Saraさんの絵の解釈は「滴り落ちる水滴を受け止める面」であったと思いますが、ぼくの勝手な解釈（印象）は、さざ波効果（波状効果=Ripple Effect）だ！でした。今回の学びがSaraさんの内奥でジワジワとさざ波のように影響を与え、勇気が湧き、地球規模課題へのチャレンジへの行動となるような気がしています。ぜひその絵をいつも心に抱いて歩いて行ってください！

開始 Rio : 一人一人が考える幸せはそれぞれ違うし、決まった形はないけれど、一体感のある世界すごく素敵だなと思いました。

開始 Sachika : 「水は新しい形になれる」なるほど、と思いました。答えの無い問いに対して、型にハマらない発想や考え方が今後大切になると感じます。

開始 Sakura : 決まった答えがない水に例えていることが非常に興味深かったです。これを聞いて、問題解決のための解決方法はその都度変化し、このような世界にするという模範解答はないのだと思いました。

開始 Aki : 幸福は人によって違うものなので、世界中の一人ひとりが幸福と感じられることを見つけられるようになればいいなと思います。

開始 Aska : 「水は新しい形になれる」と水に例えられたところが、素晴らしいと思いました。お互いを大切に想い合い、影響し合っていることを今回のツアー、バリの様子から感じ取れる感受性も素敵だなと思いますし、私もそういった部分を大切にしていきたいと気づかされました。

開始 Tomo : 水紋のイメージ素晴らしいですね！ 共感、一体感、レジリエンス、進化。あるバリの聖人の方から、先日、水からhumilityを学びなさい（土からpassion、空から誠実さ、など）新しい形に進化し続けるのもまさに今必要なメッセージです、時代とともに変わり続ける態度、覚悟、寛容

24

「SDGsのその先」に私の願うキーマッセージとその理由

① 支え合う、思い合う社会

key word: 「人を動かすのは人である」 byともさん、「人と人との関わりを持つことでいろんな視点を見ることが出来る」 byさゆりさん

Why??

My life story:

自分の人生で転機となったのは高校時代の留學生活。

ここで私は、自分は一人で生きていくことが出来ないし、常に色々な人に支えられてこれまで生きてこられた事を実感。

そして、その人たちの為なら自分も愛を注いで、思いあうことができると再確認した。

この思いを身近な人達だけではなく、動物や自然、はるか向こうにいる人々にも持っていき、思いあっている。ことが出来れば、世界はもっと幸せで満ち溢れていくのではないかな。

25

「SDGsのその先」に私の願うキーマッセージとその理由

② 子どものための自由な教育

Key word: 「Green SchoolはBe要素が多いので生き生きとした生徒が多い」 byきみさん、「成績が良いから優秀である訳ではなく、成績が悪くても他に得意なことがあればその子は特別」 byあすかさん

Why??

My life story:

大学で教育学を学んでいる中で、こどもの為の教育なのになぜ子どもたちは差別を受けたり、嫌な思いをしているのだろう。こどもの為の良い教育とは何なのだろうと疑問を抱いてきた。

そこでオルタナティブ教育やシュタイナー教育に興味を抱いてはいたが、自分が受けてきた教育とは違う教育方法なので、この教育は果たしてこどもの為になるのか。と疑問を抱くときもあった。

しかし、今回のお話を聞いていく中で、やっぱり子どもには好きなことが出来るような自由な環境が絶対に必要であるし、その体験が出来ている子どもは生き生きしている。ということも学んだ。

やりたいことをやるためには、最低限の知識や読み書き能力も必要であり、ただ自由に学習させるということではなく、親も一緒になって子どもと体験し、学習していくことが、こどもの為の教育なのではないだろうか。これからそういった教育になっていけば、それは良い教育なのではないかな。

26

みんなからのメッセージ

開始 Yoshy : ライフストーリーに裏付けられたお話、良かったです。「支え合う、思い合う社会」と「自由な教育」(好きなことを中軸に据えて体験を重んじ、親も寄り添い、かかわる教育)は有機的につながっているんだと思います。そのリンクもぜひ吟味してみてください(卒論で!?)

開始 Sara : Shinoさん 愛を注ぐと思いがうことができるという言葉が印象に残っています。私は良い教育とは何だろうかと考えていたことがあります。「子どものため」にフォーカスした考え方は一つの答えになったような気がします。ありがとうございます。

開始 Aki : バリの人たちのお話を聞いて子どもたちにとってより良い教育とは何かを考えていらっしゃることがすごいなと思いました。私も高校の時の留学経験が今学びたいことに繋がっていることを実感しています。

開始 Rio : 支え合える、思い合える関係性を持つことは生きていくうえですごく重要な気づかされました。子どものための教育は、親も一緒になって子どもと体験して学ぶことだという考えにとっても共感しました!

開始 Sakura : 支えあう。思いあう社会という言葉とても印象に残りました。バリでの印象に残った言葉も挙げられていたのでより自分自身も納得して聞くことができました。グリーンスクールの課題である子供と親のエコ、地球に対する見方にギャップが生じてしまう問題があるのは自分ももやもやしていました。しかしのさんが教育の在り方として大切である親も一緒に体験し楽しみそして学ぶことが大切というのは本当にその通りだと思いました。

開始 Natsumi : シノさんの共有を聞いて支えあう・想いあうというのは、教育以前に人間の根本にあるものであると再認識しました。子供のための自由な教育も自分が経験していないからわからないという部分に共感したので、シノさんの自由な教育に対する考えが聞けて参考にもなりました。

開始 Tomo : ライフストーリーに基づいたメッセージパワフルでした! 「自分は一人で生きていくことが出来ない」=「生かされている」。ちょっと前のラッシュのメッセージ「この地球でビジネスをさせてもらっている」日本特有な感謝と謙遜の気持ちの表れ。 子供のための自由な教育。「ために」から「ともに」

開始 Sachika : 思いあうことができれば、世界はもっと幸せで満ち溢れる、という考え、とっても共感できます。子どもにとって、自由に学べる環境は大切であると、私もそう思います!

開始 Aska : 1つ目のMyLifeStoryのところから、私自身もコロナ禍の1人暮らしで、同じように一人で生きていけないことや周りの支えを感じ、その人たちの為にできることをしようと思ったことを思い出しました。教育の部分でも今回の発表からとても勉強になりましたし、関心も近いと思うのでもっともっと一緒に学ばせてもらいたいなと思います!

11. Earth Company の皆さんへのお手紙

塚田紗來 「2021 年夏 最高の思い出」

小出幸果 「10 代で最後の想いでスタディツアー in バリ」

荒谷菜津美 「生きた学びと出会いに感謝」

松岡詩乃 「改めて自分と向き合う 4 日間」

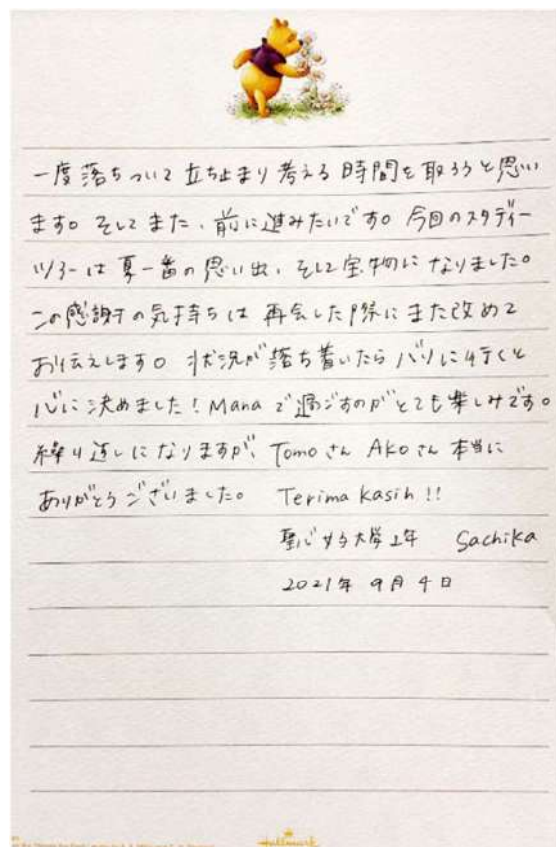
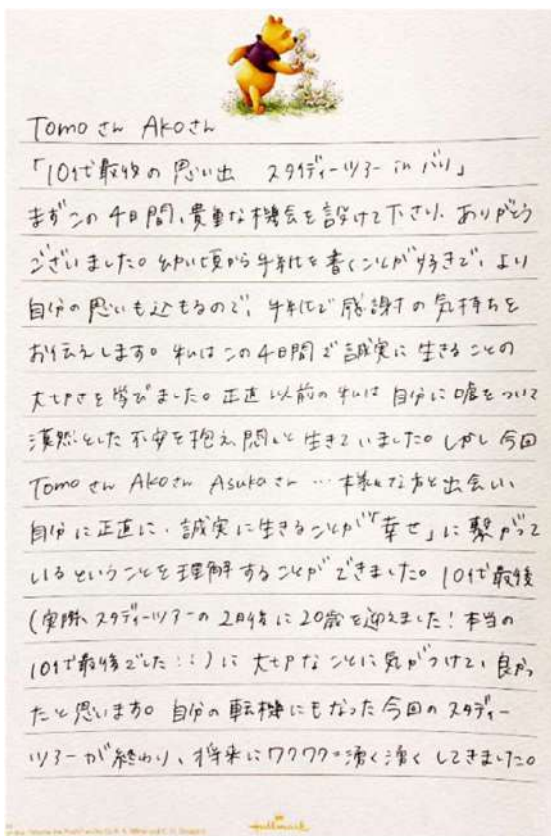
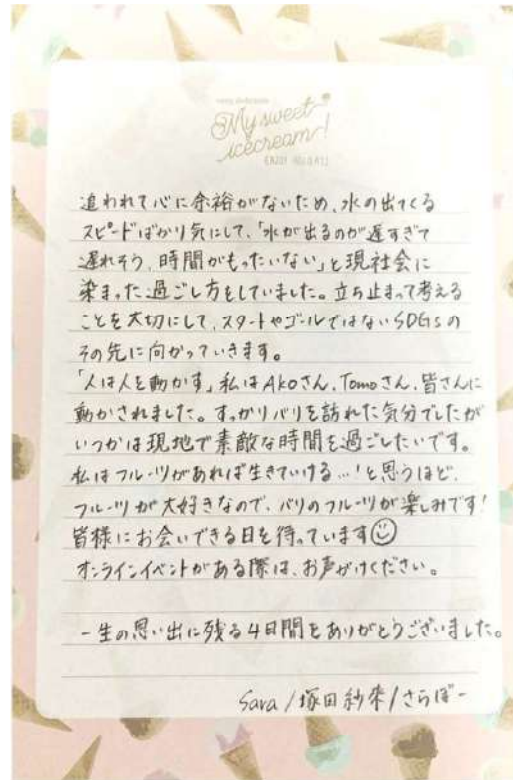
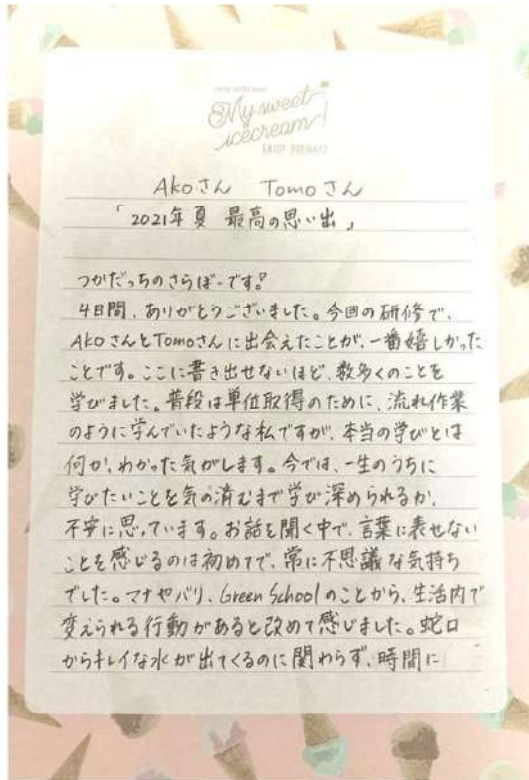
奈良明日香 「原点となる学びとの出会い」

岡田梨緒 「自然をこえる人との出会い」

近藤亜紀 「勇気と感動を与えてくれたスタディツアー」

三浦さくら 「弱さを受け入れてこそ強さが生まれる」

スタディツアーの後、お世話になったEarth Companyの皆さんに宛てて、参加した学生から感謝のお手紙を送りました。



Tomoさん Aikoさん

生きた学びと出会いに感謝
 まず、4日間 素晴らしい時間を
 ありがとうございます。最近、手紙など久し
 書いていませんでしたが、日記をつけることは、自分の手で
 穿て残すことも大事だと感じたので、手紙を書きます。
 4日間ずっと色々なことを吸収し、自分の中がかなり研ぐ
 のにも時間がなかなかない濃密な時間だったと感じます。
 実際は、私の前に座りパソコンをいらしめ、という普通の大学の
 授業と同じ形ではありましたが、普通の大学の授業とは
 全く違う学びでした。私もまだバリバリにいるようです。皆さんの
 life story を聞き、学校で習うものとは違う生きた知識を
 得たと実感していますが、私の人生を振り返ると、平日的
 人生だと感じ、自分を、誰かに話してあげることがあるような
 人生を送りたいと思いました。私も、Tomoさんという人へ、
 明日皆さんがくべらに出会えるように、これから色々なこと
 食欲に挑戦したいと思っています。4日間、本当に
 ありがとうございます。この出会いに感謝です。

Natsumi (たけなす?)

SUNNYDAY
and
COLORS

Dear Tomoさん、AKOさん

「改めて自分と向き合う4日間」

まずは4日間本当にありがとうございました。

このスタディツアーを申し込んだ時は、SDGsの事
 や Green School についてを学んだらと思っていました。
 しかし、この4日間で得たものは想像以上に大きく、
 1日の間に一糸も学んだメンバーや2人の
 事が大好きになり、対面したい！と心から感
 じていました。このような感情を抱いたのは、きっと
 Tomoさん、AKOさんを含めお話をしてくれた方々の
 包み込んでくれるような暖かさがあったからなのだと
 振り返るたびに感じています。

今回のスタディツアーでは、ただSDGsの事や環
 境汚染について学ぶだけでなく、「人生」や「幸せ」
 についての問いと向き合う時間になりました。今まで
 無意識に他の方と比べてしまったり、普通とこれぞいい
 からほろれたいように生活していたのかなと考えさせられ
 ました。お二人含め、他にお話してくださった方々は
 自分の好きを見つけ、それを行うために行動に移

す。ことをやられており、ただただすごいなと感じて
 いました。しかしすごいだけでなく、
 自分に引きつけて考えること、自分の「人生」や「幸せ」
 を考えていくための道しるべになると感じました。私も
 お二人のように、卒業後の色々な人生を送りたいと思っ
 ています。みんなそれぞれが Impact Hero であり、
 という事を忘れずにこれから生きていきたいと感じて
 います。

プロダクトが落ちたら絶対にバリ島に行き会
 いたいです!!

改めて、4日間 私たちのために沢山の思考錯誤
 をし、素晴らしいプログラムを作ってくれてありがとうございます。

From しの(えり)

Tomo さん、Ako さん

～原点となる学びとの出会い～

4日間、ありがとうございました。ESD, 新しい価値, バリの関心から、今回のスクリーナーに参加を希望しましたが、その時の想像以上にたくさん価値ある出会いを用意してくださいましたことに、本当に感謝しています。

中でも特に、偉大な「母性」との出会いは、今も胸の奥深いところに残っている感覚があります。振り返ると、私がバリを知ったある物語も、「生命の女神」をテーマにしていたため、バリを舞台にこのように出会いがあったのは、必然の巧みにも感じています。

「本当の学び」に気づいたのも、大きな体験でした。

あの「ワクワク」は、私の幸せの1つかもしれないと今は思っています。世界の抱える問題を自らで見てきた方々からのインパクトも忘れ

られません。みなさんの知る魅力を体感してみたい、自分にはもっと知るべき事がある...とエネルギーを分けていただいた気がします。感情は存分に湧き起っていたので、次は自分で行動に移す番だなと思っています。今回抱ったモヤモヤも大切に探究してみたいです。

これまで何度も挫折した日記ですが、今回の学びを忘れたくない思いにつき重かかせ、改めて始めてみることにしました。毎日書く度に、「Be-Do-Have」(いつかではなくいつも)を想い出しています。今回得たものは、確実に私の立ちかえる原点になると思います。日々の守らんと自分の日常へのギャップを少しずつ埋めていけたらと思っています。

最後に、Tomoさん Akoさんはじめみなさんの、誠実な生き方、問題から目をそらさない正義感、世界を本気で変容させようとする行動力、そして、今回私が体験し得たような、

人生の原点にもなる学び、世界のすばらしさを現実に心が動く学びの場をつくらせてくださることに尊敬の念がやみません。

ぜひいつか直接お会いしたいです。

本当にありがとうございました。

Aska

2021. 9. 9

p.s. ピサゴレンを作ってみました。とても美味しかったです。新しいバリの魅力が目覚めました。



Tomosan, Akosan

「勇気と感動を与えてくれたスタディツアー」

4日間ありがとうございました。研修の中で、人々の生き方や考え方に触れ、「幸せ」について深く考えることが
できました。幸せとは何かという答えはないし、その感じ方も人によって違うけれど、大切なことは自分が「幸せだ」
と感じられることなんだと気が付きました。SDGsが「手段ならば、未来の私たちは、今ある生活が楽しくて
幸せ」と感じられることを目的にしたいです。目先の事実や予測ばかり重視していた私が、このようなことを
考えられるようになったのは、バリの皆さんの「幸せを感じられる生き方」をリアルに感じたからです。4日間、
人々の人生やバリのサステナビリティ、ライフスタイルなど、五感を使って最大限に学ぶことができました。
私が発言すること全てに対していじから向き合い、言葉をかけてくださったTomosan, Akosan、ゲストスピーカーの
皆さんのおかげで勇気ももらいました。コロナ禍の制限がある中、バリと繋がりがわりながら学びを深められたこと、
また、ツアーやツッキングなどのお楽しみを企画してくださったこと全て、本当に素晴らしい経験でした。
画面上でしかお会いしていないのに、同じ場所にいたかのような臨場感と安心感がありました。
部活漬けの私の夏休みに、沢山の勇気と感動をもたらしてくださり、ありがとうございました。この感動を
次は肌で体感べく、いつか必ずmanaに泊りに行きます!!

Aki

2021.9.5

Tomokoさん、亜子さん

4日間 本当に本当にありがとうございました。
この4日間は、気づかざるものがとても多く、改めて自分自身を見つめ直し、心と考えるきっかけになりました。

まず私は、みなさんのLife Storyを伺い、正直とても勇気が付けられました。

正直私は高校時代、バレー部監督を嫌い、そして学校にも通えませんでした。合唱団の副団長としてのプレッシャーで、今までステージに立つと鼻が詰まることを繰り返して来ました。
そんな自分を悔やみました。自分が一番好きなことかできない、嫌いなこと、得意なプレッシャーに押しつぶされ、勇気が湧かない自分に。
私はそんな自分の苦い過去をずっと苦しんで来ました。

しかし、みなさんのLife Storyを伺い、とても勇気ができました。
苦しいのは自分だけじゃない...と。
自分の辛い、弱さも含め、認め、理解し、生きているそんなみなさんの姿にとても圧巻されました。
そして、自然に自分の気持ちや素直な感情がそのまま伝わること強く実感しました。

そして、私はみなさんと過ごすことでの気づいたことがあります。それは、"強さは、弱さを認めてこそ生まれるものがある"と感じました。
99分、今の私は、弱さを認められず、周りに負けて生きていたと思います。

弱さを認めると、強さが生まれ、そんな生き方がBe do Haveへとつながっているのだと感じました。

そんなことを気がつかせてくれたのは、この4日間のバレー島ツアーのおかげであり、みなさんに出会えたことに感謝しています。

これからもそんな"出会い"を大切にできる人間になりたいです。
Earth Companyのみなさんには私の憧れです。
本当にありがとうございました。

三浦 さくら
Sakura

送った手紙に対して、Tomoさんからお返事をいただきました。

スタディツアーに参加してくれた8人へ

まずみんながプログラム終了後に書いてくれたお手紙について。

一言一言ゆっくり、自らの手で書いてくれた言葉を噛みしめて、心に受け入れました。一番の感想は、こういう仕事をさせてもらい本当に良かった！！です。自分の活動にやりがいを感じられることは長い人生においても限られていることですが、今回は確実にそれに当てはまる貴重な体験になりました。それは8人が誠実に、素直に、ポジティブに四日間向き合ってくれて、プログラム後も自分の体験を丁寧に、真摯に振り返ってくれたからです。

それぞれのお手紙の中で特に印象に残った言葉がありました

サラポー 「本当の学びとは何かわかった気がする」

さちか 「誠実に生きることの大切さ」

なつみ 「生きた知識を得た」

しの 「包み込んでくれるような暖かさ」

あすか 「確実に私の立ち返る原点」

りお 「Be do haveで生きるという人生の目標」

あき 「幸せを感じられる生き方をリアルに」

さくら 「そのままでいられることを強く実感」

お手紙を読んでいるとき、トルストイのある名言を思い出しました。

“Everyone thinks of changing the world, but no one thinks of changing himself.”

(誰もが世界を変えることを考えていますが、誰も自分自身を変えることを考えていない)

SDGs云々で視点が外(社会・世界)に向きがちですが、外を変えるには内からの変容が必要です。内から変わっていくと一言で言っても、もちろん否定から入るのではなく、みんながお手紙の中でシェアしてくれたように、自分の「そのまま」を受け入れ、個性溢れるそれぞれのBEを整え、自分の幸せを起点に、改善していきたいところに全力で挑むということの大切さをお手紙を読みながら思い出しました。

あの四日間はそれぞれ濃く力強く精一杯「生きる」ことに徹することができた時空でしたね。あのような特別な場を作ってくれた8人の参加者、永田先生、大学職員の方々、ゲストスピーカー、Earth Companyスタッフに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

バリか東京で会える日まで。

Earth Company共同代表
濱川知宏

むすびにかえて

8月30日から9月2日までの4日間、オンラインでバリ島と参加者それぞれの自宅を繋いで、スタディツアーが行われました。新型コロナウイルスの影響によって、大学の講義はほとんどがオンライン授業となり、外へ出かけることや人と会うことにも制約がかかる状況での開催でした。コロナ禍で、人とのつながりを思うように築けないことに悩む学生も多く、先生方も、深い学びをどのように生み出すか非常に悩まれていました。まさに、これまでの「当たり前」を見直し、新たな何かを見出すことに誰もが迫られているような状況でした。そのような中で、「SDGsのその先を一緒に思い描く」ことを目標に、私たちは学び始めました。新型コロナウイルスは、私たちに「見えないもの」への意識を高めさせ、世界の抱える問題の渦中に居るといった感覚を強めていました。

毎回、バリの様子をリアルタイムでレポートしていただくことから、スタディツアーは始まり、バリの色鮮やかな景色に感動し、香りや空気を目一杯想像しながら楽しみました。学びを始める前に、瞑想をすることも欠かしませんでした。目を閉じ、心を落ち着かせることの心地よさを知りました。

一つ一つのライフストーリーは、「豊かさとは何か」という問いを、私たちに投げかけました。世の中の矛盾に立ち向かう正義感に溢れた方々でしたが、語られるストーリーは温かく、安堵感をもたらしてくれるものでした。私たちは多くのことを知り、時に涙するほど心が揺さぶられるのを感じました。そして、持続可能な社会だけでなく自分自身の生き方についても考えさせられる価値に出会い、学生一人一人が4日間を通して徐々に自己変容しているということを実感しました。「SDGsのその先を一緒に思い描く」というスタディツアーの最終目標も、4日間で学んだ知識をもとに自分なりの目標を掲げ、私たちの未来に想いを馳せました。この4日間での学びとそこで起きた自己変容は、持続可能な社会を創るための大きな一歩となり、湧き出た感情を忘れることはないでしょう。

最後になりますが、スタディツアーの準備から報告書作成のサポートに至るまで惜しみなく私たちに寄り添ってくださったEarth Companyの濱川知宏さん、藤本亜子さん、濱川明日香さん、ゲストスピーカーとして素敵なライフストーリーをお話してくださった會田貴美子さん、望月小百合さん、コペルニクの中村俊裕さん、美味しいバリ料理を教えてくださいましたWayanさん、小道ライブやManaツアーをサポートしてくださったNurwantiniさん、そして聖心女子大学教職員の皆様、参加させてくれた家族の皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

2021年度聖心女子大学
バリスタディツアー参加者一同

SDGs スタディツアー報告書

インドネシア・バリ島で学ぶサステナビリティ

～SDGs のその先を一緒に思い描く～

2021 年 12 月発行 聖心女子大学現代教養学部教育学科

「発展途上国における教育問題 I」

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-3-1 永田佳之研究室

編集：2021 年度 SDGs スタディツアー参加学生一同

